

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中部西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	○確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 学習規律の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律の定着を図るために姿勢の改善に取り組んだ。机上を整理整頓して筆箱や教科書の位置を定めることで、全学年を通して姿勢の改善が見られた。 また、「目と耳と心で聴こう」を合言葉に、聴く大切さについても指導を続けた。聴き合うことを大切にすることで学び合いの授業に繋げることができた。 <p>(2) ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台タブレットが導入されたことにより、積極的に授業で活用をした。写真を撮って観察カードを作成したり、調べ学習をしたりした。また、長期休業中は自宅へ持ち帰り、タブレットドリルに取り組むことで、学びの幅を広げることができた。 <p>(3) 図書館教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き「昼の読書」の時間を確保したり「図書館まつり」の内容を工夫したりして、読書に親しむ機会を増やすことができた。 	
重点目標2	○心の教育の充実 ○生活習慣の向上 ○問題行動の未然防止	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権作文(6年)人権ポスター(5年)人権講演会(4年)に取り組んだ。また、代表委員会による「いじめ防止劇」を見て、全校児童がいじめについて考え、共有する場を設定した。これらは、人権意識を高める上で有効だった。 全職員で毎学期、研修会を持ち、違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。 <p>(2) 自尊感情・リーダー性を高める学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会で学年や委員会の活動を発表する機会を持った。日々の学習成果や委員会での活動を発表できたことが、自尊感情を高めることに効果的だった。 <p>(3) 「きらきらあいさつ」「きらきら金曜日」</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員を中心としたあいさつ運動を行うことで、あいさつする子が増えてきた。 美化委員会が中心となり、掃除の仕方や毎週末に重点的に取り組む掃除を放送で呼びかけ校内美化に努めた。 <p>(4) 落ち着いた学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級の様子を全職員が把握するため、隔週で情報共有の時間をとり、児童理解に努めた。全職員での指導に活かすことができた。 	
重点目標3	○健やかな体づくり ○命を守る取組の推進 ○健康に関する教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 「5分間走」「体力づくり月間」</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で持久走に取り組み、自分なりに目標を立て、ペース配分をすることで、どの子も最後まで学習に取り組むことができた。 体育委員会からの遊びの提案や、投げる力を付けるための場づくりを通して子どもたちは楽しみながら積極的に体を動かすことができた。 <p>(2) 防災教育・交通安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期1回の避難訓練を実施した。外の非常階段も活用し全校で屋上に避難することで、安全意識を高めることができた。 年間を通したふれあいパトロールや、登校調べ、交通安全教室(1年2年4年)を実施したことで、子どもたちの安全意識がさらに高まった。 <p>(3) 保健・食育指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、担任と養護教諭・栄養教諭が連携をして保健指導・食育指導を行った。朝ご飯を食べる児童が増えた。また、健康に対する知識を深めることができた。 定期的にコロナ禍の生活の仕方を発信した。内容は、手洗い・マスク・ソーシャルディスタンスの3点だが、発信方法を工夫することで意識化に努めた。 	

重点目標 4	○問題解決能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>問題解決能力を向上させる授業づくりー「話し合いたくなる課題」の追究ー</p> <p>(1) 児童の実態把握に努め、学習規律の徹底を図るため、返事・姿勢・机上の整理整頓を年間通して指導し定着を図った。 「聴く」ことの大切さと、「話す・聞く」ポイントを具体的に示して指導し力がついてきている。</p> <p>(2) 各学年で教材研究に取り組み、わかりやすい授業づくりに取り組んだ。児童アンケートでも、昨年度に比べて、「よくわかる・わかる」と答えた子の割合が高くなっている。</p> <p>(3) オンライン授業をよいきっかけとして、1人1台のタブレットを有効活用することができた。グーグルクラスルームの設定も進み、今後もさらに有効活用できるように研修を進め楽しく学び合うことができる授業づくりに取り組みたい。</p>	

重点目標 5	○学校参画委員会(コミュニティースクール)の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 参加参画型授業(春・秋の学校公開)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春の学校公開日に実施していた参加参画型授業は、密を避けるために講師と児童のみで行った。秋の学校公開日は、感染防止の工夫をすることで、地域・保護者・児童の三者による授業を実施することができた。 <p>(2) ふれあいパトロール</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方に児童の様子を見守っていただき、下校の安全確保ができた。 <p>(3) 学校支援員(ボランティア・学習アシスタント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習アシスタントの方に授業に入っていただくことで、コロナ禍の中、密を避けた授業づくりを実施することができた。ボランティアの方には、読み聞かせでは情操教育の支援、委員会活動では効率的な作業、クラブ活動では専門技術の伝達をしていただくことができた。 <p>(4) 創立150周年に向けての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 参画委員会を中心に、実行委員会を立ち上げ、記念式典等の計画を進めていただいた。児童もこれを機に、聴き取り学習等を行い、地域や学校に愛着を感じ未来に夢や目標を持つ取り組みをした。 	

2 改善方針

- ・長期化するコロナ禍ではあるが、学校生活の見直し、問題解決能力を向上させる授業づくりなどに取り組むことで、児童が学校を楽しんでいると感じたり保護者の教育活動に対する満足度を向上させたりすることができた。
- ・1人1台タブレットの導入により、タブレットを活用する機会が大幅に増え、児童のICT活用能力が一気に向上した。また、オンライン学習も一つの機会ととらえ積極的に取り組んだことで、教師の指導力もアップした。今後、家庭学習でのタブレット活用など、更なる活用能力の向上が求められることが考えられ、教師の指導力をより一層高める必要がある。
- ・人権学習では、今年度の活動を継続し、主体的に考え行動できる児童の育成を目指す。また、コロナ禍で不安を感じている児童や、それに起因する問題などにも敏感に対応していきたい。
- ・体を動かす機会が減っている児童の体力向上のために、体育の授業の充実を図る。また、運動量を確保するために休み時間にも体育館の開放や外遊びも推奨していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 浜田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	支え合う仲間づくり	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>授業づくりは仲間づくりとして、児童の困り感に寄り添い、自尊感情を持てるように取り組んできた。コロナ禍でも「できないではなく、できることを進めよう」を合い言葉に提案授業研究、仲間づくり研修や振り返りなどを効果的に実施し、全教職員の指導力の向上に努めた。保護者・児童アンケートの該当の項目では一定の肯定回答を得られた。一方、保護者アンケートの「お子さんはわからないことがあった時、『わからない』と訊くことができますか」の項目では24%の不十分回答があった。次年度も困った時に声を出せる仲間づくりを継続し、保護者には取り組みの様子を伝えていく。</p> <p>居心地の良い学校・学年・学級づくりとして、学級問題を自分事として考える学級づくり、月1回のいじめ防止対策委員会や調査後の教育相談の充実、児童の挨拶する力の育成、学年の運営強化に努めた。また、外国にルーツのある児童が多い本校の実態に対して全教職員で指導に取り組み、教職員や児童の人権意識の向上に努めた。児童がめざす行動の指針として、「心の計算」を示し全校や各学級で計画的にふりかえり、児童が見つめ直すことで思いやる心の育成に努めてきた。保護者や教職員アンケートの「いじめや差別を許さない心が育ってきていますか」の項目ではともに90%程度の肯定回答があった。次年度も低学年時から「人を支える仲間づくり」の指導の徹底を図る。</p> <p>保護者・地域への情報発信については、学校づくりの冊子、学校・学年・学級だより、HPの掲載など発信に努めてきた。保護者アンケートの「各種通信やホームページで学校や学級の様子は伝わっていますか」の項目では90%の肯定回答があった。</p>	
重点目標 2	聴き合い語り合う授業の展開	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>聴き合い、語り合う授業づくりとして、コロナ禍のためペアや班学習ができなくても、魅力的な課題を用いて5分間の導入をめざしたり、児童の困り感を取り上げる授業を行ったりして実現をめざした。提案授業及び事前・事後研修会を実施し、実際の授業をもとに話し合いを進めた。また、校内教職員が講師となり、教育課題を扱ったミニ研修会を月1回以上実施し、教職員の力量を高めた。教職員アンケートの「教職員が相互に授業を見合い、経験や考えを学び合い、授業力を高める」の項目では90%の肯定回答を、児童アンケートの「友だちの思いや考えをよく聞いていますか」の項目では96%の肯定回答を得ることができた。</p> <p>確かな学力の育成としては、学習状況調査、みえスタディ・チェック、NRTの結果を全教員で分析し授業づくりに活かしたり、朝の学習の充実を図ったりしてきた。保護者アンケートの「お子さんには読み、書き、計算をする力が身についていますか」の項目では18%のやや不十分回答となった。次年度も継続して取り組みを進める。</p>	

重点目標 3	学習・生活の支援体制づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>特別支援教育の推進として、月1回の校内特別支援検討委員会や職員会議後の報告、計画的な研修会を行ってきた。検討会では各学級の支援を必要とする児童の月の目標を示し様子を交流しながら、支援の検討をし全職員で情報共有を図った。教職員アンケートの該当項目では90%の肯定回答を得ることができた。</p> <p>学習環境の整備として、タブレットの活用、読書好きの児童の育成、家庭学習の充実、教室の感染予防の徹底に努めてきた。読書活動推進校として図書館や学級文庫の本を一新する環境整備に努め、図書館祭りや読書量の多い児童の紹介、委員会や教員によるおすすめ本の紹介などにより読書意欲の高揚を図った。児童アンケートでは読書量が増えた実態が分かったが、保護者アンケートでは十分な評価を得られなかった。次年度も児童の読書量を増やす取り組みを継続する。</p> <p>生活習慣の育成として、体力・運動能力の向上、清掃活動の充実、ルールやマナーを身に付ける取り組み、家庭への働きかけを行った。新型コロナウイルス対策を図りながら朝の学年分散かけ足やなわとび奨励期間を設定し、全校で取り組んできた。保護者・児童アンケートの「進んで運動をしたり、外遊びをしたりしていますか」の項目に対して保護者の33%、児童の37%が否定回答をしている。また、各児童委員会の活動を通じてあいさつや廊下を歩く取り組み、縄跳びの跳び方紹介、学校保健委員会による「コロナ禍の過ごし方」講座などを行ってきた。保護者・児童アンケートの「約束やきまりを守る姿勢が身についていますか」の項目では保護者の80%、児童の93%が肯定回答をしているがズレも生じる。次年度は全校指導の徹底、家庭との一層の連携及び情報発信の充実を図る。</p>	

重点目標 4	安全で安心できる学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>子ども・保護者の困り感に寄り添うために、子どもと話す機会を増やし解決策と一緒に考えて取り組んだり、保護者やSC、関係機関と連携したりして取り組みを進めた。保護者アンケートの「お子さんは気づいたことや心配なことなど学校に伝えることができていますか」の項目では60%の肯定回答にとどまった。次年度は教員と保護者との連携の強化をさらにめざす。</p> <p>教職員にとって働きやすい学校づくりとして、教材などの共有、校務支援システムや業務アシスタントの活用、働き方改革へのCSや地域・保護者の協力依頼を行った。教職員アンケートの該当項目では否定回答が多く、喫緊の課題である。教育活動の充実をめざすには時間も必要であり、働き方改革とのジレンマを抱えている。</p> <p>安全に対する意識の向上については、様々な災害を想定した各学期の避難訓練、警察と連携した不審者対応訓練と業後の研修会、校内教職員による防災のミニ研修会などを実施した。児童アンケートの「自分の命を守る方法を考え、理解し、身につけていますか」の項目では児童の96%が肯定回答をしている。</p>	

重点目標 5	地域の方に学ぶ	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>地域の教育力の活用としては、各学年で地域の人や四日市の企業を活用した授業を年1回以上行ったり、学校支援ボランティアを活用した外国語活動、読み聞かせ、クラブ活動を行ったりと、コロナ禍の制限はあるが取り組んできた。CSの委員の方には地域の人との連携調整役や学校教育活動への支援役を果たしてもらった。児童アンケートの「地域の方とともに学ぶ学習や活動は楽しいですか」の項目では児童の88%が肯定回答をしている。また、保護者や地域の方の学校教育への参画を進める取り組みも行った。保護者アンケートの「学校は、保護者や地域の方々のボランティア活動を計画的に取り入れていると思いますか」「保護者・地域の方が学校教育へ参画できる機会を、学校は進めることができていると思いますか」の項目では、わからないとの回答も多く、情報発信の一層の充実が課題となる。</p>	

2 改善方針

重点課題1：①「授業づくりは仲間づくり」を目標に、授業の中で子ども一人一人が大切にされる授業づくりをめざす。そこで居心地の良い学校・学年・学級づくりを学年単位の取り組みを核とする。PTA総会では学年経営案を保護者に公表し共有する。②外国にルーツのある児童理解を中心とする人権教育を継続して取り組み、居心地の良い学級の基盤づくりをめざす。また、Q-Uの活用や児童の細やかな情報交換も図る。

重点課題2：①子ども一人一人が大切にされる授業づくりとして、確かな学力が保障されているかを明らかとする校内研修を進める。「四日市モデル」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。②高学年で教科担任制を行う（英語は専科、学年で理科と社会を受け持つ）。

重点課題3：①全教育活動を通じたICT機器の積極的な活用及び家庭学習でのICT機器の活用を図る。②特別支援教育の充実を図るため、校内特別支援検討委員会の充実を図る。③学習環境の整備を図り、図書室の整備と読書活動の推進、家庭学習の定着を図る。④生活習慣の育成を図るため、学期に1回の家庭学習チェックを行い、家庭との連携を図る。

重点課題4：①SCや専門機関と連携、SSWの活用をすることで子ども、保護者の困り感に寄り添える学校づくりをめざす。②勤務時間内で効率的な職務遂行を図るために、学年や部会内における協力、教材や文書などの活用、各会議の効率的な運営に努める。③安全意識の向上のため、港中学校や地域防災組織との連携を図り、様々な災害に対応できる地域づくりをめざす。

重点課題5：①地域の教育力の活用を学校運営協議会（コミュニティースクール）主導で進める。②各学年が地域の人や学校支援ボランティアを活用する教育活動を学期1回以上行う。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、問題解決能力を育みます。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館祭りやペア学年での読み聞かせ、中庭図書館の環境整備など児童の意欲を高める取り組みを中心に、読書活動に全校で取り組むことができた。 ・ 言語活動の充実を図る取組に力を入れたが、特に「話す」「書く」の取組においては十分と言えず課題が残る。 ・ ペアやグループでの交流は活発に行えるようになったが、コロナ禍の中で制限があり、さらに伝え合い、聴き合い、考えを深める取組の必要性を感じる。 ・ ICT機器を活用し、意見交流をスクリーンに映し出すことで、黒板に時間をかけて書いていたことが大幅に短縮できた。また、普段あまり発表しない子の考えがわかり、子どもたちにとっても新たに気づきが生まれていた。 ・ 家庭学習の手引きにおいて、特に自主学習の仕方について発達段階に応じた取り組み方を記載する必要がある。 ・ 外国語科では、児童の意欲を高める掲示を行った。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成 一人ひとりを大切にし、認め合い・支え合う仲間づくりを進めます。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠足や運動会、縦割り班遊びなど、きょうだい学年を軸とした縦割り班での活動を行うことで、高学年のリーダー性を育むことができた。 ・ コロナの影響で制限がある中、学校行事や縦割り班活動など工夫して、異学年交流を行うことができた。 ・ 学習規律や生活規律の定着に向けて、毎月の目標達成への手立てを各学年で話し合い、月末には振り返りを行った。掲示物の工夫し、廊下歩行やトイレのスリッパをきれいに並べるなど、学校のルールを守ろうとする児童の意識を高めることができた。 ・ コロナ禍の制限はあったが、出前講座や自然教室、修学旅行、社会見学等に可能な限り積極的に取り組み、活動を通じて互いに認め合う機会を大切にしました。 ・ 学習規律や生活規律の定着に向けて、職員で共通理解を図り指導することができた。 	
重点目標 3	健康な心と体の育成 自分の心と体と健康や安全を意識し、行動できる子どもを育みます。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校で業間かけ足や業間なわとびに取り組み、体力向上につなげることができた。 ・ 運動会の種目や練習方法の工夫を行い、感染予防に気をつけながら取り組むことができた。 ・ 地震や津波を意識した防災教育を通して、「自分の命は自分で守る」など、児童が危機意識を持って各訓練に取り組むことができた。 ・ 教室や運動場での安全な過ごし方、遊び方の指導を繰り返し行い、児童の安全に対する意識を高め、けがの減少につなげることができた。 ・ 養護教諭による授業や、外部講師（助産師）の話を聞く機会を設けることで、自他の体や命を大切にする児童の育成をめざした。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実 一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行います。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー（SC）に授業参観してもらったり、児童のカウンセリングを行ってもらったりすることで、児童理解に繋げることができた。 ・不登校対策委員会を定期的に開催し、職員で情報共有することができた。 ・特別支援教育担当教員を中心に、教職員間で連携を図り、課題を共有して取り組みを進めることができた。 ・Q-U調査の結果を考察することで、児童理解やそれぞれの子どもたちへの接し方、日々の指導についての手立てなどを考え、教育の実践に生かすことができた。 ・職員間で常に情報交換を行い、児童の様子について多面的に把握できるよう心がけた。課題解決のため、職員が迅速に動ける体制づくりに努めた。 	

重点目標 5	地域とともにある学校づくりの推進 学校・家庭・地域が連携・協働し、塩浜地区の未来を担う子どもを育みます。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズ農園や図書館ボランティア、塩浜音頭愛好会、町探検など、地域や保護者の方の協力のもと、児童が多様な体験活動を行うことができた。塩浜地区の良さを見直し、再確認できた。 ・登下校の安全について繰り返し指導を行い、地域の見守りの方との連携を図りつつ、下校の見守りなど必要に応じて行った。 ・HP更新や学校だよりの発行にて、児童の様子や学校の取り組みを地域や保護者の方に伝えられるよう、継続して発信を行ってきた。 ・キャリア教育の一環として、様々な職業についている本校の卒業生から話を聞かせてもらい、自分の将来について児童が向き合う機会をつくることができた。 	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上 子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、教師力の向上を図ります。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業研修、ICT活用に関する研修（タブレットの効果的な使い方）を職員間で行い、日々の授業に活用した。 ・今年度は新型コロナウイルス感染予防に気をつけながら、学びの一体化の取り組み（来入児と1年生の交流会・人権コンサート・塩浜中文化祭での合唱発表）を行うことができた。異校種間での児童・生徒理解につなげ、指導の手立てを考える上で参考にした。 ・不審者訓練では、教職員でフィードバック研修を行い、危機管理に対する意識を高めた。 ・小規模校であるため職員数に限りがあるが、協力体制を組み、児童の学習活動を進めることができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習については家庭訪問等で「家庭学習の手引き」を活用し、保護者と共通理解を図って指導を進めていく。 ・児童の運動能力を高めるため、年間計画に基づき、系統立てた体育活動の推進を行う。 ・職員で学校の課題について現状を周知し、支援体制を組む等、職員間で迅速に動ける体制づくりを考えていく。 ・お互いの授業を参観し合い、同僚性を発揮して授業づくりについて積極的に学ぶ体制づくりを進める。 ・子どもたちにどのような資質・能力を育むべきかを職員が共通理解し、どこに重点を置いて取り組むべきかについて常に意識できるよう、カリキュラム・マネジメントの研修を行う。

自己評価書

四日市市立 羽津小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着～学び続ける力の育成～	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>1 <u>基礎的・基本的な知識・技能の定着</u> ①わかる楽しさが実感できる授業づくりに取り組む②内容を聞き取る力・読み取る力を高める ③少人数授業の実施等、きめ細かな指導を行う④短時間学習・授業始めを活用した基礎・基本の学習内容の定着を図る⑤保護者と連携し、家庭学習の習慣化を図る</p> <p>2 <u>問題解決能力の向上</u> ①子どもが問いを持ち主体的に学ぶ力を育てる ②思考を広げ深める力・表現する力を高める ③対話的に学び合う授業づくりに取り組む</p> <p>3 <u>特別支援教育の推進</u>①個に応じた指導の充実に取り組む②個々のニーズへの迅速に対応できるような、特別支援委員会の取組の充実を図る③専門機関との連携など、組織的に特別支援教育を進める</p> <p>【成果】</p> <p>○全国学力学習状況調査・みえスタディチェックやNRTでは、ほとんどが全国平均や県平均を上回った。今までの方策を継続し、更なる向上のため改善していく。</p> <p>○子どもが、めあてや見通しを持って探求し説明したり活用したりすることにより、一人ひとりの学びを深めることができた。ペアやグループでの活動やタブレットの活用が、自分の考えを表現する有効な手立てとなり、表現力の向上につながった。</p> <p>○サポートルームの研修を通して、特別支援に関する教職員の専門性を向上させることができた。定例の校内委員会を持ち、情報共有・協議を行って、学校全体で取り組めた。専門機関に相談し、助言をもらって、児童・保護者の支援に役立てることができた。</p> <p>【課題】授業確保のため、朝の「ぐんぐんタイム」の時間が、授業時間となった。基礎・基本の力を定着させるために、今後時間の確保に努めたい。タブレットを、さらに効果的に活用できるように授業改善に取り組み、思考力・表現力を培う。支援の必要性を早期発見し早期対応することに努めたい。</p>	
重点目標2	心の教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>1 <u>人権を尊重する仲間づくりの推進</u>①自分を大切にし、互いの違いを尊重する態度を養う②いじめや差別に気づき、許さない心を育む③いじめや体罰などの調査を定期的実施し、実態把握や早期対応に努める④生活ノートの充実を図る</p> <p>2 <u>規律ある生活の確立</u>①ルールやマナーを守る規範意識を育む</p> <p>3 <u>豊かな心の醸成</u>①あいさつをはじめとするコミュニケーション力を伸ばし、互いに思いを伝え合う力を育む②読書活動を通して、感性を磨き、創造力を豊かにする③力を合わせて最後までやり遂げる粘り強さを育む</p> <p>【成果】</p> <p>○毎学期のいじめ調査により、いじめにつながりそうな些細な出来事も早期発見し、対応ができた。いじめを題材にした授業を全学年で行い、「いじめはしてはいけない」という意識づけができた。</p> <p>○「羽津っ子のきまり」や道徳の授業で、ルールやマナーを守る規範意識を育むことができた。</p> <p>○児童会活動とタイアップしながら、あいさつ運動をすすめ、子ども発信の挨拶で意識づけができた。</p> <p>【課題】</p> <p>今後も児童の様子の変化をよく観察し、道徳・人権学習と具体的ないじめ防止活動を関連させて、差別やいじめを防ぎ、早期発見に努める。挨拶は、朝、帰りだけでなく、授業の前後、食事時、家庭内、登下校時など生活の中で自然にできるよう家庭や地域と連携して指導する。</p>	

重点目標 3	健康・体力と安全意識の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <p>1 健康の維持・向上①生活習慣を見直し、健康を維持・向上する力を育む②食育を推進する</p> <p>2 体力・運動能力の向上①運動好きの子どもを育む授業づくりに取り組む②体育科授業や体育的行事、日々の遊び等を通して体力・運動能力の向上を図る</p> <p>3 安全な学校づくり①生活に必要な安全意識を育む②食物アレルギー管理を徹底する③避難訓練や防災学習を充実する④危機管理意識を高め、安全・安心な学校づくりに取り組む</p> <p>【成果】</p> <p>○歯磨きカレンダーにより歯磨きの習慣化につなげた。姿勢に関する保健指導により良い姿勢を保つ意識を高めることができた。保健だよりや委員会活動を通して健康な生活について啓発することができた。各学年、学期に1度食育の授業を行うことで系統的な指導をすることができた。</p> <p>○体育授業や新5分間運動に関するミニ研修会を行い、体育の授業改善に取り組むことができた。体育の指導内容を共有し系統的な体育指導につなげた。コロナ禍においても、感染症対策を講じながら体育的行事を行った。手洗いの指導を徹底することで、子どもの様々な運動遊びの機会を保障することができた。</p> <p>○日常的な指導に加え、避難訓練、交通安全教室、防犯教室、不審者対応訓練（教師対象）などを行い、児童、職員ともに意識と対応能力を高めることができた。誤食のないように情報共有を徹底することができた。施設や遊具の点検を確実にし、修繕につなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・コロナ禍の影響もあり、体力が低下している。引き続き、調査を続けて検証したり体力向上の取組を行ったりしていく。また、インターネットやゲームの時間が増えている。運動機会を増やすため、引き続き家庭とも連携して取り組む。</p>	
重点目標 4	家庭・地域との連携の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <p>1 開かれた学校づくりの推進①コミュニティスクールの推進②教育活動アンケートをもとに、学校運営協議会と連携した学校評価を行い、学校づくりを進める③学校だよりや学年だより、ホームページ等による情報発信の充実を図る</p> <p>2 地域・家庭との連携の推進①地域や保護者の学習支援ボランティア（読み聞かせ等）やゲストティーチャーの活用を進める②羽津の郷土や萬古焼など地域の特色を活かした地域学習・体験活動に取り組む③地域・家庭と連携し、登下校時の安全確保を図る</p> <p>【成果】</p> <p>○地域・家庭の協力で、朝の登校は安全にできている。</p> <p>○地域や保護者の学習ボランティア方に、読書週間における読み聞かせや社会や総合的な学習の時間のゲストティーチャーとして活動していただくことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>下校時も登校時のように自分たちで交通ルールを守りながら安全に帰宅できるようにしていく。感染症予防のため、遠足・社会見学・町たんけんなどの校外学習やゲストティーチャーから学ぶ学習が当初の予定通りには実施できなかった。感染症対策をしっかりと行い、地域に根差し保護者と連携する取組を今後も模索し実行していく。</p>	
重点目標 5	学校の教育力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <p>1 確かな教師力の育成①校内研修を充実させ、教職員の能力向上を図る②各種研究会に参加し研鑽を積み、指導力向上を図る③「学びの一体化」により中学校区の連携を図る</p> <p>2 教職員の学校づくりへの参画①学校教育目標の具現化に向けた具体的な取組の焦点化と責任の明確化を図る②各指導部で改善活動に取り組む</p> <p>3 各種会議や業務の改善・効率化①職員会議、各種会議の効率化を進める②定時退校日を実効あるものにする③働き方を改善し、総勤務時間の縮減を図る</p> <p>【成果】</p> <p>○教育支援課による課題づくり研修会やサポートルーム研修会を実施したり、研修会の形態を工夫したりすることにより、学びの多い研修を進めることができた。</p> <p>○学校づくりビジョン重点1を中心に5つの重点を関連づけ、よりビジョンを意識した提案・実施ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>定時退校日の設定などにより、勤務時間の管理を一人一人が意識することはできたが、全員が目標を達成することは難しかった。時間外労働の削減など働き方改革を今後も課題として進めていきたい。</p>	

2 改善方針

・児童アンケート「学校に来ることが楽しい。」では、楽しいと感じる児童が93%となった。今後も学ぶ場・楽しみ場・安心できる場としての学校の役割をしっかりと果たしていく。また、学校生活に対しての不安や悩みを抱えている児童もいるので、一人一人の児童としっかりと向き合い、適切な支援をしていくとともに、児童が活躍できる場や認められる場となるような授業や行事、学級づくりに努めたい。

・「あいさつをきちんとしている。」では、継続的な取り組みを続けてきたことで、児童アンケートでは90%以上の肯定的な回答が5年間以上続いている。しかし、保護者アンケートの回答では肯定的な回答は90%に届かず、児童と保護者の意識に差がみられる。相手を認め、大切にしている姿勢を表すものとして、繰り返し挨拶の指導をしていく。また、学校だけではなく家庭地域で日常的に身に付けていくものなので、引き続き家庭や地域と密接に連携した取り組みが必要である。

・今年度はコロナ禍にあり、学校公開などの保護者参加の行事の機会確保が難しかった。保護者や地域の人々の学習参加や地域に学ぶ学習の推進について、今後も、感染症対策に努めつつ、地域性を生かした教材の開発に努めていく。

・専門機関と連携を取って、情報共有したり研修を行ったりして、教職員の特別支援教育に関する専門性をさらに高めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 海蔵小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	○毎日の授業の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○授業を通じ、子どもたちが学ぶことの楽しさや大切さを感じ、確かな学力やより広く深く学ぼうとする意欲を高める。 ○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするるとともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。</p> <p>【成果と課題】 ○授業の中で「子どもにつけたい力」を明確にし、子どもたちに「めあて」として示すことで、より注意深く子どもたちを見つめ、具体的な手立てを検討し、子どもの実態に即した指導を進めることができた。 ○めあてや課題を提示したことで見通しを持って、「わかる」「できる」と実感している子が増えてきた。 ○ICTを活用した指導を進めており、今後ますますの「見える化」「構造化」に役立てていきたい。</p>	
重点目標 2	○道徳的実践力と自尊感情の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在と感じる）を高める。 ○仲間づくり研修会の実施 ○四同研の提案や研修会への参加 など</p> <p>【成果と課題】 ○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「仲間づくり」を進めることができた。仲間づくり研修会を通して学年の教師全員で子どもを理解し、自尊感情を高められるような取組を行うことができた。 ○効果的な道徳科の持ち方について、提案授業や職員研修を行った。各学年の実践を交流し、今後もより効果的な実践力につながる指導に結び付けたい。</p>	
重点目標 3	誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ○自分からあいさつ・礼をする習慣の育成 ○授業に真剣に取り組む態度の育成 ○きまりの順守（整った身なり・体育の服装・名札の着用・右側歩行） ○そうじの取組（黙って、進んで、最後まで） ○仲間づくり（相手の気持ちに寄り添った言葉づかい）</p> <p>【成果と課題】 ○学校のきまりをまとめた冊子「海蔵っ子になろう」をもとに、昨年度より「あいさつ」と「そうじ」に重点を置き指導を続けた結果、前向きに取り組む児童が増え、教育アンケートで「がんばった。」という数値が上昇した。 ○家庭学習の手引きをもとに、家庭への協力と児童への指導を続けているが、なかなか定着しにくい現状がある。今後も、家庭との連携や啓発を続けていく。 ○学習支援ボランティアとして、保護者や地域の方の協力を得て、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。</p>	

重点目標 4	教職員の研鑽と協働	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりが、年1回以上の研究授業を行い研鑽を深める。 ○「自己目標設定シート」を作成し、能力、意欲、組織力の向上を図る。 ○生徒指導、特別支援委員会等による情報共有と組織的、効果的な対応 ○学年・全職員の共通理解による一致・連携した指導 ○教職員が連携し生き生きと効果的に働くことのできる環境づくり 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内研修では「きき合う力」の育成に力を入れ、発問や場の設定等の工夫により、ふりかえりの中に、他者の考えに対する自分の考えを書く児童が増えてきている。 ○研究授業では、事後研修会を大切にして、授業改善につなげている。 ○ICTに関する職員研修や実践交流を年間計画に位置付けて継続して行った。授業に効果的に活用できる場が増え、子どもたちの主体的に学習に望む姿勢が向上している。 	

重点目標 5	家庭・地域との連携	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクールの推進 ○学びの一体化の推進 ○学校からの情報発信・啓発 ○地域の人材、素材を活用し、地域に根差した学習活動の推進 ○学習環境整備の推進 ○家庭学習習慣の定着 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の登下校時の様子から、地域の方へのあいさつが不十分であるという課題が把握できた。そのため、児童会活動や地域の方との交流を進めるなど、子どもたちが進んであいさつできるよう、より一層の指導の強化を図った。 ○地域や家庭の協力を得て、コロナ禍の中で工夫して運動会や海蔵っ子走ろう会等の学校行事を進めることができた。 ○登下校の安全や下校後の安全について更なる指導や見守りが必要な現状があるため、地域や家庭と連携して取組を進めたい。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや課題を提示することで見通しをもたせ、授業で分かったことを振り返ることができる活動を取り入れた授業づくりを今後も研修として進めていく。 ・子どもの意欲を喚起するようめあてや課題の工夫を更に行うとともに、話したりきいたり伝え合ったりする場を十分に保障する。 ・ICTの活用を含め、個別最適化した学びにつながる多様な課題の設定や提示に力を入れていく。 ・指導者の肯定的な評価によって、子どもの学習意欲を喚起するとともに、自信とやる気をつけさせていきたい。それを繰り返すことによって、子どもたちの自尊感情・自己肯定感の向上につなげていく。 ・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等による家庭への啓発を続ける。 ・朝の読書では、読書のよさや面白さを実感できるように、読み聞かせ、おすすめの本紹介、図書館まつりなど図書館教育を充実させていく。 ・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、週に1度の打ち合わせで情報共有を図り、全職員による統一した指導と児童会を中心とした子どもによる活動を引き続き進めていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 ○聴き合える学習集団の育成 ○学習規律の徹底 ○問題解決能力の向上をめざした授業実践 ○少人数授業 ○外国語活動専科教員 ○朝の学習 ○教材の工夫とICT機器の活用 ○「家庭学習のてびき・すすめ方」を活用 ○読書活動</p> <p>【成果と課題】 ・各学年から毎月、聴き合う関係づくりについて交流し、聴くことを意識させた授業を通年実践してきたことで、聴く姿勢の意識が高まった。またICT機器を使用した学び合いを効果的に取り入れることができた。 ・「問題解決向上のための5つのプロセス〈四日市モデル〉」を授業研究で積極的に使用することで、普通の授業でも「ねらい」に基づいた指導を行うことができた。 ・学校図書館の利用を活性化させるために、ビブリオバトルを取り入れ、本に親しむ実践を取り入れた。来年度は、本に親しむための具体的な取り組みを学年に応じて具体策を考え実践していき、本に親しむ児童の育成を図りたい。 ・家庭学習に対するアンケートで「各学年×10分」を目安にしてきたが、高学年になるほど、家庭学習の目安の時間に到達している児童が少なかった。来年度は、家庭学習の在り方について児童、保護者にさらなる説明をしていく必要がある。</p>	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 ○特性、成育歴、家庭環境等の把握と個に応じた対応 ○日常のかつ地域人材や外部講師を活用した人権教育 ○アンケートや日常の観察、教育相談等の機会を通して、問題の早期発見・早期対応 ○校内外生活のルールの徹底指導 ○学校生活への適応に課題がある児童についてSCや専門機関等との連携と個に応じた対応</p> <p>【成果と課題】 ・「いじめアンケート」や「学校満足度調査（Q-U調査）」を実施し、いじめ等の早期発見・早期対応に努めた。また、生徒指導上の問題は、職員間で情報共有・対応に努め、組織全体で対応を行い、児童に対するきめ細かなケアに努めることができた。今後の課題としては、0次対応への意識向上、更なる職員間の報告・連絡方法の徹底が挙げられる。 ・学校評価アンケートでは、昨年度に比べてルールやマナーへの意識向上について肯定的な結果が見られた。特に、「あいさつ」の項目では、児童保護者共に全体で約5%上昇、「ベル着」については、約9割の児童が時間を守れていると回答している。児童会が中心となり、「あいさつ」「ベル着」「掃除」「いじめ防止」「コロナ感染対策」などの啓発運動を継続的に取り組んだことが、肯定的な結果につながったと考えられる。今後は、更に「社会的なスキル」として身につけることの良さを指導していくことが必要と考える。 ・人権を柱とした校内研修の充実により、課題を持つ児童への関わり方、児童同士をつなぐ聴き合いの場の設定など、様々な働きかけを行うことで児童の様子の変化が感じられるようになってきている。</p>	

重点目標 3	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <p>○5分間運動の定着と、めあての明確化 ○「跳び箱」「鉄棒」「持久走」「縄跳び」強化月間の実施 ○本校の体力・運動能力テスト結果の「強み」「弱み」を踏まえた改善 ○防犯・防災訓練、交通安全指導の実施 ○養護教諭、栄養職員と連携した保健指導や「食」の指導の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き体育的行事が中止や縮小になるなかで、でき得る限りの感染症対策を講じながら取り組んできた。体育科授業でも、安全安心を基本に、できる活動を厳選し、年間計画を入れ替える等の工夫をして取り組んできた。 ・学校としてまとめた「新しい生活様式」に沿って指導し、三密の回避や手洗い、マスクの正しいつけ方を徹底することで、感染症予防や健康への意識が昨年度以上に高まったと考えられる。 ・学校保健委員会では、「姿勢」について学習する機会を設けた。家庭で過ごす時間が長くなり、学習に向かう時の姿勢が心配である。なぜ姿勢を正しくした方がよいのか、どのようなよいことがあるのかを、校内の保健委員会児童による話や動画を交えて啓発することによって、意識する児童が増えた。 ・感染症対策をするなかで調理実習や給食指導を行い、今できる範囲で指導の充実を図ることができた。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくりの推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <p>○地域資源・人材を活用した教育活動の工夫・充実（地域資源、人材をいかした授業づくり、ゲストティーチャーの活用） ○三錨コミュニティスクールとの連携（地域、各園校、関係機関との連携による途切れのない教育の推進） ○学校情報の適切な発信と公開（教育活動の内容や情報発信の公開、発信）</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じ、地域人材を活用した授業を「理科」「書写」等の学習で行うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流活動が制限され、防災学習など十分な活動ができなかった。 ・コミュニティスクール「三錨CS」委員を中心に、行事や活動内容の精選および感染症対策を講じての活動を通じて、学校活動への理解と現状に応じた連携を進めることができた。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 ○学び合う授業の追求（研修の日常化、一部教科担任制の導入） ○「学びの一体化」の推進（「授業づくり」「なかまづくり」「生活づくり」に重点を置いた研修の充実） ○特別支援教育の充実（個々の教育的ニーズに応じた教育の推進） ○働きやすい職場環境の推進（総勤務時間の縮減、同僚性の構築）</p> <p>【成果と課題】 ・学年団を中心に教材研究、授業研究に努め、91%の児童が保護者に「授業が分かりやすい」と伝え、89%が「学校が楽しい」とアンケート回答するに至った。 ・学習や人間関係に課題やしんどさを感じている児童に寄り添い、家庭とも連携しながら個々に応じた指導を継続していかなければならない。</p>	

2 改善方針

<p>【人権指定事業を核にした授業づくり なかまづくり】 県の人権指定事業（2年目）推進に努め、研修による教職員の人権意識の向上を図る。また、なかまづくりを核とした学級経営を学校全体で行う。</p> <p>【ICTを活用した授業づくり】 研修を断続的に行い、教員のICT機器活用スキルを高める。タブレットを活用した授業研究を取り入れることで、児童の授業参加意欲や学力の定着が図れるよう取り組んでいく。</p> <p>【読書活動の推進】 保護者・児童アンケートの結果から、学校で進んで読書する児童が5ポイント増加し75%に増加した。しかし、家庭での読書は50%に留まっていることから、さらなる取り組みの必要性が示唆された。保護者への読書推進啓発を行うとともに、新刊本の購入方法の工夫（ブックバイキング方式）やび図書室の椅子整備など、読書環境を整え、子どもが図書室に足を運び、本に触れたいような機会を設けていく。</p>
--

自己評価書

四日市市立 富田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力の定着のために、漢字習熟・計算習熟、朝学の取り組みを行った。学年配当漢字の90%以上が書ける児童は、全校児童の98%(2学期)となった。計算については、学年重点計算問題の習熟に取り組んでいるところである。 ・各教室で日常的にICTの活用を試み、長期休業中にはタブレットを用いた家庭学習にも取り組んだ。タブレットの活用について職員研修を行い、学力向上への効果的な活用法を共有した。また、各学年で身に付けさせたいICTスキルを設定し、系統化して取り組んでいる。 ・学調については、結果から本校児童の特徴を把握するため、全職員で問題を解いた。また、学調・みえスタディチェックで把握した間違いやすい問題について、下学年の学習時期を明らかにし、授業改善に努めている。さらに学校として、朝の学習を活用した重点指導週間を設け、間違いやすい問題について指導を行った。今後も継続的に繰り返し、指導改善を行っていく。 ・読書の取組については、昨年度の学校アンケートの結果にて、家庭で読書に取り組む機会が少ないことが明らかになったので、今年度は家族読書の回数を増やし、家庭での読書の啓発を促進した。その結果、読書に対する肯定的な評価が、児童9.1%増、保護者9.7%増という成果が見られた。 ・3年生以上での算数習熟度別少人数授業を行い、毎学期指導の検証を行い、授業改善を行った。児童アンケート(2学期)では「よくわかるようになった」児童の増加・「わかるようにならなかった」児童の減少という成果が見られている。 	
重点目標2	心の教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会の毎朝のあいさつ運動により、あいさつをする児童が増えた。 ・廊下歩行については、見かけたときに指導は継続してきたが、まだまだ廊下を走っている児童が見られる。委員会等を活用し、児童の自主的な発信ができるような手立てが必要だと考えられる。 ・きまりを基にした指導については、年度当初に共通理解の文書を提案することで共有を図った。また、何か課題があればその都度、生活指導部で検討し、職員会議等で提案することで共通した指導ができるようにしてきた。 ・年2回の教育相談、年3回のいじめ調査、4年生以上を対象とした年2回のQ U調査により、各学級や児童の実態を把握し、その結果を学級経営に役立てるとともに、学年間及び職員間で児童の共通理解を図り、対処した。 ・毎月の職員会議の「児童情報交換」にて、各学級や児童の実態を報告し、職員間での共通理解を図るよう努めた。いじめ事案が発生した場合には、組織的に対応し、解決に向けて取り組んだ。 ・月1回を目安に特別支援委員会をおこない、特別支援C oを中心に、支援や配慮の必要な児童について、様子や実態を関係職員で把握し、手立てについて話し合い、連携を図った。 	
重点目標3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染の防止を行いながら、運動会(オンライン配信)をはじめ、かけ足の取り組み、長縄の取り組みなどを実施した。しかし、体力向上には繋がらなかった。そのため、体育の授業改善に取り組み、運動の日常化についての考えを教職員で共有し、指導していきたい。 ・性教育を系統立てて指導できるように各学年で計画し、第4学年では外部講師を招き「命についての授業」を行うことができた。 ・今年度から、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査を全校児童がすべての項目を実施した。結果を分析し、個人記録を残していくことで、今後の体力向上に向けた取り組みに活かしていく。 ・学校栄養職員を中心として、保健室前の掲示物作成や給食だより配付の取り組みを通して、食の大切さを伝える活動を実施することができた。 ・養護教諭を中心として、保健室前の掲示物作成や保健だより配付の取り組みを通して、継続的な保健指導を行うことができた。感染の予防、歯磨きや早寝早起きなどの学習も積極的に指導することができた。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上をめざした授業研究の推進として、年度当初に個人で今年度の研修計画を設定し、強化すべき取組や重点取組を明確にした。また、授業改善の視点として「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれを実現できた子どもの具体的な姿について年間を通して考察する中で、富田小学校が目指すべき子どもの姿を明確にすることができた。また、外部講師を招いて「めあてとふりかえり」の重要性について研修を深めることができた。 ・今年度も指導主事を招へいしての提案授業研究を全体授業研、学年部授業研、学年授業研で多く実施した。校内の教員だけでなく、中学校区教職員や指導主事から多くの意見や助言をいただき、それを記録に残し、全教職員で共有することにより、さらなる授業改善に生かすことができた。 ・教職員の資質向上の取組では、年3回の人権・同和教育推進研修会を実施し、教職員の人権感覚を養う取組を行った。なかまづくり研修では視点児を設定し、Q U調査も活用しながら手立てが有効であったかを討議した。また、差別を許さない子どもを育成するために、コロナウイルスに関わる差別事象や、障がい者、言葉によるいじめなどを取り上げた授業を全てのクラスで実施した。 ・学びの一体化による連携として、11月末に各学年1クラスの公開授業を行い、子どもたちの授業の様子から保幼小中それぞれの立場で意見交流を行った。状況判断から中止する取組も多くあったが、公開授業や人権フォーラム、乗り入れ授業などに工夫しながら取り組み、連携を図ることができた。 	

重点目標 5	組織的な指導体制の構築	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を行うために、算数科において少人数授業を行ってきた。今年度から3～6年生において学年を習熟度別に6つのクラスに分けて少人数授業を実施した。基礎①グループは5人程度と極めて少数にし、より個に応じた指導が行いやすい体制を作った。特に、学年に応じた算数の学習内容が身につけにくい児童へ適した指導をすることで、学校全体として児童全員に学習内容を確実に身につける体制を作ることができた。 ・児童の学力向上を図るため、高学年において教科担任制を導入し授業を行ってきた。教科指導の専門性を持った教師が指導を行うことで、授業の質の向上にもつながっている。また、複数の教師が関わることで、多面的に児童を見ることができ、よりきめ細やかな指導につながっている。 ・校内特別支援委員会を定期的に行い、児童の情報交換及び指導体制についての検討等を組織的に行ってきた。特に、通常の学級に所属する特別に支援を要する児童についての指導について、関係機関との連携を適切に行い、学校全体での特別支援教育を推進してきた。 ・学校業務の見直しを進めるとともに、業務アシスタントを適切に活用し、教職員が本来の任務に専念できる学校運営を進めることができた。 	

重点目標 6	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して学習習慣を育成するため、今年度も「家庭学習の手引き」を保護者に配付し、家庭学習の充実に努めてきた。通信等での自主学習ノートの紹介、家庭学習カードでの保護者による確認や家庭読書の協力依頼なども行ってきた。情報を共有しながら取り組みを進めていることで、多くの保護者に協力を得ることができ、児童の家庭学習習慣が定着してきている。家庭学習が定着しにくい児童も一定数いるため、継続的に連携、指導が必要である。 ・地域の伝統行事である「くじら船」の学習をはじめ、伝統文化の学習やクラブ活動などの活動において、地域の方を招き有意義な学習活動を行った。 ・学校の様子をより多くの方に知って頂くために、「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等を活用してより多くの情報を発信している。一方で、個人情報保護については全職員の共通理解のもと、十分配慮していくことが今後も必要であると感じている。 ・地域の「ひと、もの、こと」との出会いを大切に活動を進めるため、学年ごとに活動を計画し、ゲストティーチャーを招いたり、地域に出て見学したり話を聞いたりして学習を進めた。学んだことを掲示物にまとめて全学年に発信したり、発表会を開き他学年に発信したりする学習も行った。地域の方の話に興味を持ち、それをきっかけにさらに深めていこうと意欲を示す様子が見られた。今後も今のつながりを大切にしたり、新しく地域の人材を発掘したりして活動を充実させていきたい。 ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年通り実施できなかった活動や行事もある。地域とのつながりを今後も大切にしていくために、新たな取り組みの形を工夫しながら、家庭・地域と学校との連携をさらに進めていきたい。 	

2 改善方針

学校教育力

・新型コロナウイルス感染防止の観点から、家庭地域との連携や教職員の校外研修会参加が難しくなっている。その中でできることはないか考え、ZOOM等ICT活用による校内での研修会をさらに充実させ、指導力の向上につながるような体制をさらに整えていく。

学力

・少人数授業の効果的な指導体制について、児童の実態に応じて、より適切かつ適数のコースを設定し、どの児童も主体的で学習の成果を実感できる取り組みとしていく。

・ICTを活用した学力向上につながる効果的な活用方法について、より多くの職員が実践できるよう研修を行う。

・朝学、漢字・計算90%の取り組み内容について、検討を行いながら、児童の学力の底上げに努める。

体力

・体力向上につながる授業づくりを目指すために、来年度も体育の授業改善研修会を行う。

・運動会をはじめ、かけ足の取り組み、長縄の取り組みなどの取り組みを、より充実した取組にしていくために、取り組み方について検討を行う。

組織的な指導体制

・高学年において教科担任制の運用を進め、学校全体で効果的な指導体制を整えていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 日永小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	実社会で活用できる汎用的能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>基礎学力の定着を目的に、毎日10分間の朝学習時間を確保した。また、自ら学ぶ力をつけるため、共通の宿題に加え児童が自身で課題設定をして取り組む家庭学習（プラスワン）を実施した。プラスワンにおいては、グッドモデルを掲示等で紹介し、学習方法を児童同士が参考にできる場を作り、学習意欲の向上を図った。</p> <p>外国語活動においては、専科教員と担任がTTで授業にあたるとともに、HEFや中学校英語教諭の乗入指導も活用し、コミュニケーション力育成を図った。</p> <p>学習に集中できる環境づくりの一環として、授業開始チャイム時の着席、学習用具の準備を徹底する取組を続けている。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>各学年での情報共有をはじめ、週に一回の学校全体での情報共有や管理職との連絡・相談等を通して学校として組織的に対応する指導体制を構築することができている。なかまづくりに焦点を当てた年3回の研修会を通し、継続的に学級・児童の情報交換、実践交流することで、人権教育推進に努めた。また、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を意図して、年2回のQ U調査と分析、毎学期ごとのいじめ調査と児童への教育相談機会を設けた。</p> <p>成果として、児童アンケート「楽しく学校生活を送れている」項目の肯定的回答が93%、保護者アンケート同項目でも100%の肯定的回答を得た。児童の自己肯定感につながる「自分には良いところがある」項目が昨年度より5%下がった。</p> <p>全教育活動を通して人権教育を進めているが、児童間の誹謗中傷やSNS上のトラブル、いじめは発生しており、今後も組織的かつ迅速に対応していく必要がある。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>体育科において「運動することの楽しさ・目標やねらいをもってできたという達成感」を味わうことに重点を置いて、授業改善を進めた。体育の専門的知識・実践力のある教職員を中心に研修会を開き、児童が達成感を感じられる授業の進め方の検討を継続して行った。</p> <p>心身の健全な成長を願い、養護教諭による「命を大切にする」保健学習、栄養教諭による「バランスの取れた食事の大切さ」をねらいとした食育の学習、学校三師と連携した学校保健委員会を計画的に進めた。</p> <p>コロナウイルス感染対策のために活動に制約がかかることもあってか、体力テストの結果がほぼすべての種目で一昨年度より低くなっていたことが課題としてあげられる。そのため、体育の授業でできるだけ体を動かす時間を確保するとともに、体育委員会活動として全校に外遊びを呼びかけるなど、児童が主体となって運動する活動をさらに進めていく必要がある。</p> <p>心身のバランスが取れた成長を意識できる児童が増えてきている一方、生活リズムが不規則で、頻繁に遅刻するなど基本的な生活習慣が身につけていない児童が少なからずいる。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>「読んだことをいかして、論理的文章が書ける子どもの育成」を主題として、国語科を中心に授業研究を進めた。校内研修を充実させるため、三重大学より守田教授を招聘し、指導・助言を受ける機会を設け、授業改善と教職員の資質の向上に努めた。研修を積み上げてきた成果として、論理的文章が書ける児童が増えてきている。また校内研修を通し、学年に応じた系統的指導内容を構築できている。</p> <p>ICT活用のスキルアップを目的に、教育支援課指導主事やICT関連に精通している教職員から、機器の操作方法や活用例を学ぶ研修会を持った。特に、校内研修では、自宅学習になった際に対応できるようにタブレット活用について学び合う機会を多く持った。また、今年度にタブレットが一人1台配付されたことにより、授業での子どものタブレット活用の頻度や、能力が目覚ましく向上した。</p>	

重点目標 5	家庭・地域とともにある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>学校からの情報発信をHP・学校だよりを中心に行った。HPにおいては、毎日2～4の学習活動や学校生活を紹介し、児童の様子を詳しく伝えてきた。</p> <p>地域見守りボランティア約90名に登下校時間を知らせ、地域・PTA・学校の三者で登下校を見守り、児童の安全指導に努めた。</p> <p>コミュニティスクール運営協議会を年3回開催（5回の計画）して、8名の委員から学校運営や教育活動に対する意見を聞き、改善点を見出す機会とした。</p> <p>成果として、保護者アンケート「学校の様子を保護者・地域等に知らせた」項目の肯定的評価が97%、「学校は必要に応じて相談や連絡を行っている」同95%の高評価につながった。</p> <p>コロナ禍の中、PTAとも連携して、密を避ける等感染拡大防止策を講じることで、授業や行事を可能な限り公開することができた。また、六年生を送る会を撮影、動画配信して、保護者の要望に応えることができた。</p>	

2 改善方針

- 児童が「わかりやすさ」「楽しさ」「達成感」を感じられるように、実態を丁寧に把握したうえで、つけたい力を明確にした授業改善に取り組む。
- 児童が人権課題を身の回りの出来事とつなげ、自分事として考えられる人権学習を進めることで、人権を尊重する態度を伸ばす。
- 家庭への啓発を進めるとともに、保健学習、食の学習を充実させ、児童が自らよりよい習慣とリズムで生活しようとする実践力を養っていく。
- 授業研修と教職員同士の授業実践交流を積極的に進め、ベテラン、中堅、若手が共に学び合うことで、教職員の資質向上を図る。

自己評価書

四日市市立 四郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○年度初めのかけ算と漢字テストで、児童の基礎学力の実態把握を行い、タブレットドリル・プリント等で、朝学習や授業で全学年で取り組んだ。朝学習では学習の下支えのため、火曜日にコグトレ（認知能力トレーニング）を行ってきた。家庭学習についても、漢字・算数・プラス1（自主学习）・作文（週1回）・チャレンジプラス1（週1回）に継続して取り組んでいる。今年度のチャレンジプラス1では、読解力をつける問題や学力・学習調査などで課題となった応用問題に取り組んできた。今後も学力の定着を図るため、一人ひとりの課題を見極め、家庭とも連携を密にしていく。</p> <p>○要約や字数制限等の条件で文章を書く活動を、授業や家庭学習において取り組んだ。また算数の公式や文章の書き方など学習したことを振り返りができるように教室掲示を工夫した。</p> <p>○タブレットの効果的・有効的な活用方法をさらに研修するとともに、児童のタイピングのスキルアップなど、系統的な取組を行っていきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○週一回、定期的な生徒指導打合せを行い、児童の情報や対応について職員全員で共有し、スピード対応に生かすことができた。報告・連絡・相談の徹底、保護者との連携を大切に、継続した指導をすることができた。学校アンケートやQUを児童理解に活用し仲間づくりを進めることができた。コロナ禍であり、活動に制限が必要な状況が続き、縦割り班活動が縦割り班での顔合わせのみとなった。縦のつながりを大切にしたい教育活動を行うために、さらに工夫をしていきたい。</p> <p>○月別生活目標を掲げ、望ましい子どもの姿に近づけるよう取り組みを進めた。廊下歩行への声掛けの継続や挨拶ミッションなど、児童が意欲的に取組めるよう工夫し取り組んだ。代表委員会からもよびかけたことで、あいさつやルールを守る児童が増えた。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍のため、感染防止対策を適切に行い、新5分間運動スタートブックを参考にした準備運動、水泳指導、かけ足運動、なわとび運動等を実施し、運動能力・体力向上を図った。</p> <p>○学校保健委員会では、新型コロナウイルス感染症中心の感染症予防について、保健委員会の発表し、児童の質問について学校医からの話していただき、感染症への理解をより深めることができた。</p> <p>○スクールカウンセラーと専門機関、栄養教諭・養護教諭と担任等がそれぞれ連携して健やかな心の育成に取り組めた。特に食育は、児童の実態と実施時期や教科学習との関わりを考え取り組むことができた。保健だよりでは健康の大切さを発信し、心と体の健康について啓発することができた。</p> <p>○避難訓練を行い、災害から自分の身を守る安全教育に取り組むことができた。</p>	
重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○特別支援委員会を定期的開催し、児童の実態を学校全体で共有し、児童や保護者の困り感に応じた具体的対応策について協議することができた。保護者や関係機関との連絡、情報共有を密にし、サポートルーム（校内通級）の実施やスクールカウンセリングなど支援体制を活用した。</p> <p>○年長児・6年生とその保護者を対象に、園や中学校と連携して観察を実施し、個別の支援の方法について相談し進めてきた。地域にある西日野にじ学園との交流をでは交流内容の打ち合わせを行い、感染防止対策として、手紙や動画の交換などの方法で、全学年が年に2回交流することができた。</p> <p>○保護者との個別懇談会や関係機関等で相談支援ファイルを活用し、情報共有や情報交換をすることができた。また、若手教員向けに、個別の支援計画・指導計画について研修を行い、教育的支援の具体的な手立てについて学ぶ機会とした。</p>	

重点目標 5	家庭・地域との連携	4
主な方策 成果と課題	<p>○2学期初めにオンライン学習期間に学校ホームページを利用することが多かったため、ホームページを効果的に使って情報を発信することができた。一方で、学校の様子の更新頻度が少なかったため、定期的に更新していく必要がある。</p> <p>○コミュニティスクール（くろがねもち協議会）では、学校や地域の課題について委員から提言をいただき、教育活動に反映させることで、例年よりは少なくなったが、各種行事への参加を通して学校の様子を実感してもらうことができた。</p> <p>○学校支援ボランティア活動は、ビジョン達成のための一助となっている。図書ボランティアは、コロナ禍の中でもZoomを活用した読み聞かせを実施し、読書好きな児童の育成に貢献している。交通安全ボランティアは、朝の登校の見守りを通して児童の安全意識の向上や挨拶への意識付けに寄与している。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○今年度はテーマを「安心して夢中になれる授業の創造」に変え、これまでの授業づくりを土台とし、自分の思いや考えを文章に「書くこと」を通して整理することを目指してきた。取り組んできた結果、書くことに対して抵抗が減り、形式に沿って書く力がついたが、自分の思いや考えを的確に表現するのはまだ難しい様子が見受けられる。</p> <p>○各学級での仲間づくりを基盤とし、相手の気持ちを考えさせることを大切に取り組んだ。人権強調週間では全校一斉いじめ防止標語づくりに取り組み、友だちを大切にしようとする意識を高めることができた。</p> <p>○「学びの一体化」および「ひのな会」での研修を行うことができ、指導に役立てることができた。地域教材を活用した学習活動はコロナ禍で制限がかかることがあったが、できる範囲で見学など行うことができた。</p> <p>○ミニ研修を月1回程度設定した。今年度はICT研修をたくさん行うことができた。若手教職員の悩みを中心に計画的に進めたい。</p>	

2 改善方針

<p>○コロナ禍で学習活動が制限されていることもあったが、学習のねらいを明確にし、取組を進めることができた。今後は、保護者・地域に通信・学校HP等をタイムリーに情報発信するようにし、学校の教育活動への理解を図りたい。</p> <p>○児童が自分の思いや考えを表現する力を育成するため、基礎基本となる読解力や文章構成力の効果的な指導についての研修を継続して行っていきたい。引き続き、書く活動を授業に位置づけるとともに、タブレット等のICT機器を効果的に活用について、さらに充実させていきたい。</p> <p>○生徒指導においては、教育委員会や関係機関と連携を密にしながら、「日報」や打合せ等で全職員で情報共有し、指導の徹底を図ってきた。児童会活動の活性化や道徳科での指導の効果もできており、児童の規範意識は向上してきている。あいさつや学校のルールの大切さについて理解を深め、自主的に行動できるよう児童の実践力を育てていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 高花平小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○ITや少人数学習を行ったことで、一人ひとりに対する教師の支援が増え、個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>○2～6年生の算数科において少人数学習に取り組んだ。各クラスの実態に合わせた課題設定や授業展開を行った。</p> <p>○スタディタイムとして、朝や昼の帯時間を利用して基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○論理的思考力の育成に向けて、昨年度に引き続き、自分の考えを説明したり、友達の考えから自分の考えを再考したりする活動を取り入れた。それにより、どの子も自分の考えを持って説明しようとする態度や力がついてきている。</p> <p>●小規模校であることから、急な教員の欠員が出た際に、少人数指導やITができなくなった。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○道徳や人権の年間計画に沿って学習を進めてきたことで、道徳的価値は理解できている。一方で理解した内容が、自分たちの生活に結び付いていないことも多い点が課題である。</p> <p>○挨拶と黙働清掃に力を入れて指導を行った結果、昨年度に比べてしっかりとした挨拶、掃除ができるようになってきた。</p> <p>○毎週金曜日、図書館司書が来校している時に、1～3年生の図書時間を割り当てた。学習に関連した本の紹介や準備をしてもらったことで、読書活動の充実につながった。</p> <p>○学びの一体化で保幼と基礎基本の力をつけるための取組を交流した。これにより1年生で取り組むべき視点がはっきりし、指導に活かすことができた。</p> <p>●いじめの早期発見・早期解決と至らないことがあったが、その後組織的に対応を進め、子どもたちが安心して登校できる学校づくりを目指して取り組んだ。また、教育委員会と連携を図り、教職員向けの「いじめ防止に向けた研修会」を実施した。</p>	
重点目標3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○体育科授業の充実を図るため、教師間で授業についての交流を行った。</p> <p>○運動の日常化に向けて、休み時間に教師が外に出て子どもたちと一緒に活動をした。その結果、外で元気に遊ぶ子どもが今年度も多くみられ、異学年同士の関わりも増えた。</p> <p>○今年度もコロナウイルス感染防止対策を考慮し、体育的行事を工夫した。団体競技を中心に、運動技能や思考力の充実を図った。なわとび月間やマラソン記録会は予定通り実施した。</p> <p>○養護教諭が感染症予防、目の健康と姿勢について等、保健指導を行った。保健室前には、月毎に子どもたちが健康について学べるよう、工夫した掲示物を作成した。</p> <p>●今年度も新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学校保健委員会を中止した。</p> <p>●5分間運動の取組に対する呼びかけを積極的に行えなかった。</p>	

重点目標 4	家庭・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	<p>○昨年度に引き続きコロナ禍による学校行事の中止が多く、保護者に子どもたちの様子を見てもらう機会が減ってしまった。そこで今年度はオンラインを活用して6年生を送る会を公開するとともに、ホームページをほぼ毎日更新した。日々の学校の様子を伝えることにより、保護者や地域の不安解消につなげることができた。</p> <p>○コミュニティスクールを年4回開催した。授業や子どもの様子を見ていただいた感想や意見をもとに教育活動の改善に活かした。また、今年度は地域人材の発掘に取り組み、3年生の学習に10名の地域先生が来ていただいた。</p> <p>○合同防災訓練に向けて、地域の方々と話し合いを進める等、連携が強化された。コロナウイルスの影響で防災学習に変更となったが、来年度は実現に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>●家庭学習習慣の定着に向けて学年に応じた取り組みをすすめた。少しずつ家庭学習の習慣がついてきたと感じる面もあるが、今後も粘り強く取り組む必要がある。</p>	

重点目標 5	教職員の協働	4
主な方策 成果と課題	<p>○特別支援委員会での情報共有方法を改善することで、支援をより必要とする児童について話し合う時間が確保でき、効率的な会議となった。</p> <p>○別室登校児童や重大ないじめが起こった学級に対して、全職員でシフトを組んで見守る体制をつくるなど、組織的に対応することができた。また、いじめ根絶に向けた授業づくりも生活指導部が中心となって取り組んだ。</p> <p>○安心して過ごせる学校を目指して、細かい生活規律を見直し、徹底した指導をおこなった。これにより、子どもたちが落ち着いて学校生活を送る様子がどのクラスでも見られるようになってきた。</p> <p>●それぞれの部会・委員会等で話し合われた内容が情報共有されにくい。どのように情報共有するかという方法を明確にする必要がある。また、話し合われる内容についても精選していかなければならない。</p>	

2 改善方針

<p>○確かな学力の定着 論理的思考力の育成を継続し、「思考ツールの活用」「課題づくり」の研修を深めていく。更に、児童の学力定着が結果として現れるよう検証を行っていく。</p> <p>○豊かな人間性の育成 「いじめのない学級づくり」を目指すため、チェックシートを作成し、教育相談の前等、定期的に教師自身が指導の振り返りを行う機会を設ける。</p> <p>○健康体力の向上 仮設校舎の建築に伴い、運動量の確保・児童の体力低下が心配される。運動場所の確保とともに、授業内容のOJTや体育的行事の工夫によって児童の体力向上に努める。</p> <p>○家庭・地域との協働 家庭学習の定着に向けた児童への指導内容や保護者への働きかけ方について、教師間で共有していく。</p> <p>○教職員の協働 情報の共有が徹底できるような方策を考えるとともに、会議や委員会の内容を精選していく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	ビジョンⅠ 確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>「わからないことや考えを聴き合いながら、学習に参加できていますか。」【児童アンケート結果94.9%（昨年度92.6%）】</p> <p>「家庭学習ができていますか。」【児童アンケート結果83.8%（昨年度82.3%）】</p> <p>「進んで本を読んでいますか。」【児童アンケート結果70.2%（昨年度78.3%）】</p> <p>○「わからない」から出発することが児童同士の学び合いにつながり、主体的に学習に参加できる児童の割合が高くなっている。朝の学習では、算数や国語の基礎・基本に加え、タブレット活用の基礎となるタイピング技能を高める学習にも取り組むことができた。校内研修は、コロナ禍であっても教師の学びを止めないよう工夫して行い、児童の学びに向かう意欲を高めるよう意識した研修を継続することができた。</p> <p>○家庭学習では、学校全体で「学びノート」による自主学習に取り組んだ。保護者に家庭学習の手引きを配付し、見本となるノートの掲示等で児童の意欲を高める工夫も行った。</p> <p>▲自主学習の質を評価する取り組みに課題が残った。個人の学びの伸びを適切に評価すると同時に、全体の学びの底上げを図る取り組みについて検討する必要がある。</p> <p>○一人一台端末の整備により、ICTを活用した学びを積極的に導入することができた。休校中もオンライン授業を最大限取り入れ、児童の学びを止めないよう努めた。▲知識や技能の習得率の差や家庭における学習の負担など、課題も多々見られる。今後も、学校と家庭で連携して家庭学習を行い、子どもたちの学力の保障に努める。</p> <p>○読書活動の推進については、書籍の購入・巡回文庫の活用・学級文庫の整備・図書館まつり等の活動を計画的に行うことができ、児童が様々な種類の本に親しむ機会を保障できた。学級貸し出しの回数を増やしたり、年間読書目標を設定したりして、児童がより一層図書室に足を運びたいくなるような工夫が必要である。</p>	

重点目標 2	ビジョンⅡ 心の教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>「自分から気持ちの良いあいさつができていますか。」【児童アンケート結果88.0%（昨年度91.0%）】</p> <p>「掃除中は『さしすせそ清掃』を守れていますか。」【児童アンケート結果88.6%（昨年度84.9%）】</p> <p>「相手の気持ちを考えた話し方や行動ができていますか。」【児童アンケート結果94.3%（昨年度94.3%）】</p> <p>「あなたは、自分のことを大切にだと思いますか。」【児童アンケート結果89.8%（昨年度93.8%）】</p> <p>○必要に応じて各行事にオンライン形式での参加を導入し、集団の中での自己を意識させることができた。○マスク生活が普通となり、声を出さなくても済む環境が続いた。その中でも、児童会が中心となりあいさつ運動を定期的に行い、学校を明るく、そしてよりよくしようとする姿勢が見られた。子どもたちの様子や課題を全職員で共有し、指導に生かすことができた。また、絆フェスティバルや6年生を送る会等の運営を通して、相手の気持ちを考えた言動や行動について考え、他学年児童と共に活動する楽しさを味わうことができた。○ICT導入に伴い、ネットモラル学習に繰り返し取り組み、ネット上における人権課題について考える学習を進めた。不適切な言動や行動の原因や対処法、危機管理について考えさせるよい機会となった。▲人権教育・道徳教育への取り組みを保護者に発信することができない状況であったが、「with you」などの通信を通して発信できた。今後も授業公開や通信等を通してタイムリーに発信し、家庭と協力して考える場づくりをする工夫が必要である。○特支CoやSC等が中心となり、校内のカウンセリングの充実を図ることができた。職員間での情報共有を定期的に行い、問題の早期発見・早期対応に役立てることができた。▲継続的に支援や見守りを必要とする児童が年々増加している。関わった職員や外部機関の対応記録を次なる問題の未然防止に役立てていく。</p>	

重点目標 3	ビジョンⅢ 体力、健康・安全意識の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【体力の向上】①系統的な年間指導計画を基に、体力の向上のための授業実践を行うことができた。教師間での学び合いも積極的に行い、授業改善に努めてきた。○感染症対策を十分に行い、児童が安全に活動できる場を保証することができた。活動前後の手洗いの徹底の他に、活動場所の工夫・共有用具の使用方法など、最新の情報に基づき、対応策を講ずることができた。○ICT機器を活用し、児童の参加意欲を上げたり、運動技能の向上や学びの場づくりに活かしたりすることができた。○計画的に環境整備を進めることができた。十分な運動量と質の向上が保証できるよう、児童の実態に応じた器具・用具の種類や量を充実させていく。</p> <p>【安全指導の徹底】○地震や火災、交通安全、不審者対応、緊急避難下校など様々な場面を想定した訓練や安全指導を通して、子どもたちの安全に対する意識を高めてきた。教職員の不審者対応研修も実施するなど、日々の安全に対する教職員の認識も深めてきた。○ここ数年、受診を必要とする大きなけがが減少傾向である。熱中症防止に対する取り組みや、体育の時間の無理のない指導計画など、全職員が意識して取り組むことができた。体育の時間や休み時間における新型コロナウイルス感染症への対応について、その都度全職員で確認し、指導を徹底してきた。不安を抱えている心のケアや教室での日々の取り組みについて、今後も継続して教職員で話し合っていく。</p> <p>【基本的な生活リズムの定着・改善】○1日に1回以上の歯みがきができるよう、感染症対策を行いながら、給食後に取り組んでいる。今年度は、さらに、エチケット歯みがきの指導をした。また、歯みがきチャレンジ週間等の取り組みが、家庭での歯みがきについての啓発となっている。○早寝早起きチャレンジ週間の取り組みと共に生活習慣のアンケートを取っている。その結果を踏まえ、ほけんだより等で児童の実態や家庭での過ごし方を発信するとともに、保健指導に活用している。○食育指導および委員会児童による取り組みもあり、食べ物に対して興味を持つようになってきている。また、毎月の残菜量を数値化することで、各学級での指導にも生かすことができた。今後も子どもたちが残さず食べることへの意識を高める取組を継続する。○全学年において「メディアと健康」をテーマにメディアが体に及ぼす影響や安全な使い方について保健指導を行った。</p>	

重点目標 4	ビジョンⅣ 保護者・地域との連携の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「学校は、教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えていきますか」【保護者アンケート結果89.9%】</p> <p>「全体的に見て学校の教育活動に満足していますか」【保護者アンケート結果94.0%】</p> <p>【地域に開かれた学校づくり】【保護者・地域のニーズ】</p> <p>○コミュニティスクール会議において、保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、多くの意見を得られることができた。そして、それらの意見をその後の教育活動に取り入れることができた。</p> <p>○学校だより・ホームページによる発信を充実させることができた。コロナ禍において、授業参観・個別懇談会・運動会などの学校行事について、保護者来校の方法を新たに設定し協力を仰いだ。それぞれの参加方法に賛同を得て、保護者との連携を図ることができた。</p> <p>▲コロナ禍における感染拡大防止をふまえた参加方法について、今後も新しい学校行事のあり方を検討していかなければならない。</p>	

重点目標 5	ビジョンV 教職員の資質・能力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>研究主題 学び合う授業の創造 ～主体的に学ぶ子どもの育成～ (5年次)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人目標を設定し、年間1回以上の提案授業 ・ ICT機器(タブレット、電子黒板等)を活用した提案授業 ・ 公開週間 6月と11月 <p>○個人の力量を高める機会を大事に全員で取り組めた。学年部での授業の見合いなど、授業公開する場を随時設定し、授業の改善のきっかけづくりができた。教職員のICT機器活用能力を高めるため、臨時の校内研を複数回設定し、必要に応じた情報や技能を職員で共有できた。</p> <p>▲コロナ禍で可能な学び合いについて、思うように進めることができない状況が続いた。生活リズムが整わなかったり、家庭での学習環境に差があったりする中で、子どもたちの意欲や取り組み方に二極化が生じた。子どもの実態把握と具体的な取り組みが遅れ、学力の定着が思うようにできなかった。もう少しリアルタイムでの学年間の共通理解、研修委員会が中心となった学校全体の取り組みを具現化し、教員に提示すべきであった。</p> <p>▲これまで以上に授業づくりの視点をしぼり、系統性をきちんと明確にした研修体制の再構築が必要であった。</p> <p>▲ICTをベースにした授業づくりを進め、子どもたちの交流や発信の手立てとなるような活用方法を作っていく。</p>	

2 改善方針

重点目標 1 確かな学力の定着

- ①独自の取り組みCRT検査や「みえスタディチェック」等の分析結果をもとにして、学習意欲を高める環境整備や授業改善に取り組み、課題の克服に向けた学習の充実を図る。
- ②家庭との連携を進め、主体的な家庭学習の取り組みの習慣化や、充実した読書活動による読書力の向上を目指す。

重点目標 2 心の教育の推進

- ①社会性を身に付け、正しい判断力・責任感を育てる。
- ②自分からすすんであいさつができる子、「さしすせそ清掃」を意識し働き続けられる子を育てる。また個々のよさが発揮できる場づくりと子どもが認め合える場づくりを進める。

重点目標 3 体力、健康・安全意識の向上

- ①体力向上につなげるため、体育科の授業改善による質の向上、休み時間を活用した運動量の確保に取り組む。
- ②健康・安全意識の向上を目指し、必要性を理解し自ら行動できるよう、日常的な指導を継続するとともに、教職員の危機管理意識を高めるための研修に取り組む。

重点目標 4 保護者・地域との連携の推進

- ①保護者や地域との連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実をはかる。
- ②学校運営協議会(コミュニティスクール)を要として、学校と保護者・地域をつなぐ方策を検討していく。

重点目標 5 教職員の資質・能力の向上

- ①自身の授業公開や同僚の授業参観を積極的に行い、自らの授業実践に取り入れる。
- ②研修会に参加し、学んだことを還流報告する。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 内部小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	考える力の育成～学び合う授業づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も「子どもの気づきをつなぐ授業づくり」を研修テーマにし、力点を「気づきと気づきをつなぎ、学びへと深めるための手立てを探る」とし、教材のおもしろさを感じたり、つけるべき力の定着を目指したりする授業改善に取り組んだ。教師が授業の中でキーワードを大切にしたり、深く考えさせる活動や場について教材研究したりすることで、授業がよりわかりやすい展開としてデザインすることができた。また、子どもたちが互いに学び合っていく課題づくりについても深めていくことができた。教科担任制を実施して2年目となり、より深く教材研究を行った上で授業を行うことができた。</p> <p>ICTについては、定期的なミニ研を校内で行い、教師のスキルアップを行うとともに授業での活用を全体研で提案するなど教師・児童が使いこなせるように整備した。また、日常的にICT機器やタブレットを子どもたちに活用させたことで、学習内容を定着させるドリル的な学習だけでなくPCでプレゼンを作成し発表するなど協同的な学びにまで活用が広がっている。ただ、教師間のスキル差が広がってきているとも思う。</p>	
重点目標 2	人とつながる力の育成～ともに生きる仲間づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>「内部っ子のきまり」をもとに、昨年度から全職員が統一した基準で生活指導を行ったため、学校アンケートで「学校のルールを守っている」と答えた子が93%と良い成果が得られた。また、「いじめは絶対にいけないと思いますか」の問いに対して「いけない」と答えた子が100%になったのも、いじめに対する指導を行ってきた成果だと考える。</p> <p>お互いに認め合える学級・学年集団づくりを進めてきたことで、「自分のことを大切にしている」と答えた子が89%となっており、昨年度から20%上がっている。引き続き、自己肯定感を高める取り組みを続けていきたい。</p> <p>特別支援教育については、昨年度に引き続き定期的に委員会を開催し、共通理解を深め具体的な対応を行った。他機関と連携する体制もより整ってきた。</p>	
重点目標 3	健康で安全な生活をつくる力の育成～健康な体づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>体育科の年間学習計画を作成し、各学年の系統性を踏まえて学習に取り組むことができた。ミニ研を校内で行い、教師のスキルアップや子どもの運動量の確保に努めることができた。マット運動や体づくり運動など、子どもたち同士が関わる活動や、ペアやグループを要する活動を控えなければならなかった為、実施できない単元があった。コロナ禍でもできるよう工夫が必要である。</p> <p>衛生に関しては、コロナ感染予防のため、全校児童が手洗いに努めることができ、子どもたちの意識は高まっている。しかし、一方で休み時間の過ごし方や子ども同士の距離に課題が見られた。</p> <p>栄養教諭と養護教諭の連携により食育が充実し、78%の子どもが給食を残さずに何でも食べている。基本的な生活習慣の育成については、保護者も子どもも意識は高いが(85%・74%)、中には生活リズムの乱れが改善できない子がいるため、根気強く家庭と協力していく必要がある。</p>	

重点目標 4	家庭・地域とともに歩む学校	2
主な方策 成果と課題	<p>学びの一体化の活動については、今年度もコロナのため保幼小中で連携をとった交流の機会は少なかったが、Zoomを利用した人権フォーラムなど、できる限りの活動を行うことができた。</p>	

2 改善方針

・ICT機器やタブレットの活用については教師・児童が使いこなせる様に整備が進んだが、教師間のスキル差が広がらないように研修が必要である。

・年度末に児童や保護者の感染が増えた。子どもたちの休み時間の過ごし方などに課題は見られるが、保健委員会による児童間の呼びかけや職員の放課後の消毒作業など学校でできる対策は行っている。子どもたちの学力を保障し、有意義な学校行事はできるだけ実施していきたいが、先行きが見えず具体的な方法については今後検討していく。

自己評価書

四日市市立 小山田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	めざす子どもの姿 ①豊かな心を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>① 自尊感情を高め、思いやりの心を育みます。 【道徳・人権教育・学級会・行事・いいところ見つけ】</p> <p>② 学習や活動を通して、相手のよさに気づき、相手の立場に立つことの大切さを学びます。【班活動・班学習・係活動・休み時間・学級レク】</p> <hr/> <p>○少人数の学校であるが、縦割り班活動（なかよしタイム）や毎日の集団登下校を通して、相手の立場に立って考えることができるようになってきている。</p> <p>○学校生活全般で、相手の気持ちを考えることや仲間のよさに目を向ける姿勢を大切にしながら、教育活動を進めることができた。</p> <p>○授業の中で、タブレットやZoomによるオンライン接続を用いて班活動や班学習、水沢小学校や西陵中学校との交流学习などを行い、GIGAスクール構想の実現に向けた活動を行うことができた。</p> <p>●本年度も新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンライン授業があったり学習活動が制約される面があった。また、日々の教育活動についても制約は多かったが、十分な感染予防策を講じた上での指導を進めてきた。</p> <p>●児童一人ひとりへの相談体制をとっているが、本年度のアンケートでも自尊感情の面は低かった。小規模校であるので、全職員で児童の思いに寄り添える体制づくりを進めていきたい。</p>	
重点目標2	めざす子どもの姿 ②確かな学力を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>① 個に応じたきめ細かな指導と評価を行うことで、学習の成果や学力の伸びを実感します。【個別指導・机間指導・ノート点検・少人数指導】</p> <p>② 朝学習や家庭学習に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図るとともに、情報活用能力を身につけます。【あさかぜタイム・家庭学習の習慣化・ICTの活用】</p> <p>③ 学年に応じた本に親しませて、人に内容や感動を伝える意欲や能力を伸ばします。 【朝読書・図書の時間・図書館まつり・読書感想文】</p> <hr/> <p>○ドリルやプリントの宿題のほかに、学校全体でプラスワン（家庭自主学习）に取り組んだ、定期的に児童のプラスワンのコピーを掲示することで意欲付けになり、各自で考えて取り組むことができた。また、ICTを活用した学習を通して個に応じたきめ細かな指導に取り組むことができた。</p> <p>○図書ボランティアや図書館司書による読み聞かせなどの取組を通して、本に親しませる機会を充実させることができた。</p> <p>○算数科において習熟度別・少人数授業やITでの授業をすることやICTを活用した学習で一人ひとりの理解度に合わせた授業を行うことができ、確かな学力の向上につながった。</p>	

重点目標 3	めざす子どもの姿 ③健康な心と身体を育む子ども	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>① 運動量を高める体育や運動遊びを通して、「運動が大好き」と思え、運動に親しむ能力を身につけます。【体育・5分間運動・かけ足・なわとび・業間遊び】</p> <p>② 保健指導や食育を通して、健康な生活習慣や食習慣を身につけます。【保健・給食指導・学校保健委員会・食育の授業】</p> <p>③ キャリア教育を踏まえた行事等の活動を通して、自立する力、仲間と協力する力を身につけます。【宿泊行事・運動会・芋煮会・キャリアパスポート】</p> <p>④ 地域に関わる学習や体験を通して、ふるさとに対する愛着心を育みます。【地域学習・地域行事など】</p> <hr/> <p>○発育測定時に実施した学年に応じた保健指導や給食後の歯磨き月間の取組、学校栄養職員による食育指導を実施した。</p> <p>○今まで6年生対象に行ってきた講師を招いての「命・性」に関わる授業を、本年度は4年生でも実施した。</p> <p>○6年生が地域協議会の方を招いて未来の小山田地区について考えを述べ、そこから地域ぐるみのごみ拾い活動に発展するなど、地域とともに考え活動することもできた。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から学校歯科医による歯磨き指導を縮小した形で実施した。食後の歯磨き等も行えない状況だが、実態に合わせて行っていきたい。</p>	

重点目標 4	<p>めざす学校の姿</p> <p>○人権が大切にされ、安心できる学校</p> <p>○学ぶことが楽しい学校</p> <p>○地域とともにある学校</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>① 教職員の人権感覚や指導力などの向上のために、研修と改善に継続的に取り組みます。【研修・授業研究会・学校評価】</p> <p>② 通学路を含めた安全のための環境整備を行い、課題の早期発見・対応に努め、連携を密に図ります。【危機管理・防災・防犯・交通安全・避難訓練・命の学習】</p> <p>③ 挨拶や4S（整理・整頓・清掃・清潔）に取り組み、気持ちよく学べる環境作りに努めます。【あいさつ運動・清掃活動・委員会活動・花壇整備】</p> <p>④ 学校公開・運動会・学習発表・たより・HP・ICTなどで、子どもたちの取組等を紹介します。【学校公開・懇談会・学習発表・情報発信】</p> <p>⑤ 読書活動・クラブ活動・地域学習などで保護者や地域の支援のもとに、効果的な学習に高めます。【読み聞かせ・クラブ活動・学習支援・芋煮会】</p> <p>⑥ PTA・CS運営協議会・地域団体・関係機関と連携して、子どもたちの成長を見守ります。【あいさつ運動・親子下校・親子DE人権・除草】</p> <p>⑦ ICTを活用するなど中学校区で交流を深め、共通理解を図りながら、滑らかな縦の接続をめざします。【学びの一体化・乗り入れ授業】</p> <hr/> <p>○コロナ禍以前と比べると、地域の方にきていただく機会や、地域の方と活動する機会は減ってはいるが、その中でも対策を施しての授業参観や、少人数の地域の方に来ていただいて共に活動するなど、この状況下でできる工夫をして地域とともに活動することができた。</p> <p>○登下校指導、あいさつ運動、防災学習等、学校と家庭、地域が連携して取り組むことができた。</p>	

重点目標 5	めざす教職員の姿 ○自らの人権感覚を問う教職員 ○教育への使命感を自覚する教職員 ○家庭・地域と共に歩む教職員	3
主な方策	<p>① 「夢と志」が持てる道徳・人権教育を計画的に取り組み、家庭との連携を図ります。 【道徳・人権教育・特別支援教育・出前授業】</p> <p>② 子どもの変容にアンテナを高くし、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。</p> <p>③ 算数の習熟度別少人数学習に取り組みます。</p> <p>④ 自分の考えを持ち、相手に伝わるように話したり、相手の話を聴いたりする力を伸ばします。【ノート指導・ペア・グループ学習・ICT活用】</p> <p>⑤ 教科の専門性及びICT活用能力を高め、これから求められる論理的思考能力を育てます。【ICT活用及びプログラミング授業・教科担当制】</p> <p>⑥ 保護者や地域等と協働し、教育効果を高めます。 【学校評価・CSの充実・地域活動】</p>	
成果と課題	<p>-</p> <p>○QU調査の結果をもとに研修会を行い情報を共有し、児童の気持ちに寄りそえるよう努力した。また、必要に応じて家庭訪問をし、迅速に対応することができた。</p> <p>○少なくとも週に1回は打ち合わせを持ち、児童の様子や個々の課題への取組の進捗状況などについて職員間で情報共有をした。そのことで、問題に対して同じ姿勢であったことができた。</p> <p>○小山田小学校CS運営協議会と協働した地域学習や学校・学級行事等を実施することができた。</p> <p>○情報モラル教育を全校的に取り組むことができた。</p> <p>●SNSをはじめとする、児童のICT機器の活用の仕方について、家庭とも足並みをそろえて考えていく必要がある。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・学習効果が大きい習熟度別少人数授業やTT指導を行いつつ、その中にGIGAスクール構想の実現に向けた指導方法の工夫を盛り込んできた。今後は、アンケートで肯定的な意見の低かった家庭学習の習慣化について、タブレットの持ち帰りも含めて、今後一層推進させる。そして、習慣化させるために保護者への啓発や連携にさらに取り組んでいく。 ・「友だちを思いやり豊かな心を持った子の育成」について、Q-U、いじめ調査、教育相談等を生かし、全職員で子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合っていくとともに、子どもたちが想いを持って自分らしく活躍できる学校であるよう、本校ならではの異学年と交流できる縦割り班活動を引き続き継続していく。 ・GIGAスクール構想の実現に向けたカリキュラムマネジメントや、小規模校である本校に合ったカリキュラムマネジメントを行うことで、教科・学年横断的な学習を進め、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせていく。 ・保護者アンケートでは、多くの項目で昨年度を上回る評価をいただいた（13項目中10項目）。ただ、本校の教育活動全般について、「全体的に満足できる」と肯定的評価をいただいた回答が、昨年度より2.3%低くなっている。コロナ禍で学校の取組が見えにくくなる現状があるので、より積極的な情報発信に努めたい。
--

自己評価書

四日市市立 河原田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力と学びの保障をめざす	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの学びの保障を目指した授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・めあて（つきたい力）を授業の初めの段階で提示する。 ・他者の発言を聴くことの大切さを指導する。 ○ ICTを活用した授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習で、タブレット・プロジェクターセット等を活用した学習活動を創造する。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを授業の初めに提示することで、その授業のねらいが明確にできた。 ・学年に応じた指導で聴く力は身につけている。 ・タブレットの効果的な活用について意識し、授業づくりに努めることができた。 ・児童の読み・書き・計算が弱いので向上する取り組みを継続的に行う必要がある。 	
重点目標 2	思いやりのある心を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動全般における道徳性の育成 ○ 規律ある生活態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・清掃の励行を図る。 ○ 他者を傷つけない心の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・QUの活用や教育相談を行い、いじめにつながらないように問題行動の早期発見早期解決につなげる。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も特別な教科道徳を中心に児童の実態に応じた取り組み、育成ができた。また、学年間や人権週間で職員間の実践の共有ができた。 ・QUから得られたデータを使った検討会を行うことで、客観的にも子どもたちをとらえることができ、子どもたちの不安等の早期発見・対応につなげることができた。 ・カウンセラー等の積極的な活用を図り、児童の様子を多様な立場からとらえることができた。 	
重点目標 3	体力と安全意識の向上をめざす	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科の授業の充実と体力の向上 ○ 健康・安全意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・引渡し訓練、防火・防災教育、防犯教室、交通安全教室を実施し、危険予測能力の向上をめざす。 ・養護教諭や栄養教諭と連携した保健指導や食育指導を進め、子どもの自己管理能力を高める。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主運動につながる5分間運動を意識して体育の授業ができた。体力向上のための行事も取り入れることができた。 ・児童らが危険を予見できるよう防火・防災教育、交通安全教室などを通じて指導を行った。しかし、学んだことが実生活に結び付かないことが課題として残った。 ・保健指導を年間通して行うことで、児童の健康増進に成果が得られた。また、栄養教諭を活用し、食育の授業（各学年2回）や普段の給食指導を進めることで、子どもたちの食育意識が高まった。 	

重点目標 4	教職員としての資質を向上させる	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学びの保障につながる教師の力量の向上（ICT教育の推進） ○ 三重大大学との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・三重大大学と連携し、理論的な背景に立った研究を深める。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重大大学の松浦教授から特別支援教育の視点についての研修を受けたことで、教職員の特別支援教育の意識を高めることができた。 ・ICTを積極的に活用できた。また、随時ミニ研を行い、教職員全員が使えるよう環境を整えたことで、学校全体でICTを活用した学習を進めることができた。 ・各学年1本以上は提案授業を行い、教師の力量の向上に努めることができた。 ・ICTの他に、教科として指導主事を要請し、年間を通じた研修を進める必要がある。 ・学びを深めるためにどのようにICTを有効的に活用するのかを考える必要がある。 	

重点目標 5	地域や保護者と連携した学校づくりをすすめる	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・HPや学校・学年だよりを通して学校の様子を発信する。 ○ 学校評価の活用 ○ 地域との交流活動の推進 ○ 家庭学習での自主的な学習態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」をもとにした家庭学習の工夫・改善をする。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学校を公開する機会は減ったが、その分、ホームページの更新を増やし、学校の様子を多く発信することができた。そのことで、学校の取り組みを家庭や地域に浸透させることができた。また、各学年で地域学習や体験活動を行うことができ、地域の人の思いに触れたり、地域の良さを感じたりすることができた。 	

2 改善方針

<p>【重点1 確かな学力と学びの保障をめざす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い学びにつながる課題づくりについて、各自が常に意識し考えるとともに、校内研修等でも学んでいく。 <p>【重点2 思いやりのある心を育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「廊下歩行」など、当たり前前ができる学校を目指す。そのため、全職員が同じ目線で取り組み、児童の意識を高めていく。 ・自分を含めなかまを大切にすることを育むため、行事や道徳の時間を中心に、教育活動全体を通じて指導していく。そして、いじめや差別のない個性を大切に学校を目指す。 <p>【重点3 体力と安全意識の向上をめざす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度全学年で系統化された体育の内容を次年度にも引継ぐとともに、より質の高い課題づくりについて検討していく。 ・コロナ対策として様々な方策をとったが、来年度以降も残すべきことは残し、子どもたちの自己管理能力を高めていく。 <p>【重点4 教職員としての資質を向上させる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科を絞って研修を進め、ICTを有効に活用するためにはどの場面でどのように使うのかを考え、授業改善や教師の力量の向上を図る。 <p>【重点5 地域や保護者と連携した学校づくりをすすめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、地域連携の取組はたくさん行うことができた。感染症対策も含め、今後も地域とのつながりを大切にし、地域学習や地域・保護者と連携した学習の充実を図る。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 川島小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	I 確かな学力の育成	4
主な方策 成果と課題	○研修で国語の説明文を行う中、発問や課題を吟味して提示することを意識したので、「考える楽しさ」を感じられる授業づくりができるようになった。 ○各学年の指導の重点や学ばせる学習用語を意識しながら指導することができた。 ○昨年度に引き続き、国語の説明文に取り組んだことに寄り、「つきたい力」「この単元で何を学ぶのか」がはっきりし、指導のポイントを明確に持つことができ、「筋道を立てて考える」力を子どもたちにつけることができた。	
重点目標 2	II 豊かな人間性とコミュニケーション	3
主な方策 成果と課題	○一人ひとりの思いや考えが大切にされる居心地のよい集団づくりに向け、「いじめ調査・教育相談（ほかほかタイム）・Q-U調査」などを意図的に、年間計画に配置した。子ども一人ひとりの理解を深め丁寧に対応した。日頃より、児童や学級の情報を学年や学校全体で共有し、問題行動等には、学年団や生徒指導委員会を中心にチームとして対応することができた。 ○昨年度から導入した学校見守り担当。目的は、「安全面・生活学習面において、対応できる環境づくりをし、子どもたちがより安心して過ごすことができる体制を整える」とした。「職員室にて仕事」「内線電話にて現場へ急行」とし、限られた人的配置の中で、対応体制構築の継続につとめた。 ○なかまづくりや人権教育カリキュラムにもとづいた授業実践を通して、子どもたちに、人権課題に向き合わせ、いじめや差別を許さない態度の育成に努めた。また、「人権学習推進旗」「子どもたちのつくった人権標語掲示」「ピンクシャツ運動」など、人権週間とも連動することで、子どもたちの心を育むことにもつながった。 ○学校生活のきまりや社会生活のルールなどの規範意識を身につけさせるために、明文化した「きまり」を配付するとともに日常的に指導した。また、日々の子どもの様子を集約し、スケジュールウォッチャーや打ち合わせにて職員に周知することで、子どもたちへの指導につなげた。 ○道徳や人権学習で学んだことを、生活の中でいかせるような声かけや学級づくりを意識することができた。	

重点目標 3	【Ⅲ健康で安全な生活を送る力の育成】	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○養護教諭から提案された保健便り、保健室前掲示、給食中の校内放送、定期的な保健指導を通し、新型コロナウイルス感染症に関する感染防止対策や生活習慣の見直しや改善など、年間を通して児童の関心や意識向上の取り組みを行うことができた。</p> <p>○栄養教諭が、各月の給食に関するアナウンスを行ったり、定期的に食育に関する各学級への直接指導を行ったりするなど、児童の食に対する関心の向上に繋がる取り組みを行うことができた。</p> <p>○タブレットを積極的に活用できた。例：児童どうして演技を撮影し合い改善点を見つける。授業の途中でも指導動画を視聴し、改善に繋げる。</p> <p>○交通安全教室を一部の学年だけでなく、全学年で実施することができ、児童の交通安全への関心を高めることができた。</p> <p>○不審者対応訓練は実施できなくなってしまったが、過去になかった対応マニュアルを作成することはできた。</p> <p>●（感染症の影響で）2年続けて予告無しの避難訓練を実施できなかった。</p> <p>●救助袋は、4年生で体験することができたが、予定していた職員の講習はできなかった。</p> <p>●1学期に行った新体力テストで見えてきた各学年の弱点となっている種目（ハンドボール投げなど）を3学期に再度行い、どのように向上したかを分析する予定であったが、時間数が確保できずその活動を行えなかった。</p> <p>●今年度、持久走トラック用のポイント（杭）を打ったが、毎時間ポイントを探すことになり、その都度トラックの大きさが変わってしまいますことになり、児童の正確なタイムなどの目標達成に繋がられないことがあった。</p> <p>●まだまだ教具が充実しておらず、児童への指導に生かせられない面があった。</p> <p>●新型コロナウイルス感染防止の観点から、児童間の接触を避けるようにしたため、当初行う予定であった活動ができなくなってしまった。</p>	

重点目標 4	IV特別支援教育の充実	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○校内委員会や全体研修会を実施することで、授業者が合理的配慮や授業のUD化の視点で、環境整備や授業改善を行うことができた。</p> <p>○あおぞら学級やサポートルームでは、一人ひとりのニーズに応じた指導・支援方法を工夫することができた。通常級でも特別支援委員会で協議することで人員配置や個別学習の体制を工夫することができた。</p> <p>●系統立てた研修を行っていく必要がある。</p>	

重点目標 5	V 読書活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○図書室の蔵書冊数の維持のほか、児童に人気の本や、いま読ませたい本を計画的に購入し、学級文庫の充実にも努めた。学級用の貸し出しを行うことで図書室に行かなくても本に親しめる環境づくりができた。</p> <p>○学期に1回ずつの読書週間を位置づけ、家庭での読書習慣づくりのために「夕読（夕方読書）」を行った。児童の読書に対する関心を高めることができた。夕読期間中に、通常読書の宿題を課さないこととし、保護者や子どもへの負担も考えながら読書への習慣づくりにつながった。</p> <p>○図書委員による1・2年生への読み聞かせを行った。また、図書館ボランティア「ブックママ」からも、読み聞かせ会を1・2年生に行った。図書室にアンケートコーナーを設けた。「おすすめの本」「いれてほしい本」を募った。感染症対策の中ではあるが、読書活動推進ができた。</p> <p>○読書をする子とそうでない子の差があるので、身近な学級文庫の充実や担任による本の紹介など読書活動をさらに推進できるような環境整備をしていく必要がある。</p>	

重点目標 6	VI 指導者の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○今年度は、年度当初から計画的に、全体研及び学年研の授業を公開し、実践を深めることができた。</p> <p>○年度初めにミニ研修会をたくさん開催し、OJTが実施できた。英語、ICT、仲間づくりなど、年度初めにミニ研修を行うことで、1年間の見通しを持つことができた。</p> <p>○研修を進める際に、課題や発問の吟味を重点的に行うことができ、授業改善を行うことができた。</p> <p>●1月に入り、コロナの感染急拡大により、まとめの全体研修会を実施することができなかった。</p>	

重点目標 7	VII 地域と共にある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍の中、5月実施予定であった運動会を10月に、また、6月には授業参観を、感染防止対策を取り、実施することができた。</p> <p>○学校での子どもたちの学習活動の様子については、HPを活用し日々の活動を公開することができた。</p> <p>●本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いくつかの学校行事や各学年での取り組みを中止及び延期せざるおえなかった。</p> <p>●夏季休業中のCS主催の「こども未来塾」については、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施することができなかった。</p>	

2 改善方針

- ・どの項目の課題も健康安全部からの声掛けが少なかったため、来年度はより意識的に取り組みへの声掛けを行っていく。コロナウイルス感染症の影響を受けた方策も多かったが、来年度はその影響をより踏まえた年間行事計画を立てていく。
- ・基本的な生活態度を定着させるために、特に挨拶については、その良さや必要性を理解させたり、生活目標としての設定・代表委員会の挨拶運動を行ったりする。きまりやルールについても、「なぜ、そのようなきまりがあるのか」といった趣意説明を折に触れて何度も伝えていく。
- ・「自分のことが好きか」との問いに、否定的な回答をもつ子どもが一定数いる。いじめアンケートには、「こまった時に相談できるか」の問いに、「相談できない」と回答する子どももいる。引き続き、「安心感のもてる学級運営」「自己肯定感の高まる声掛け・手立て」を進めていく。効果的、手応えのあった手立てについては、教職員内で交流していく。
- ・図書委員を中心に、感染症対策も考えながら、読み聞かせを継続する。「ブックママ」とも連携し、必要な方策の情報交換を進める。
- ・読書週間中の夕読についても、活動の意義を伝えると共に、本読みの宿題をなくすことで、保護者や子どもの負担をなくしていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 神前小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	同和教育の推進	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>同和教育は、自分が好きになる教育，なかまを大切にする教育であり，すべての人権教育につながると位置づけている。人権総合学習・生活科やなかまづくりに取り組むことで，差別をなくしていこうと行動することができる子どもたちの育成をめざした。2月には「人権集会」を行い，取り組みを伝え合った。また，「なかまづくり」では，日記作文指導・QU調査等も活用して，子どもたちとの向き合い方を全職員で考察しながら進めた。子どもたちとの向き合い方だけでなく教職員自らが差別心と向き合い，互いに高め合うことも確認し合うことができた。</p> <p>【児童アンケートの主な該当項目】（数字は4～6年児童平均：後ろは昨年度） ○自分や友だちを大切にしていますか。（3.7 3.6） ○学校は、楽しい。（3.0 3.0）</p> <p>【成果】なかまづくりを意識して授業づくりを実践してきたことで，友だちとの関わりを考え，自分自身や面立ちを大切にしたいという思いを持つ子どもたちの割合が増えた。</p> <p>【課題】コロナ禍の中で同推協や地域の方々とは会う機会が設定しづらい環境であるが，さまざまな方策を立てて取り組むことができた。しかし，子どものへの出会わせ方や，取り組みの狙いが十分に練られていない中で，取組の形骸化が進んでしまっているところもある。</p>	
重点目標 2	学びを高め合う授業づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>今年度も子どもたちが「聴き合い、学び合う」ことができる授業を目指してきた。コロナ禍の中で，小グループでの接近した状態での学び合いが設定できず，教室の一方向を向いた授業スタイルが多くなった。そのような中でも児童アンケートにおいても「思いや考えを伝える力が育っていますか」の項目では保護者児童共に1ポイントであるが上昇した。その背景として，ICTを活用した授業の取組があると考える。コロナ禍の中でタブレットを使った授業の取組や研修を全教師が一丸となって取り組んだ成果であるにとらえている。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均） ○お子さんは、思いや考えを伝える力が育っていますか。（3.1 2.9） ○あなたは電子黒板やタブレットを使った授業を受けていますか（3.9 昨年3.6）</p> <p>【成果】ほとんどの教科でICTを活用した授業の構築ができており，コロナ禍の中での授業スタイルとして一定の成果があった。</p> <p>【課題】「聴く・伝える力」をつけることを意識しながら『目指す子どもの姿』を指標として，全職員が共通理解しながら授業を進めていく。</p>	

重点目標 3	基本的な生活習慣の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>地域取り組みとタイアップしてあいさつ運動に取り組み一定の成果があると地域から評価を得た。また、生活リズムチェック週間を年間3回実施し、意識して規則正しい生活を送るように指導した。家庭で行う自主学習の取組みを全校児童が目にする場所の掲示板等を通して推進している。</p> <p>保護者 児童アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）</p> <p>○元気の挨拶をする。（3.1 3.0）</p> <p>○家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身につけていますか。（2.9 3.0）</p> <p>○きまりを守って生活をする（3.0 3.3）</p> <p>【成果】生活リズムチェックでは、早起きと朝ごはんを食べることは意識して生活していることが伺えた。</p> <p>【課題】基礎学力の定着にも課題が残る児童がいる。その対応策として引き続き、個別指導や支援（少人数指導体制）を継続する必要がある。</p>	
重点目標 4	一人ひとりを大切にした教育	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>支援が必要な児童、学級に対する支援体制等について、校内支援委員会で考え、生指・特支の面から全校体制で進めてきた。コロナ禍のため家庭訪問しづらい環境であるが機会をとらえて保護者との連携を図る取組みを推進してきた。各担任が教育相談の時間を個別にとり、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）</p> <p>○学校は、保護者からの相談などにていねいに対応していますか。（3.5 3.4）</p> <p>○学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.3 3.4）</p> <p>【成果】子どもの困り感を丁寧に聞き取り、校内支援委員会で共有することで、それぞれの児童への個別支援の手立てが統一できた。このことはぶれない支援として子どもの姿に現れてきた。</p> <p>【課題】コロナ禍であるが、児童の困り感だけでなく、家での児童の生活や保護者の思いや願いも把握しておく必要がある。</p>	

重点目標 5	地域に学ぶ：人とつながる取り組み	3
主な方策	<p>地域に育まれている地域立の小学校というテーマで、人と人とのつながりに学ぶ学校を目指してきた。コロナ禍の中でもコミュニティかんざき運営委員会の方の全面的協力を受けて、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動に直接協力をいただいた。</p> <p>保護者児童アンケート該当項目（４段階評価平均） ○学校は、保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。 (3.5 3.0)</p>	
成果と課題	<p>【成果】コロナ禍の影響で公開する学校行事も減少し、地域の方と出会う機会は減った。中でも、精選したゲストティーチャーに出会い、人権や人とのつながり、神前の文化について、多くの学びの場を持つことができた。</p> <p>【課題】コロナ禍により授業参観や学校公開が例年通り開催できないため、保護者に児童の学校での姿が届きにくい現状がある。学校だより、学級通信等の発行をさらに進めることで本校の教育活動に対する保護者の理解を得たい。</p>	

重点目標 6	安全・安心な学校づくり	3
主な方策	<p>コミュニティかんざき運営委員の方々や老人会（仙寿会）の支援をいただき学校環境を整備していただいた。地域の人に関わっていただくことで地域との「つながり」が感じられる学校づくりを目指してきた。今年も地域（仙寿会）家庭との連携を深め、児童の登下校の安心・安全の確保に努めた。</p> <p>保護者児童アンケート該当項目（４段階評価平均、後ろの数字は４年～６年児童の平均） ○命を大切に教育の充実 (3.3 3.6)</p>	
成果と課題	<p>○学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていますか。 (3.4 3.4)</p> <p>【成果】コミュニティかんざき運営委員の方々やボランティアをはじめ、学校に来てくださる姿を目にする機会が多く、児童自身が地域の方を身近に感じている。</p> <p>【課題】防災の面では、まだまだ危機意識が薄いように感じている。普段から防災指導を充実させていきたい。</p>	

2 改善方針

今年度も、6つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ・人とつながる」ことをこれまでと同じく本校の強みと位置付け、地域立の学校を目指してきた。コロナ禍の中でも、地域や保護者とのつながりを強固なものにしつつ、日々の教育活動が学校づくりビジョンに沿っているのかを全職員で確認しながら、取り組みを進めてきた。来年度も同和教育を中心に据えながら「学ぶことが楽しい学校（学びの保証）」について取り組んでいく。また、学校の考えや子どもの姿を学校だよりやHPにて保護者や地域に伝えていく。こうした姿勢を学校が示し実践することで、保護者・地域の協力をより得ることができ、保護者・地域も含めた地域とともにある学校「神前小」となっていくと感じている。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	○週1回の読解力を向上する取り組みはよかった。 ○家庭学習強化週間で、家庭での学習習慣を意識づけることができた。 ○課題をしっかりと考えて、授業づくりを進めるよう取り組みを行った。 △家庭読書をする方向を示したが、子どもに応じた指導方法を考えなくてはいけない。(啓発の取り組みを、年8回のペースで続けていく。)	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	○新型コロナウイルスの対策など制約があり、活動時間が減ってしまったのもあるが、できることを意図的に取り組むことができた。 ○児童会を中心に、いじめ防止の活動やふれあいまつりなど状況に応じた活動ができた。 ○いじめを防止するために、「許されるいじめはない」ことなど道徳で取り組める題材を提案し、全校で方向性をそろえた取り組みができた。 ○規律やきまりなど統一した指導ができた。 △距離感がつかめない児童が増えてきており、トラブルになることが多い。コミュニケーションの力や自分の想いを相手に伝えるスキルを身につけるような取り組みが必要である。	
重点目標 3	健康な心と身体の育成	3
主な方策 成果と課題	○保健指導と食育指導を充実させることができた。コロナ禍で、健康観察の重要度も高まり、個々に意識をさせることができた。 ○避難訓練など実施できない行事があったが、学級指導により、防災意識を高めることができた。 ○運動会(さくらっ子スポーツフェスティバル)や5分間走チャレンジなど、感染症対策を十分に行った上で、行事として充実させることができ、体力向上につながった。 △全体的に見ると、コロナ禍により運動不足の児童の実態がある。 △アルコール消毒の安心感や寒さもあり、手洗いが疎かになる実態がある。	

重点目標 4	学校教育の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○学年部・全体研など資質向上のため研修を進めることができた。</p> <p>○つきたい力を明確にして課題を考え授業や指導と評価をつなげて取り組みを行うことができた。</p> <p>○仲間づくりで子どもの姿指導について共通理解して取り組むことができた。</p> <p>△学習環境への刺激の受け取り方に対し、様々な子どもがいる中で、UDの視点から掲示物を極力減らしていく方が、さらに良いと思う。</p> <p>△計画的に研修を進められなかったところもあった。</p> <p>△全職員の適正な勤務体制が整っておらず、過重負担となる実態がある。</p> <p>△事後対応の迅速さや予防の観点から、危機管理の弱さがあった。</p>	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナの影響で制限されることもあったが、可能な限りボランティアに来てもらっているのが良かった。</p> <p>△コロナの影響で地域の人とふれあう機会がなかった。</p>	

2 改善方針

<p>【学習部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣は取り組むカードの内容を見直す。担任の印の欄を作る。年8回継続。学校だよりでも紹介してほしい。 ・家庭学習強化週間は、学期に一度にするが子どもの意識を高めるために掲示物などの工夫もしていく。 ・学習規律を定着するために来年度継続していく。 ・ICTの活用をさらに充実させていきたい。(GoogleClassroom、タブレットドリルの活用など) <p>【生指部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ・委員会など、時間が減ってしまった活動もあるが、たてのつながりを重視していくため、今後も継続していく。 ・自分を知り、相手を知る。互いを認め合う経験を様々な活動の中で取り組み、仲間づくりの充実を図る。 ・いじめや人権課題については、学年に応じた子どもたちに必要な内容を日々伝え続けていく。 ・そうじ指導の充実。用具の使い方などていねいに指導を積み重ねる。 <p>【健安部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動不足の解消に向けて、来年度は「さくらっ子スポーツチャレンジウイーク」を設定し、身近な運動に取り組む習慣をつけさせる。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 県小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、家庭学習での反復学習を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、児童のつまづきを解消するために学んでe-NET!や県が作成した学習プリントを活用し、基礎学力の定着に全校で粘り強く取り組んだ。その結果、保護者アンケートで、「学校は基礎・基本の定着に努め、学力の向上に取り組んでいると思うか」の項目で、「そう思う」「まあそう思う」と肯定的な回答の割合は95.4%であった。 ・子どもたちに1人1台タブレットが導入されたが、日々授業の中でタブレットを活用する場面を各学年で考え、繰り返し活用することにより、子どもたちも教員もタブレットの扱いに慣れてきた。 ・全国学力状況調査やみえスタディチェックの結果から、提示された条件を使っでの記述といった言語活用力に弱さが見られた。今後も、情報を相手に分かりやすく伝えるための文章全体の構成を考えるなど記述を工夫したり、目的や意図に応じて自分の考えを明確にして、まとめて書いたりする指導を継続して行う必要がある。 	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・あがたっ子委員会を中心に、時期に応じた生活目標の取り組みを行った。昇降口でのあいさつ運動や学級での取り組みとの連携によって、児童及び保護者アンケートにおいて「あいさつをしているか」の項目で肯定的に回答した割合が児童・保護者共に増加した。また、日々の掃除への姿勢もよく、自分たちの学校を隅々まできれいにしようとする気持ちが表れている。 ・道徳の授業では、学年によって差はあるが、概ね子ども同士が考え合い、議論することができた。また、道徳の授業から、日々の生活を見直したり、自己や学級目標を振り返らせたりすることができた。 ・遠足を通して異学年集団の仲間づくりを図った。特に上級生にとっては、自分達の役割を意識しながら相手を思いやる良い機会となった。コロナ禍において学校行事の実施が難しいが、子どもたちの成長にとってはとても貴重な時間である。 	
重点目標 3	健康安全教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において様々な制限はあったが、水泳指導、運動会に向けての指導、かけ足、業間縄跳び、遠足など、全校児童の体力向上に向けて計画的に進めることができた。 ・食育・歯科保健指導については、養護教諭や給食担当が中心となり学級担任と連携し、各学年で計画的に進めることができた。また、学校保健委員会を三師の協力を得ながら開催することができた。 ・交通安全教室、防犯教室を計画通り進めることができ、それぞれの学年に応じた指導ができた。常に意識を持って生活を送っていくことが大切であるため、指導を継続していきたい。 ・アレルギーのある児童への対応については、年度当初に全職員で研修会を実施し共通理解に努めた。また、給食担当を中心に除去食や家庭から児童が持参する食物の管理等、細心の注意を払って対応することができた。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援委員会を毎月定期的開催し、特別な支援を要する児童の実態把握や情報交換を行った。校内特別支援教育コーディネーターを中心に様々な視点から児童を探り、支援策について考えるとともに保護者と共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラーには児童の観察、保護者との面談、校内支援委員会での助言等、専門性を生かして尽力いただくことができた。特に、放課後に担任と丁寧に情報交換の時間を取っていただいたことは、担任が普段気づくことができない児童の一面を知ることができたり、新たなアプローチの方法を学ぶことができたりと貴重な時間であった。 ・日常的に各担任が授業の工夫改善に努めてきた。コロナ禍においてはグループ・ペア活動による子どもたちによる教え合いも困難な状況だったが、タブレットの効果的な活用等、個に応じた指導を意識し「どの子にもわかる授業」を目指した。 	
重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのタブレットの活用を推進するため、教員が自主的に金曜日の放課後30分程度、タブレットを持ち寄って研修を行った。「できる時に、できる人だけ」の気楽な雰囲気年間を通してOJTを行うことで、学校全体としてタブレットを授業で使うことの抵抗が軽減された。 ・職員会議に加え、毎週行われる職員打ち合わせの際に児童の情報交換会を行った。観察が必要な児童については、空きの間を利用して全教員が教室に行き、実際の児童の様子を見ることで該当児童への対応策を深めることにつながった。 ・全体研修会では、短時間ではあるもののグループ討議においてポイントを絞り参加者が意見を出し合い学びを深めることができた。その後、職員室においても話し足りなかった部分を自主的に交流することができた。 	
重点目標 6	家庭・地域と協働する学校	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から保護者へ積極的な情報発信に努め、ホームページの学校及び学年の様子を数多く更新することに努めた。保護者アンケート「学校は、通信やHPなどで子どもの様子を伝えている」の項目では肯定的な回答が95.1%であった。今後も引き続き、保護者にとってタイムリーな情報発信を行いたい。 ・9月に約2週間のオンライン学習が実施されたが、最初は不具合が多くZOOMが繋がらない場面も多く見られたが、各家庭が好意的に学校のサポートを行っていたので、最後は順調に学習を進めることができた。常に学校の教育活動に対して家庭・地域にあたたかく見守られている雰囲気がある。 ・校内環境整備ボランティアの方に年間を通して草刈りや花木の手入れ、溝の掃除等尽力いただくことで校内が美しく保たれた。 	

2 改善方針

学校づくりビジョンを日常的に職員が意識して取り組みが進められるように、教育活動の反省を各学期末に実施し、職員が改善の意見を出す機会を確保した。保護者アンケート「学校の教育活動に満足していますか」では94.8%（昨年度より-0.7%）から肯定的な回答をいただいている。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が95.9%と昨年度より2%増加した。今年度もコロナ禍により、教育活動は大きな影響を受けた。9月には約2週間オンライン学習を行った。全児童とオンライン学習を行うために最初は手探り状態であったが、全職員が団結し、各学年で工夫を凝らした内容で学習を進めることができた。登校できない不自由さはあったものの、1人1台タブレットの活用という点においては、児童、保護者、そして教員にとっても非常に貴重な経験となった。来年度に向けても、コロナ禍による制限付きの学校生活の中で、ストレスを抱えた児童はいないか、小さな変化を見逃すことがないように保護者、地域と連携を図りながら、児童一人ひとりの思いを大切に、お互いに認め合える学校・学級づくり、授業づくりをめざしたい。

自己評価書

四日市市立 三重小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>・授業における言語活動の充実については、「聴く・話す・書く・読む」力の定着を継続して図りたい。まだまだ話を聴くことができない様子が見られるため、「聴く」の力を伸ばしていきたい。次に、全国学習学力調査でも課題である「書く」力の定着を図りたい。論理的な表現が苦手な児童も多くいることから、キーワードやモデルを示すことにより文章の構成を考えさせたり、文章を推敲する時間を確保したりすることで、それぞれの力をつけさせていきたい。</p> <p>・授業づくりとして、「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」を研修主題とし、「学ぶことが楽しい もっと学びたいと思う子どもへ」を副主題とした授業実践を各学年に展開してきた。コロナ禍において学び合いの形が制限される中、タブレット端末を授業で活用することで、友だちの考えを確認できたり、自分の考えを全体に伝えたりすることができた。どの学年においても、授業の中でタブレット端末を活用した学習ができた。タブレット端末の利用は効果的であったが、効果が出るまで指導しきれないこともあった。タブレット端末の扱いが学級や学年によってばらつきも見られるため、該当学年でどこまでの力をつけていくべきか、具体的な指標を出し、力をつけさせ、タブレット端末を活用した授業づくりを積極的に取り組み、研修主題に迫る実践を深めていきたいと考える。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・子ども一人ひとりが認め合う仲間づくりの推進に関しては、友だちともトラブルを見逃さず、その場ですぐに対話を進めるよう心掛けた。解決していく過程の中で、自分や仲間を大切にしていくことを確認し、トラブル解消の場を心の成長の場として生かすよう指導した。しかし、組織的な初期対応が上手くいかずトラブル解決に時間がかかることが多かったため、組織としてより連携をとっていく必要がある。</p> <p>・考え、議論する道徳の充実では、道徳の授業だけでなく他の授業の中でも必ず自分の考えを持ち、それぞれの意見が出せるような授業展開に努めた。子どもたちは自分なりの意見を出すとともに多様な意見を聴き合い、考え合うことで学びを深めることができた。</p> <p>・三重小の「三つのやくそく（あいさつ・掃除・時間を守る）」を中心に据えた規範意識の向上を目指している。代表委員会の活動でも「三つのやくそく」を中心に毎月の目標を設定して学校全体で守ろうと意識させている。しかし、あいさつをすることに関しては課題が残った。児童の自発的な行動がとれるような働きかけを今後も進めていきたい。</p> <p>・読書環境の充実と読書活動の推進に関しては、年間を通して、毎朝10分間の読書に取り組みんだり、図書館まつりを開催したりして読書活動の充実を進めた。今年度は、読書活動推進校を受け、さらに読書に親しめるよう、図書委員を中心に取り組みを進めた。毎月「メディアに触れず本を読む日」として「ノーメディアデー」を設定している。しかし、「何のためにノーメディアデーがあるのか」、「取り組めなかったときにどう改めていくか」など、年間を通じて児童への指導と保護者に向けての啓発が必要である。</p> <p>安全教育の充実に関しては、登下校中における交通安全についてとみま隊や伊賀忍者衆を招き話を聞く機会を設けた。校内では、廊下を走る児童がいるため、必要な時だけ使用するなど廊下等の使い方を決めたことで、廊下を走る児童が減った。きまりを守る指導や自他を大切にする視点で継続的に指導していく。</p>	

重点目標 3	健康・体力の向上	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの体育的行事等を活用した運動の推進では、コロナ禍であっても工夫して行事を行うことができた。 ・体育科の授業の充実では、コロナウイルスの関係で密にならないように工夫して学習を行った。また、めあてを提示し、最後に振り返りを行うことで自身の運動能力を客観的に捉え、運動の質の向上に努めることができた。体力テストにおいては、昨年 の反省を踏まえて、反復横跳びの練習に励んでいる。児童の実態として、運動の二極化が見られる。運動が苦手としている児童が進んで運動に親しめるような授業の工夫をこれからも進めていく。 ・食育・保健指導の推進では、栄養教諭による食育指導を全クラス行った。食の大切さや自分の体の成長について知る良い機会となった。保健指導では、コロナ対策を考え、学校全体で共通認識することができた。「コロナに負けない三重っ子」をテーマとした学校保健委員会に取り組み、保護者への啓発も行った。生活習慣の指導に関しては、歯磨きカレンダーを活用して、歯磨きの意識づけを行った。長期休みでも、歯磨きを意識して取り組むことができた。 	

重点目標 4	子どもと先生の笑顔あふれる学校づくり	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内サポートルームの活用と校内支援体制の充実に関しては、サポートルームを大いに活用し、困り感のある子へのサポートを徹底することができた。また、校内支援体制としては、特別支援委員会を充実させ、支援の必要な子の把握や支援方法に向けての協議を深め、全教員で対応することができた。しかし、情報共有の方法には依然課題が残るため、来年度に向けてさらに組織的な対応ができるよう方法を工夫していきたい。 ・関係機関と連携したチームによる教育課題への対応に関しては、教育委員会における関係部署や地域コーディネーター並びに通級学級との密な情報共有を進めることで、迅速な対応や効果的な取り組みができ、一定の成果を得られた。 ・学校における働き方改革の推進に関しては、組織的な解決方法を早急に検討・改善するために、教員の教材研究や学級事務の時間を確保できるようにする。教科担任については、教科によっては負担になるため、教科担任制のやり方や教科等については相談しながら考えていきたい。 	

重点目標 5	家庭・地域との連携・協働	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>みえ委員会（コミュニティースクール）の活動の充実に関しては、定期的に委員会を開催し、忌憚のない意見や助言をたくさんいただくことができた。コロナ禍においても授業の工夫により確かな学力が身につけていることや、学校の掲示物による環境改善等について評価をいただいている。一方で、業務多忙な教員の体調面への気遣いの声などもいただいている。委員と学校とは常に良好なコミュニケーションをとることができており、地域の学校参画への支援などにも協力いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーメディアデーの取り組み（家庭読書）、家庭学習の充実に関しては、実施率が平均約70%となっている。実施率を上げるには、継続的に家庭への啓発をすることが必要である。ノーメディアデーの意義を伝えるとともに、数字だけに捉われず、取り組みができて良かったと思える実感を伴ったものにしていく。 ・家庭・地域と連携した安全・安心な学校づくりに関しては、子どもたちの登下校において地域の方々や保護者の方々からのご協力を得て子どもたちの安全を保持することができた。また、保護者の方々の家庭での困り感に寄り添い、家庭訪問や電話連絡等を活用しながら関係性を深めることができた。 ・地域資源や外部人材を活用した教育の推進に関しては、万古焼体験や防災学習等において地域の方々の協力を得て学習を進めることができた。コロナ禍の状況は変わらないという前提のもと、地域の伝統行事や地域資源を生かした活動をどのように進めていくか、さらに検討していきたい。 	

2 改善方針

- ・働き方改革として、今年度学習内容を記録としてデータ化して残していく。また、来年度の教材研究を充実を図る。
- ・コロナ禍であっても、なかまとの学び合いを重視し、聞くことを大切にしたい授業を行っていく。
- ・集会では静かに聴くことや廊下を歩くなど、一つ一つのきまりを守れるように、全職員が同じ目線で指導にあたる。組織対応をさらに強化していきたい。また、教師側からの一方的な指導で終わらず、子ども達が自分で考えて行動を変えていくことができるよう、主体性を育てていきたい。
- ・運動の楽しさにせまるような体育の授業を充実させたい。
- ・学級事務や教材研究の時間を確保しにくい状況が続いている。時間割など、引き続き働きやすい環境整備を進めたい。子どもたちと触れ合う時間を多く作るためにも、これからも働き方改革を推進したい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大矢知興譲小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「四日市モデル」を軸とした問題解決能力向上のための授業づくりでは、授業規律が数年で定着してきており、授業時間を確保することができるようになってきた。また、問題解決の見通しを持たせるために、全校で統一して「課題」と「ふりかえり」の習慣化を図る指導をした。 ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりでは、本校の研修の土台としている「第2プロセス」を大切にし、児童が主体的に自分の考えを深めたり広げたりするために特に必要であると思われる「第4プロセス」に重点をおいて取り組んだ。ICTの活用の視点から全教科でタブレット端末を積極的に使い、どのようにICTを活用できるか模索してきた。 ・ICTを活用した教育活動の推進について、ICTの活用回数が増えて、基礎的なスキルが向上した。しかし、職員は、自分たちのできる範囲内で教材を作成するため、ICTサポーター・支援員を依頼するまでの高度な活用とならず、依頼が難しいときがある。 ・ビジョンの重点項目として漢字学習とICT活用を設定し、ビジョンの達成状況をはかる指針の1つとした。どちらの項目も、設定した目標を達成できた。 ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックを実施し、高学年の学習状況をはかる指針として活用した。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育、道徳教育の充実においては、「人権学習」と「なかまづくり」を大きな柱として推進してきた。人権学習では、各学年で重点課題を設定し系統立てた学習を進めることができた。なかまづくりでは、「核となる子」を設定し、そのまわりの児童の変容に重点を置き進めた。道徳教育については、年間指導計画に沿って履修できるように推進を図った。臨時休業による時数減のなかでも、道徳の時間を確保し、各学年で取り組みを充実させてきた。ビジョンの重点項目として、自尊感情の高まりをめざしてきたが、検証結果から昨年度とあまり変わりがなく、次年度も継続して取り組みたい。 ・職員全体で、生徒指導の充実をめざしてきた。いじめ調査やQU調査等を活用した教育相談の充実を行い、担任だけでなく学年部や管理職と連携して、いじめなどの様々な問題に対応することができた。いじめアンケートを定期的に行い、安心して過ごせる学級・学校づくりの推進に努めた。 ・Q-Uによる分析とそれを受けて児童一人ひとりに寄り添う教育相談を行うことができた。児童一人ひとりの相談を行う時間をいかに保障していくかが課題である。 ・言語環境の充実のため、図書イベントを通じた読書の啓発を行った。校舎改築に伴い図書室が狭い、コロナで人を集めることもできない等があり、読書量の確保・増加には至らなかった。 	

重点目標 3	健康・体力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力の向上については、運動場が狭く、コロナの影響も受けているため、子どもたちの活動量が少なくなった。運動場が元のサイズに戻ったとき、授業・休み時間ともに、活動量を増やしたい。 ・体育の授業では、めあてやふりかえりをする中で運動に対する意識を高めてきたが、「体育の授業を含めて、運動に進んで取り組んでいるか」のアンケート結果では、肯定的に回答した割合が昨年度よりも3ポイント低下した。主運動につながる5分間運動の実践により、充実した授業を進められるようになってきた。児童が「めあて」と「振り返り」をさらに実感できるように、タブレット端末等を活用していく必要がある。5分間運動や日々の指導については、教師間の実践交流を進めたい。 ・健康・安全意識の向上では、体験活動を生かした安全教育の推進と危険回避能力の向上が図られた。安全教育では、火事、地震を想定した避難訓練を毎学期行い、より安全に避難できる体制を見直すことができた。避難訓練をすることで、初動対応が適切にできるようになった。防犯教室では、警察の方のパワーポイントが見やすかったり、10問くらいの問題や子どもが前に出て実演したりするなど、飽きないように工夫されており、意欲的に防犯を学習することができた。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実については、各学年で計画や取組、振り返りを毎学期ごとに行ってきた。学年という組織の中で、それぞれの役割を發揮しながら力量や資質を向上できた。学年組織を学校全体に広げて、さらに学校教育力を高めたい。 ・教員が講師役になり、それぞれの専門性を發揮し、校内で共通理解できる場であるミニ研修について、今年度実施回数が減った。仕事量を減らすメリットはあるが、学年を超えた職員間のOJTを積極的に進めていく必要がある。 ・主研修にかかわるICT研修により、教職員のスキルアップにつながり、授業でのICTの活用が進んだ。次年度以降も、内容の充実に留意しながら、研修を進めたい。 ・夏季休業中に特別支援教育研修会を行い、三重大大学の松浦教授にお話をいただいた。研修会後の教職員の満足度も高く、特別支援教育の充実に向けて次年度も同じ講師を招いて研修したい。 ・業務アシスタントの活用が進み、職員の職務内容が変化した。そのため、子どもに向き合う時間の確保につながった。働き方の意識改革が進み、職場の活性化につながった。 	

重点目標 5	保護者・地域との協働	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進として、低・中・高学年で系統立てた方針を示した「家庭学習の手引き」を1学期に配付した。保護者の協力を得るために、今後も加筆・修正して周知を図りたい。 ・校長だより、HP等で学校や子どもの様子を積極的に発信できたことから、保護者や地域との情報共有を図ることができた。しかし、コロナの影響により、学校公開は計画通りには進められなかった。 ・年度初めに募った学習支援ボランティアの活用により、効果的な地域人材の活用ができた。制度として軌道化を図ることができている。教員以外の人との関わりの中で学び、視野が広がったり、子どもへのきめ細かい学習支援により、達成感や成就感につながることができた。 ・四日市版コミュニティースクールとして「興譲協議会」（学校運営協議会）の充実を図ってきた。保護者・地域との協働の基盤組織として、協議内容の充実にも努めてきた。あいさつの励行など、協議会で示された方向性については学校の教育活動につなげるとともに、協議内容については、その都度職員会議の場で共有を図ることができた。 ・登下校において、多くのボランティアや保護者の見守りがあることで、学校・保護者・地域ぐるみで子どもの安全を確保することができている。 	

2 改善方針

○重点目標 1

・書くことに関して、年度初めに系統図を提案したが、学校としての確実な実施・習慣化までは至らなかったため、授業づくりのさらなる改善が必要である。

・漢字学習では、6学年中5学年で目標を達成できており、日頃の指導が反映されていることがうかがえた。一方で、低得点層は固定化されつつあり、漢字に限らず、さまざまな場面で課題を抱える様子が見られる。家庭への啓発も含めた支援を工夫していく。

・市内他校に先駆けて1人1台タブレット、各教室へのプロジェクタセットの配備が完了しており、効果的な運用について校内で話し合いを行ってきた。児童がタブレットに触れる機会は多くなり、授業においてまとめる、共有するなどの活動に自ら取り組むことができている。次年度も、一人1台タブレットならではの取り組みを行い、児童につけたい力をのばしたい。

○重点目標 2

・今年度いじめアンケート結果を集約し、職員全体で情報共有することで、より多くの視点で児童一人ひとりを守るように努めた。次年度もアンケート結果の集約を早急に行い、指導に活かしたい。

・教育相談の時間をしっかりと保障できるように意識して取り組みたい。また、聞き取りを通して児童一人ひとりに向き合い、寄り添っていききたい。

・朝読の毎週実施、コンテナ貸し出しの全学級実施、学期ごとの学級文庫入れ替え、隙間時間（給食後など）の読書徹底など、読書のきっかけづくりを考えていくいかなければならない。

○重点目標 3

・体力の向上、健康・安全意識の向上をさらにめざしたい。

○重点目標 4

・教職員の困り感やその時期の学習への指導方法など、教職員のニーズに合わせ、ZOOMの使い方、拉致問題に係る「めぐみ」の視聴等、OJTの推進に向け、次年度はミニ研修を充実させたい。

・コロナの影響で、先を見越した情報提供・提案が十分でなく、直前に知らせることがあった。職員が提案後に仕事することを考え、先を見通した提案をしたい。

○重点目標 5

・「家庭学習の手引き」を家庭学習のやり方や帰宅後の過ごし方がさらに定着できるよう、年度初めに配布・指導し、通信などで家庭の協力をお願いしたい。また、学習環境整備の継続的な啓発を進めたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ol style="list-style-type: none">①問題解決能力向上のための授業づくりに取り組む。②効果的な少人数指導等により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。③言語活動（読む・書く・きく）を充実させ、言語能力の育成を図る。④ICTを活用した授業づくり、プログラミング教育や、外国語（英語教育）の授業の充実に取り組む。⑤読書活動・図書館指導を充実させ、本に親しむ子を育てる。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者アンケート「読み・書き・計算などの基礎・基本の学力を身につけさせようと努めている」（95%）「わかりやすい授業づくりに取り組んでいる」（91%）の項目については、昨年度同様、高評価であった。また、「自分から進んで家庭学習に取り組んでいる」についても86%→89%になり、学力向上に向けて学校全体で取り組んでいることに一定の理解を得ていると考えられる。今後も取組を継続していきたい。・また児童アンケートでは、「普段の授業では友だちと考えを出し合い、学び合う活動をよく行っていると思いますか」について85%→87%と評価が高くなっている。新型コロナの感染拡大防止のため、学び合いや共同活動といった観点ではかなり制限された学習形態をとらざるを得ない状況の中、工夫しながら子どもが主体となる授業づくりに取り組んできた成果が出ている。	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ol style="list-style-type: none">①道徳教育の推進を図り、あいさつをはじめとした基本的な生活習慣の定着に取り組む。②いじめ調査・Q U調査等の実施により、安心して過ごせる学校・学級づくりに取り組む。③自尊感情を高め、互いに支え合える仲間づくりに取り組む。④スクールカウンセラーや医療機関等との連携のもと、教育相談の充実を図る。⑤特別な教育的配慮が必要な児童への支援を充実させる。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童アンケートで「いじめは絶対にいけない」と考えている割合は昨年度と同数値で98%であった。しかしすべての児童が「いじめを許さない」という思いが持っていないという実態を真摯に受け止め、今後も「なかまづくり」研修やQ U調査の活用等を通して、全教職員で児童一人ひとりをしっかりと見守り、些細なトラブルも看過せず、きめ細やかな対応を行っていきたい。・昨年度、課題として挙げた「自分には良いところがある」の項目に肯定的回答をした児童は76%→81%に増えた。人権学習、道徳教育等において、各学年の発達段階に応じた内容で、自尊感情を高めていく取組を系統的に継続させていきたい。	

重点目標 3	健康な心とたくましい体	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①子どもが意欲的に運動に取り組むための授業づくりや環境整備に取り組む。</p> <p>②学校保健委員会や学校医等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組む。</p> <p>③栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導などを通して食に関する指導の充実を図る。</p> <p>④「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活リズムの定着を図る。</p> <p>⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図る。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・保護者アンケート「学校は子どもが意欲的に運動するための取組を積極的に行っている」の項目では88%→89%と昨年度より上昇している。今年度は水泳授業の再開もあり、運動会の実施形態も最小限の縮小に留めた。体育の授業では冒頭の5分間運動の実施徹底など、コロナ禍の状況下でも工夫しながら運動量を確保し、運動の質を高める取組を進めてきた成果であると考えられる。</p> <p>・児童アンケート「早寝・早起きに気を付けていますか」では80%→83%と改善している。オンライン学習等で生活習慣の乱れが心配されたが、学校と家庭との連携により、生活リズム向上の意識がキープされていると考えられる。</p>	
重点目標 4	家庭・地域とともにある学校づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①学校運営協議会を核として、保護者・地域と協働する学校づくりをめざす。</p> <p>②学校支援ボランティアの参画(図書・クラブ・安全・授業等)による教育活動の充実を図る。</p> <p>③地域と協働し、地域の資源(自然・歴史・施設・人)を活かした授業に取り組む。</p> <p>④学校教育活動や、子ども達の様子 of 積極的な発信に努める。</p> <p>⑤実施したアンケートをもとに学校評価をいただき、学校経営の改善に努める。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・保護者アンケート「コミュニティスクールとして学校・家庭・地域が協力・連携して、子どもの教育や通学の安全に取り組んでいる」では94%、「地域の文化・自然・人材を学習に取り入れ、様々な体験活動を通じた授業に努めている」でも94%が肯定的回答であり、昨年度同様、高い水準で成果が表れている。昨年度から5,6年生の家庭科でマシン学習支援を、2年生算数では九九の定着の支援をしていただいている。図書のボランティアの方々には朝の読み聞かせや図書コーナーの整備に毎週来て下さっている。今年度は学校敷地内の除草作業にも多くの方が有志で参加して下さった。本校は四日市版コミュニティスクールとして、学校・家庭・地域が協働した学校づくりを推進しており、地域や保護者の方々が協力的で、児童の様々な活動を支えて下さっている。今後もこうした「つながり」を大切に、子どもたちの学力向上に向けた教育活動を進めていきたい。</p> <p>・「地域の行事に参加している」児童が73%と年々低下している。今年度も地域の行事の多くが中止になったことが影響していると思われる。地域の団体からは、「地域行事を楽しみにしている子は多く、子どもが地域との接点や関わりをもつことが大切なので、コロナ禍でも地域としてできることを行っていきたい。人権まちづくりや防災たんけん隊等の機会をうまく活用していきたい」との提言をいただいている。今後も地域の諸団体との連携をとっていきたい。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①「チーム八郷」を合言葉に、目標を達成できるように、教職員の力量・資質の向上をめざす。</p> <p>②外部講師の招聘や先進校視察等を通して、問題解決学習の授業づくりを積極的に取り入れる。</p> <p>③特別支援委員会を通して、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。</p> <p>④いじめ・不登校等の未然防止・早期対応のための体制の充実に努める。</p> <p>⑤働きやすい環境を整え、子どもと向き合う時間の確保に努める。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も県教委や、市教委教育アドバイザーの指導助言をもとに、教員個々の実践力向上に取り組むことができた。 ・朝の学習、家庭学習について学校全体で共通理解をし、すべてのクラスで同じように取り組むことができた。その結果、家庭学習の提出率は年々向上している。家庭学習では、特に自主学習の取組を促し、手本となるような子どものノートを掲示するなど工夫した。 ・特別支援委員会を毎月1回、Q-U調査に係る研修を年に2回実施し、児童の背景理解を深め、個々に応じた児童支援を講じることができた。 ・毎学期のいじめ調査と各担任による教育相談から、児童の実態を把握し、いじめ・不登校等の早期対応に努めることができた。 	

2 改善方針

<p>・児童アンケート「学校生活は楽しいですか」では92%、また保護者アンケート「子どもは楽しく学校に通っている」においても95%が肯定的な回答であり、昨年度同様、高い水準で本校の学校生活への満足感を示している。しかし、保護者アンケート「学校は相談したい時に気軽に相談できる」では81%と昨年度(84%)を下回っているように、個々には学校生活に不安や悩みを抱えていると思われる。学校全体で、児童一人ひとりにしっかり寄り添い、適切な支援を行い、児童が活躍できる場や認められる場となるような授業や学級づくりに努めていきたい。</p> <p>・児童一人ひとりの自己肯定感を高めるために、全教職員共通理解のもと、個々を尊重し、なかまのつながりを大切にされた授業づくり、学級づくりと、いじめを許さない(見過ごさない)風土をつくっていく。また、保護者や地域と連携して、社会的規範意識を身につけることができるよう取り組む。</p> <p>・今年度もコミュニティスクールを主とした地域の方々から学習・行事・活動への支援や協力を得ることができた。今後も八郷地区の自然や人材を活かした学力向上および学校づくりを推進していきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 下野小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を育むために、子どもたちの問題解決能力・論理的思考力の向上を目指した教育活動の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 「四日市市新教育プログラム」を基盤に据え、問題解決のプロセスである「四日市モデル」を意識した授業改善を進める研修 社会人になっても通用する問題解決能力を育てるために、「四日市モデル」を意識して授業改善を進めた。今年度は、第2プロセス「問題解決のための見通し」に視点を当てて授業づくりに取り組んだ。全教員が授業を公開し、事後の研修会では子どもの様子等について話し合い、授業の振り返りを行った。児童アンケート「毎日の授業は、分かりやすいですか」の肯定的回答率91.9%（昨年度93.4%）であった。引き続きどの子にも分かる授業を目指して、授業改善に取り組まなければならない。</p> <p>(2) 高学年において令和元年度より取り入れてきた教科担任制を改善・継続、4・5年において算数科を中心に習熟度別少人数教育またTTを実施 4・5年算数少人数授業では、習熟度別にすることで算数が苦手な子どもたちが意欲的に取り組んでいた。お互いに自分の考えを話し、教え合いながら学習する姿が見られた。児童アンケート「算数はわかりやすいですか」の肯定的回答率94.6%であった。 5・6年の児童アンケート「教科担任制の授業はわかりやすいですか」では、「とてもわかりやすい」52.5%（昨年度50.3%）と上昇し、「わかりやすい」も含めた肯定的回答95.3%であった。高学年での教科担任制が定着し、教員の専門性が高まり、教科の特性を踏まえた指導力の向上や授業改善につながっていると考えられる。</p> <p>(3) ICTを効果的に活用し、情報活用能力を育成 1人1台のタブレットPCを活用した学習活動を行うことができた。例えば、生活科や理科では屋外で観察した物を写真に撮って発表したり、体育では自分の体の動きを動画に撮って分析したりすることができた。これからは、各学年でネットモラルについても学習すると共に、集めた情報の中でどれが必要なのか取捨選択できる能力を育成していくことが大切である。今後、予想されるオンライン授業に向けて、教員がICTの効果的な使い方を考え、スキルの向上に努めていきたい。</p>	
重点目標 2	自尊感情や人権感覚を育むために、学級づくり、学力保障、特別支援教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 人権教育や道徳教育の充実・人権の保障された学級づくり・一人一人の学力保障 道徳や各教科を通して、普段から人権教育カリキュラムを意識した授業づくり、なかまづくりを計画し、取り組んだ。また、新型コロナウイルスに関わる授業、保護者にも参観を呼び掛けた人権公開授業を実施した。「いじめ防止標語づくり」の活動では、いじめについて考え、いじめをしない、ゆるさない態度を養う機会となった。サポートルーム（校内通級）、やまびこ学級（日本語教室）で学習した子どもたちは、その授業をきっかけに他の学習活動も意欲的に取り組めるようになった。不登校の子どもたちへの対応は、放課後に個別で行った。校内特別支援委員会・いじめ不登校対策委員会での情報を全職員が確実に共有していきたい。</p> <p>(2) 相談体制の充実 生活アンケートやQU調査を実施して、担任と児童の教育相談の時間を設けて一人ひとりの児童理解に努めた。各担任が不登校傾向の児童、特別な支援が必要な児童、生徒指導上課題のある児童等の保護者と密に連携を取りながら、必要に応じてSCやSSW等の専門機関へ繋ぐこともできた。児童アンケート「困ったときに誰かに相談していますか」の肯定的回答76.2%、一方で「あまりしない」15.9%「しない」7.9%であった。子どもたちの中には、自分の悩みや不安を話せない子がいることがわかった。全員参加の授業づくり、安心して学級の中で意見を伝えられるなかまづくりの推進が必要である。</p>	

重点目標 3	将来に生きる力を育むために、学校づくりビジョンの共有化と地域教育力の活用	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 地域の特性を生かした人材活用 新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、地域の人との交流が制限されて予定通りの活動ができなかったが、例年交流している下野生き域ネット、楽寿会、楷朋苑、等地域の人たちとの学習・活動を継続できた。例年通りの校外学習や地域の方との関わりができなかった部分があるが、児童アンケート「学校の先生以外の地域の人と一緒に学習・活動は好きですか」で肯定的回答90.4%（昨年度90.5%）とほぼ同数であった。また、保護者アンケート「学校は地域・外部の人々の協力を得た取り組みを進めている」の肯定的回答99%となっており、保護者からも学校の教職員以外の人との学習・活動の良さを子どもの姿を通して評価されている。また、地域教育力及び人材活用が十分になされている。</p> <p>(2) 地域連携を主軸としたキャリア教育の取組の推進 1・2年は新型コロナウイルス感染防止対策の影響で生活科の地区探検として校区内学習に出かける機会が減ったが、毎日、地域の方々が通学路や信号交差点で、子どもたちの登下校を見守りながらやさしく声を掛けてくださることで良い関係を築けている。地域連携授業・キャリア教育として、地域の方をゲストティーチャーとして、「昔の遊び」「竹炭アート作り」「しめ縄作り」等を実施することができた。後日、子どもたちは、お礼の手紙を書き、感謝の気持ちを伝えることで、地域の人との関わりを深めることができた。子どもたちは、体験して学んだことやお礼の気持ちを手紙に書いて、その方々と交流することができた。特に6年「ようこそ先輩」では、地域の方から仕事に関する話を聞き、自分たちの身近な人たちが社会人となり、働くとはどういったことなのかを身近に知ることができた。</p>	

2 改善方針

- ・引き続き「新教育プログラム・四日市モデル」を意識した授業改善を進める。また、問題解決能力向上のための5つのプロセスの第2プロセス「解決のための見通し」から進んで、第3プロセス「問題の解決」第4プロセス「解決方法の共有」の段階に視点を当て研修を進めて授業改善に取り組む。
- ・算数科では、習熟度別少人数授業を行い、単元や内容に合わせて1学級の児童数を調整し、学習内容に合わせた補充問題等を検討して取り組む。また、高学年の教科担任制を継続し、専門的な内容にも触れさせ、学力向上を目指す。
- ・ICTを活用した授業の充実を図る。各教科等の様々な学習活動の中で、1人1台のタブレットを効果的に活用した授業を工夫する。
- ・コロナ禍で学校生活に不安を感じている児童や落ち着いて学習に取り組めない児童に対しては、よりきめ細かく児童観察を行い、児童が学校に行くことが楽しいと感じられるような学校にするため、指導及び支援の方針等の共有を図る。
- ・子どもたちは屋外で活動したり、体を動かしたりする機会が減っている。体育指導の充実による体力づくりを図り、休み時間にも運動場で遊ぶことを推奨していく。
- ・地域連携では、これまで指導していただいていた地域の方々が高齢化のため、今後、講師を依頼することが難しくなってくることが考えられる。進め方については、地域の方と連携調整していきたい。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 水沢小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の伸長	4
主な方策 成果と課題	<p>○ICTを活用した授業改善やTTの効果的な活用、教科担任制を取り入れた指導体制の構築等、児童の学力向上のために校内研修の充実を図ることができた。しかし、新システムの対応で手一杯になり、教職員の多忙化の要因のひとつとなった。</p> <p>○校内研修で、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等で明らかになった本校の児童の強みや弱みを分析し、検討した。また、授業にその結果をいかすことができた。</p> <p>○9月のリモート学習を中心に、教職員同士の授業力向上や授業改善に向けたOJT研修、ICT機器の操作研修等、自主的に行うことができた。</p> <p>○「学VIVA」や「学んでE-net」などを積極的に活用し、児童の基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○生活リズムチェックシートに「読書の記録欄」を設け、家庭と連携しながら読書の活性化を推進することができた。また、全学級や図書館に新刊図書を入れたことで、読書に親しむ環境が良くなった。</p> <p>○毎学期、職員作業をおこなったり、階段を活用した学習掲示を設けたり、各掲示板の掲示物を定期的に更新したりするなど、校舎内の教育環境の整備が進んだ。</p>	
重点目標 2	水沢と共に育つ子どもの育成（CS目標）	4
主な方策 成果と課題	<p>○地域や保護者と連携を図り、共に学習の機会を設定した。地域や保護者の方々をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動を積極的に導入することで、より学びを深めるための活動を行うことができた。また、地域の産業や自然などを再認識しながら、郷土愛や人権教育についての学習の充実を図ることができた。</p> <p>○昨年度から新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために行事等が縮小する中、地域の方々のご理解やご協力のおかげで「茶摘み」「もち米づくり」「花いっぱい活動」など、できる範囲の体験学習を工夫しながら行うことができた。一方で、「ふれあい教室」や白寿会（老人会）、図書ボランティアなど、地域の方々との交流の場が減少した。</p>	
重点目標 3	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○全職員による週1回の児童の情報共有の時間や月1回の特別支援委員会などを定期的に設定した。それにより、常に学校全体で児童の支援・指導体制を組織化することができた。</p> <p>○担任による教育相談の時間（毎学期）を位置づけたり、SCや関係機関との連携を図ったりすることで、児童理解を深め、個に応じた適切な支援や指導をおこなうことができた。</p> <p>○教科担任制の推進により、児童が様々な教師と関わるすることができた。その結果、自分の思いや考えを素直に伝えられる体制が整った。</p> <p>○各学年、朝のスピーチに取り組み、全校集会や保護者説明会でプレゼンテーションの場を設定した。これらを通して、相互理解を深めたり、「わかりやすく聴き手に伝える」ことを意識させたりすることができた。</p>	

重点目標 4	地域と連携した安全・健康・体力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○「交通安全・あいさつ運動キャンペーン」を（毎学期）実施し、地域とPTA、学校が連携して児童を見守ることができた。</p> <p>○地域やPTAと連携して「通学路の見直し」を要望することで、横断歩道の再舗装や歩道拡張工事など、より安全な通学路の環境整備改善につながることができた。</p> <p>○「業間かけ足」や「業間なわとび」をおこなうことで、継続した取り組みとして体力の向上を推進することができた。また「かけ足記録会」は、地域の「水沢マラソン大会（本年度は中止）」の日程を考慮して計画し、地域と連携した体力づくりに努めることができた。</p> <p>○本年度は、昨年度実施のなかった「水泳指導」を新型コロナウイルス感染症予防をしながら実施することができた。また、水難事故に備えた「着衣水泳」、中学校進学時の自転車登下校に伴う「自転車の交通安全教室」を6年生に実施することができた。</p> <p>○地域の方と連携し、災害時の食事について学習するなど、児童の具体的な実践力を育むための「防災教育」に取り組むことができた。5年生は、自然教室昼食時に防災用のカレーを温め、食する体験ができた。</p> <p>○生活リズムチェックシートに取り組み、家庭と連携しながら生活習慣づくりを進めることができた。</p> <p>○定期的に「50メートル」の記録を測定したり、休み時間に縄跳び記録会の練習や短縄運動などを奨励したりすることで、児童の体力向上推進のための意欲づけとなった。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に向けた保健指導を全学年で実施することができた。</p>	

2 改善方針

○新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域や学校の行事が縮小となる中、全職員で協議し、創意工夫しながら可能な限りの行事をおこなってきた。今後も地域との連携を密にし、行事や活動の見直しを図りながら、取り組みを推進していきたい。

○新刊蔵書数の増加とともに図書環境整備の充実を図ることで、「学校評価」においても保護者の「お子さんは、読書を楽しんでいますか。」の項目が、昨年度より4ポイント向上した。一方、児童アンケートでは昨年度よりも低い評価のため、読み聞かせや図書環境整備に力を注ぐことで、読書好きの子どもを増やすきっかけとしたい。

自己評価書

四日市市立 保々小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	聴き合い語り合う授業づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合い、考え合いたくなる課題提示。 ・なかまの思いを聴き取り、自分の考えを話すことができる子の育成。 ・授業のふりかえりができ、書くことを大切にする。 ・ペア・班学習を取り入れ、友だちとともに課題追及する学習。 ・「わかった」「できるようになった」と感じられる授業づくり。 <p>(成果と課題)</p> <p>○コロナ禍で、ペアやグループでの活動、顔を向け合っただけの実習等が思うようにできなかったが、タブレットを活用することで子どもどうしの考えや気持ちを伝え合うことができた。</p> <p>●児童アンケートの「自分の思いを相手に話せていますか」および「先生や友達の話を聞くように心がけていますか」の質問では、昨年度に比べともに5ポイント低くなった。課題を整理したり、授業内容を工夫したりする必要がある。</p>	
重点目標2	支え合う仲間づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) ・授業を通じた自尊感情の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまの考えや思いを聴き合い・語り合うことを通して、自尊感情を育む。 ・お互いを認め合う学級づくり(遊び、日記指導等) ・委員会や係活動などの自主的な活動や掃除への取組み。 ・自分の生き方について学び合う人権総合学習・生活科への取組み。 <p>(成果と課題)</p> <p>○委員会活動や掃除など、自分の仕事は責任を持ってやり遂げる姿が見られた。</p> <p>●一方で、与えられた仕事をやり遂げるだけで、自主的な活動とは言い切れないところもある。また、掃除をやらなければならないという意識は持っているが、教師の目から離れるところでは遊んでしまうというようなこともある。何のための活動なのかを児童一人ひとりが考えられる機会を作り、子どもたちの自主的な活動になるように取り組んでいく必要がある。</p> <p>●コロナの影響や、委員会の活動内容によって、自主的な活動が制限されてしまっているところがある。子どもたちが自主的に活動できる仕組みが必要である。</p>	
重点目標3	学習・生活の支援体制づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q U 検査を活かした仲間づくり。 ・場に合わせた挨拶ができる子の育成。 ・学習環境の整備。 ・図書館の整備。毎朝の読書を通じた読書好きな子の育成。 ・特別支援教育の充実。 ・ICT機器やホワイトボードの活用。 ・家庭と連携した生活習慣(早寝早起き朝ごはん)定着、自主的な読書習慣、家庭学習定着の取組。 <p>(成果と課題)</p> <p>○運営委員会で、朝のあいさつ運動を行い、あいさつをするよう呼び掛けた。あいさつの習慣づけになった。</p> <p>●しかし、まだ自分からあいさつをする児童が少なく、元気もない。自ら進んであいさつができるようさらに取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>●今年度の学校評価アンケートにおいて、児童の「進んであいさつをすることができますか」の肯定的回答率は、83.4%であり、昨年度より、5.6%減少した。また、保護者と教職員も肯定的回答率が減少した。地域や保護者からの心配の声も聞かれるので、元気にあいさつができるよう、さらに指導が必要である。</p>	

重点目標 4	地域に学ぶ・人がつながる学校づくり	4
主な方策	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人がつながる活動への取組。 ・人権総合学習・生活科の活動に地域の方に学ぶ・人とつながる活動の積極的な取り入れ。 ・授業参観、懇談会、講演会、保々の集い、プール開放、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民の参画の更なる推進。 	
成果と課題	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラブ活動では、異学年が混ざって活動をすることで、交流することができた。上級生が下級生に教えるなど、リーダーシップを発揮する姿が見られた。 ○地域の方や保護者に協力していただき、登下校のパトロールを行った。学校・家庭・地域が連携して、子どもを見ることができた。 ●コロナ禍で学校に出向いていただく機会が減った。その中でも工夫しながら保々の自然を生かした取り組みを行うことができた。 	

重点目標 5	安全・安心な学校づくり	3
主な方策	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー等活用し、子ども・保護者の心のサポートへの取組。 ・いじめ、仲間はずしのない学校を、子どもたちと共に創造。 ・児童の安全意識・防犯意識づくりに取り組み、自分の命を守ることができる子の育成。 	
成果と課題	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎学期いじめアンケートと教育相談を実施し、いじめの早期発見。早期対応に努めることができた。日頃から、いじめを絶対に許さないという姿勢を示し、なかまづくりを大切に教育活動を進めることができた。 ●いじめは、今年度だけでも複数件起きている。今年度の学校評価アンケートにおいて、児童の「いじめやなかまはずしはしていませんか」の肯定的回答率は、89.3%だった。昨年度の93.7%から、減少している。いじめを認知し、解消に向けて取り組むことができているが、いじめをなくすために、さらに予防のための取り組みをしていかなければならない。 ○今年度は、3回の避難訓練を行った。様々な場面を想定して避難訓練を行うことができ、どの避難訓練においても「自分の命は自分で守る」という意識を持って、落ち着いて避難することができた。 	

2 改善方針

<p>●アンケートにおいて「読み・書き・計算の力」の項目では、保護者・子どもいずれの集計からも高い評価が示されたが、苦手意識を持っている児童が一定数いることも分かり、「よくわからない」と回答している児童が8.9%いる。苦手意識を持つ子どもたちへの丁寧な関りが必要である。</p> <p>●生徒指導対応や突然のコロナ対応など、瞬時に学校の方針を決めていかなければならない時など、職員が一つの方向に向かい、意見を出し合い進めていける集団となっていく必要がある。</p> <p>●聴き合い、語り合う授業について、人権・総合学習や生活科のみならず、各教科においてもその実現を図っていくことが大切である。また、そのことにより、子どもたちの学力向上につながるような取り組みや教員の研修も必要である。</p> <p>●今年度の学校評価アンケートでは、「自分のよいところが分かりますか」「自分の思いを相手に話せていますか」などの児童の肯定的回答が減少傾向にある。つながりを大切にするとともに、教職員が、子どもの思いや考えを丁寧に聞き取り、背景を含めて理解することで、子どもたち同士が聴き合い語り合えるような安心できる環境を作っていく必要がある。</p> <p>●いじめは、「どの子どもにも、どの学校にも起こりえる」という認識で、今後もいじめ防止のための積極的な取り組みと、いじめが起きた時には積極的認知と解消に向けた取組を進めていく。</p> <p>●ICTの活用について、授業で積極的に活用し、子どもたちが操作を理解し、慣れていく取組が必要である。と同時に、自分のスマホやゲームで間違った使い方（課金やゲーム依存、SNSを通じた悪口等）をしないよう、学年に応じた指導が必要である。</p> <p>●すべての学年において、様々な人権課題にせまりながら自身の生き方や考え方を問い直していく人権総合学習（生活科）を柱として、なかまづくりや学力保障の充実を図り、だれもが安心していきいきと学ぶことができる学校になるよう教職員の研修を積み上げていく。そして、子どもとともに学び、考え、反差別の集団になれるよう取り組んでいく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 泊山小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>○朝の学習におけるくりかえし基礎プリントの取組。 ○算数科における3年生のTT指導、4～6年生の少人数指導の習熟度別クラス編成。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎プリントの取組では、データを取って傾向を掴み、同じプリントを3回までくりかえし学習できるようにしたことで、しっかりと正答を導くことができていた。・習熟度別クラス編成をするためにレディネステストをすることで、児童の理解度・つまづきについて把握することができ、授業の進め方を考えることができた。・習熟度別クラスを編成することにより、習熟度が高いクラスでは発展問題への挑戦を、低いクラスでは基礎問題の徹底を図ることで意欲を高められた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・低学力傾向の児童が理解しやすい指導を行ったが、依然厳しい状態の児童がいる。	
重点目標2	心の教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>○Q-U調査・教育相談を行い、いじめの積極的認知を図る。 ○各学年学級で児童の姿に基づいた人権教育の取組を行う。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・オンライン学習明け等、適宜児童と一対一で話す機会を作り、児童が安心して学校生活が送れるよう対応した。・各学年部での人権学習の提案授業に取り組む等、学校全体で児童に付けたい力を共有することができた。・人権フォーラムの取組を全校児童に向けて6年生が発表することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・なかまづくりについて十分な共通理解が図られず、曖昧なまま進められていた。・コロナ禍により、人権学習の全体研修が学年部研修になってしまい、共通の児童・授業を見て意見を交換する機会が失われた。	
重点目標3	からだづくりの推進、安全意識の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>○楽しく進んで運動できる環境づくり ○保健指導・食育の充実 ○コロナ感染に対する「マスク着用」「フィジカルディスタンスの確保」「手指消毒の徹底」等の指導を行う。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度、コロナ禍で実施できなかった水泳指導を様々な工夫を用いて実施できた。・保健指導・食育について計画的に実施できた。・コロナ感染対策の態度が子どもたちに身につけてきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍において、バスケットボール等のコンタクトスポーツに対しても配慮が必要だったり、マスクを着用して運動を行わざるをえなかったりして、思ったような取り組みができなかった面がある。	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人1回以上の授業提案 ○ミニ研修会の開催 ○各担当からの提案についてビジョンの項目を明記 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一回以上の授業提案を行い、自分の授業に対する強み・弱みを明らかにして生かすことができていた。 ・ミニ研修会が研鑽を深めるために回数・内容とも充実したものだだった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が授業の在り方に大きく影響し、いろいろな制約のある中での取り組みとなり、計画的に行えなかった。 ・1人1タブレットの状況になり、ICTに関する研修も行ったが、指導者によって授業の中でタブレットの活用に差がある。 	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施。 ○ホームページでの教育活動の内容や児童の様子の発信。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートで保護者から概ね肯定的な評価を得られ、泊山小学校の教育に対してご理解をいただいている。 ・本年度ほぼ毎日ホームページの更新を行い、学校だよりも適宜発行したことで、日々の学校生活の様子を発信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、学校行事の縮小や中止が相次ぎ、保護者や地域の方々に学校へ来ていただく機会が少なかった。 	

2 改善方針

<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図り、習熟度別の少人数教育におけるそれぞれのクラスの特徴を掴んだうえで、児童が主体的に課題に取り組めるよう授業改善を推進する。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまづくりについて、年度当初に職員全体で共通認識を図り、学級の人権課題を明らかにしてその解決に向けた取組を推進する。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、自分の体を守る態度をしっかりと身に付けるよう指導し、制限がある中でも工夫しながら運動を楽しむ姿勢を求めていく。 <p>【重点目標 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの研修を進め、学習をより深めるツールとして活用される実践を行う。また、できるだけ年度上半期での提案授業研修を計画的に実施する。 <p>【重点目標 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における行事等の在り方を工夫して、保護者や地域の方々とのつながりを確保していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p><u>1. 基礎学力の定着と学力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るため、ぐんぐんタイムの学習内容を学年ごとに見直し、継続した取組を行った。 ・空き教室がなく習熟度別の授業ができない実態があるが、ITと打ち合わせを行い、個別の支援を行うことで学力の向上に努めることができた。 ・タブレットドリルを活用して個の学びに応じた学習場面を取り入れることができた。 <p><u>2. 授業づくりの工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力向上のための5つのプロセスを意識した授業づくりに取り組んだ。プロセスの「深める」に重点をおき、「深める」とはどのような姿なのかを全職員で共有し、「どう深めるのか」「何を深めるのか」について考えることで、各プロセスの組み立てを行った。 <p><u>3. 読書活動の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア、図書委員、教師等による読み聞かせの機会を多く設定し、読書活動を充実させた。 ・異学年との交流で「ふれあい読書」を行い、本に親しむ機会を持った。 	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p><u>1. 道徳教育・人権教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じた人権教育を行うことができた。 ・人権的な課題に対しては、子どものサインを見逃さず、何か問題が起こったときは学年集団で対応を協議し、全職員で情報を共有しながら指導に当たることができた。 ・今後も、様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を日々見逃すことなく把握するとともに、人権感覚を養う指導をしていく必要性を再確認した。 <p><u>2. 特別支援教育・教育相談の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修会を年3回行い、特別支援教育に関する研修の充実を図ることができた。 ・各クラスにおいて教育のユニバーサル化を進めることができた。 ・養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーと連携し、保護者・児童の教育相談を充実させた。 ・支援の必要な児童について、年度初めに共通理解を図り、不登校対策委員会とも連携し、組織的な対応をすることができた。 ・月1回の特別支援委員会では、日頃の児童の様子や支援の方法を共有した。議事録は全職員に回覧し、情報共有を図ることができた。 ・不登校対策委員会を定例化し、対応を担任任せにするのではなく学校として協議しながら進めていくことができた。 ・学期に1回いじめアンケートを実施し、生徒指導部会や校内いじめ防止対策委員会で情報共有を図り、早期解決に向けて組織的な対応をすることができた。 <p><u>3. 子どもが主体的に取り組む児童会活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動は、制限がある中、よりよい学校づくりのために自治的な活動を行うことができた。児童会活動では、自分たちの身の回りの生活を見直し、ろうか歩行運動やあいさつ運動に取り組むことができた。 ・11月にいじめ防止強化月間を設け、いじめのない安心できるなかまづくりについて各学級で話し合い、標語を作成掲示し、いじめ防止の意識を高めることができた。 ・基本的な生活習慣（ろうか歩行・あいさつ・掃除・ベル席・トイレのスリッパ揃え）については、引き続き指導していく必要がある。 	

重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p><u>1. 体力・運動能力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年が体力調査を実施した。調査結果を各家庭に配布し運動の啓発を行ってきた ・授業のはじめに本時の課題を提示し、めあてをもって活動に取り組むことができた。また、授業の終わりにはワークシートを使って振り返りを行い、次の活動へと繋げていくことができた。 ・人との距離を保ちながらも運動量が多くなるように意識して授業づくりを行い、体力の向上を図った。 <p><u>2. 健康教育・食育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで動画やスライドを作成し、行事食の紹介を行った。 ・食に興味を持たせるために、日めくりカレンダーを作成し掲示した。また、よく噛んで食べることの大切さや食品ロスを減らすことを呼びかけ、食の大切さを意識せていくことができた。 ・月に一度「メディアチェックデー」を設定し、メディアの使用頻度を減らす啓発活動を行い、メディアの使い方を見直す機会となった。 ・養護教諭と連携し、全学級で歯磨き指導、保健指導を実施した。 <p><u>3. 安全教育・防災教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期の始めには避難訓練を実施し、災害が起きた時の避難の仕方を確認することが出来た。また、防災教育も各学年で行い、防災ノートや防災みえから配信されている動画を活用して、授業時間外での避難の仕方について確認することができた。 	

重点目標 4	教師力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p><u>1. とともに学び合う教師集団の確立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部を中心に教材研究を深めたり、指導方法を検討したりして、研究主題（「なかまとともに学び、自ら考え向上しようとする子をめざして」～確かな学力を育成する授業づくり～）を意識しながら研修を進めることができた。また、全教職員が年に1回は指導案を作成し、授業公開・事後研修会を持ち、教師力の向上に努めた。 ・学期に1回ミニ研修週間を設け、他の教職員の授業を見て互いに学び合うことができた。 ・授業でのタブレット活用についても、学年部を中心に効果的な活用法を考え、互いに学び合うことができた。 <p><u>2. 危機管理意識の向上と実践</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理面で問題が起きた場合には、学校全体で即座に情報を共有し、職員全員で対応することができた。 ・コロナ対応として、消毒や換気などの徹底に努めた。 ・コロナ対応として、常に座席表や活動内容を記して残すようにした。 <p><u>3. 働きやすい環境づくりの構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務アシスタントやスクールサポートスタッフの支援により、職員の勤務時間は削減されている部分もあるが、新たに生まれてくる課題もあり、勤務時間の削減が思うように実行できているとは言い難い。 ・上記のような現状を少しでも解決するため、職員一人ひとりが目標退校時刻を見える化し付箋で掲示するようにした。また職員が互いに声を掛け合って早く退校できるよう意識した。 	

重点目標 5	地域と共にある学校づくりの推進	4
主な方策 成果と課題	<p><u>1. 吉田山をはじめ地域の特色を活かした学習・体験活動の推進</u> ・ここ数年で吉田山の環境が整備され、生活科、理科の学習や総合的な学習での森林教育・環境教育など、豊かな自然を活用した学びを行うことができた。</p> <p><u>2. 情報発信の充実（学校公開・通信・HP等）</u> ・授業参観や学校公開は、実施できる時期に密にならないよう持ち方を工夫して行った。コロナ禍で学校公開が思うようにできない代わりに、学校だよりやHP等でこまめに学校の様子を発信することができた。また、教育アンケートでいただいたご意見については、一つずつとりあげて丁寧に対応できた。</p> <p><u>3. 四日市版コミュニティスクールの推進</u> ・今年度も引き続きコロナ禍で、ゲストティーチャー等を招いての教育活動を行うことが大変厳しい状況であった。その中でも、防災教育やサツマイモ栽培などで地域の方に尽力いただき活動を進めることができた。今後も「学校・家庭・地域」のトライアングルを意識し、子どもたちのために協働して学校教育をすすめていきたい。</p>	

2 改善方針

・毎朝のぐんぐんタイムでは基礎基本の定着に向けて読み書き計算を中心に取り組んでいるが、学力差の解消は大きな課題である。今後も個別の支援を要する児童への対応に力を入れていく必要がある。人的にも時間的にも難しいところはあるが、可能な限り基礎学力の定着に向けて全職員で取り組んでいく。

・少人数指導やチームティーチング等を単元のねらいや子どもの実態に合わせて効果的に組み入れていく。

・ICTを活用する授業の充実については、コロナ禍での学び合いや協働的な学習に効果的に利用できるように今後さらに研修を進めることが喫緊の課題である。

・人権教育については、日頃の子どもの言動から、自他の人権を守ろうとする意識や態度を育てることがさらに必要だと感じている。全学年での取り組みを共有しながら今後も力を入れて指導していきたい。

・体育館改修のため体育館での運動ができずその項目の評価が下がっているが、改修後には昨年度のようにしっかりと取り組んでいきたい。

・学校教育活動アンケートの結果、「規則正しい生活」「あいさつ」「家庭学習の習慣」の面で昨年度よりも数値が下がった。これはコロナ禍で生活リズムが乱れたことが要因として挙げられる。家庭と協力して改善していけるよう保護者啓発していきたい。

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 ○今年度も、3～6年生の習熟度別少人数授業を行った。習熟度別少人数授業では、単元ごとに児童に自ら授業のコースを選択させた。児童の実態に応じて、コースごとに課題の与え方や、学習の進め方などを工夫したことで、安心して授業を受けている様子が見られる。また、少人数のため、きめ細やかな指導を行うことができ、児童が自信を持つことに繋がった。</p> <p>○ICT機器を有効に使用し視覚的支援を行なうことができた。90%以上の児童が「授業はわかりやすい」と回答している。基礎学力の定着は少しずつ見られてきたが、学力の底上げまでは課題が残り、更なる工夫が必要である。</p> <p>○朝の帯時間の学習によって、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の向上 ○タブレットなどのICT機器の活用により、自分の考えを持ったり、分かりやすく表したりする力がついてきている。また「話す力」については、発表の話型（結論→理由）が身につけてきている。</p> <p>▲「書く力」については、算数において式や図、表などで表すことができるようになってきたが、文章で自分の考えを表すことがまだまだ難しい。</p> <p>③読書活動を通じた豊かな想像力の育成 ○校長や司書、児童委員会による本（絵本）の読み聞かせやお薦めの本の紹介カード、昇降口への本の展示などを行い、本への興味関心を高める取り組みを行うことができた。また、定期的な読書週間を設定することで、保護者からも「親子で家庭読書に取り組む機会ができてありがたい」との声が聞かれた。</p> <p>▲児童自身の読書に関わる評価点は、さほど上昇していない。成長に合わせた読書指導の必要がある。また、教師だけでなく、子どもたちが活躍できる場面を引き続き多く持つようにしていきたい。今後も更に、子どもたちが本を手に取りやすい読書環境を設けていきたい。</p>	

重点目標2	豊かな人間性を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①互いに認め合う豊かな人権感覚の育成 ○11月の人権集会では、4年生以上の各学級が人権に係るいじめ防止標語の作成に取り組んだ。放送による集会となったが、標語を作成した高学年だけでなく、低学年の児童にも標語の意味やそこに込めた願いなどを十分に考えることができる機会となった。また集会後に各標語を掲示し多くの児童の目につくようにしたことも集会で考えたことを、さらに醸成させることにつながった。</p> <p>○各学級や学年で、子ども同士が互いの良いところを見つけ合う取り組みが広まった。子どもたちの自己肯定感を育む営みとなっている。結果として「学校が楽しく友達と仲良く過ごすことができる場所」となっている。（「学級のなかまや友だちと仲良くしている」について肯定的に答えた児童95.6%）</p> <p>○今年度もコロナによってさまざまな活動が制約された。そのことの意味を児童とともに考えることで、自分の健康だけでなく周りの友達や家族など、みんなの健康を守ることの大切さに気付くことができた。さらには、人の立場を考えた行動をとることの重要性も考えさせることができた。</p> <p>○Q U調査やいじめ調査と教育相談をリンクさせ、丁寧に個々の児童と対話をしてきた。その際、その子の良いところを一人ひとり伝えるように取り組んだ。また、非承認群の児童を客観的に把握できるので、日々の支援に役立てることもできた。一方で「自分には良いところがある」について肯定的に答えた児童が82.9%となった。取り組みを継続するとともに、良い所を認め合う学級の仲間づくりも大切にしていきたい。</p>	

<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>②基本的な生活態度の育成</p> <p>○全教員の共通理解のもと重点指導項目を設定し、年度途中で振り返りを行った。その都度新たに共通理解をしながら、組織的に指導してきた。（教職員アンケート「進んで組織的な対応に努めた」について肯定的に答えた教師が100%）</p> <p>○児童会が「いじめ防止、あいさつ運動、ろうかの右側歩行」について取り組みを行った。ろうかの右側歩行については具体物を作って呼びかけることで、良い変化をもたらすことができた。</p> <p>▲「学校のルールや約束事を守っている」について肯定的に答えた児童が84.2%であった。学級や学校が安心できる場所として機能するための土台は、規範意識の定着が不可欠である。学級開きや学年当初の取り組みを充実させ、より高い規範意識を目指していきたい。</p> <p>▲挨拶については、今年度も課題が残った。（児童82.0%、保護者77.8%）児童が主体的にあいさつする取り組みを、児童会を中心に行っていきたい。学校だけでなく、保護者や地域とも連携し誰もが元気よく挨拶できる三重西地区を目指したい。</p>
--------------------------	--

<p>重点目標 3</p>	<p>すこやかな体をつくる</p>	<p>3</p>
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①進んで運動に親しみ体力向上を図る活動の推進</p> <p>○今年度も新型コロナウイルス対策で様々な活動に制限がかかる中、感染状況に左右されずできるだけ子どもたちの教育活動が保障されるよう取り組み、体力の向上に努めた。（体力テスト、水泳の授業、運動会、朝のかけ足週間、なわとび週間等）</p> <p>○体育の授業において5分間運動に取り組むなど日々の体育科の学習を充実させることができた。</p> <p>②基本的な生活習慣の定着</p> <p>○7月末から夏休みに入り9月はオンライン授業ということで長期間自宅中心に過ごすこととなった。このことは、子どもたちの生活リズムにも影響を与え、「早寝・早起き・朝ごはんができています」という子どもたちが昨年度より減少している。早寝早起き朝ごはんについては、養護教諭や栄養教諭の指導を繰り返し行ってきたが、保護者に対しても啓発をしていきたい。</p> <p>③健康・安全意識の向上</p> <p>地震・火事について授業中や休憩時間中の場面を想定した避難訓練を年3回実施した。非常災害時の避難の仕方について、体験・理解をさせることができた。また、3、4年生では防災に関する実践的な取り組みを行っており、防災意識の向上につながっている。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>①校内研修の充実 ○研修委員会からの提示を基盤として、どの学年部でも授業改善の取り組みを行い、提案授業も児童の実態に合わせてよく練られており充実していた。また、ICT機器を利用した授業提案や事後研修会でのICT機器を利用した話し合いを行ない、教員が自らの授業スキルを磨き質の高い授業の提供に努めた。</p> <p>②特別支援教育の充実 ○校内通級に通うことで、児童の教室での学習意欲が高まり、家庭でもできることが増え、保護者も児童の成長を感じることができた。校内通級の公開日を設けているが授業内での参観は難しかったので、通級指導内容がわかるように、綴りを作り閲覧できるようにした。通級児の担任だけでも参観できるように校内体制を組む必要がある。 ○今年度は、県立聾学校の先生による研修を2回開き、難聴児の理解を教職員全員で深めることができた。 ○外部講師の児童観察やケース会議を開き、支援の必要な児童について複数で考え、全教職員に共通理解を図り、複数支援体制を行った。子どもの特性に寄り添った指導を引き続きしていきたい。</p> <p>▲児童アンケート「学習や生活で困ったときに、先生に伝えることができる」の肯定的回答が76.3%で、昨年より3%下がった。きめ細やかな対応は行ってきたが、困り感を教師に伝えられない児童が23.7%に増えたことを真摯に受け止め、子どもとの対話を心掛けたい。年度末に丁寧に対応することで、年度初めの戸惑い感を減らすようにしたい。</p> <p>③学びの一体化での授業研究 ○互いの実践について話し合ったり、保育参観をしたりするなど保幼小中の連携を図ることができた。 ○中学校区人権フォーラムの還流を高学年部で行なった。5・6年生混合グループを作り、6年生が主になって課題解決に向けて話し合いを進めることができた。「いじめ」について多様な考えを聞くことで心をゆさぶる取り組みとなった。</p> <p>④働きやすい職場環境の充実 ○働き方改革による勤務時間削減をさらに進めていきたい。</p>	

重点目標 5	地域と共にある学校	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>①コミュニティスクールによる学校運営の充実 ○授業を参観したうえで話し合いの時間を持ち、委員から具体的な意見を聞くことができた。 ○今年度は、実施方法や形態を工夫して地域の教育力（「いきいきサロン」「しろやま倶楽部」「地域防災リーダー」「どんぐりの会」「クラブ地域先生」「地域子ども教室」等）を活用することができた。</p> <p>②家庭・地域・学校の協働の推進 ○子どもを守る安全パトロール隊の見守りにより、子どもたちが安全に登下校できた。 ○学年通信や学級通信、ホームページを利用して、子どもたちの様子を伝えることができた。しかし、時間的余裕がなく限られた時間の中での発信になっており、情報量が少なかった。</p>	

2 改善方針

- ・今年度、習熟度別少人数授業を行い、基礎学力の定着が見られてきた。しかし、算数科では学年が上がるにつれて内容が難しくなり、学力差が生じやすい。よりきめこまやかな指導をしていくためにも、中学年からの少人数授業が望ましい。そのための人員確保が必須である。
- ・子どもの体力向上に向けて、感染症対策を取りつつ、積極的に運動に触れる機会を設定し、児童の運動への興味関心を高めていきたい。
- ・生活リズムが崩れてしまう子どもたちが居り、健康教育を定期的に行うことで、正しい知識を得て、自分の生活をより良いものにしようとする力をつけていくことが必要である。また、子どもたちと丁寧に話をし、心の安定を図っていきたい。
- ・子どもの成長は家庭での姿が反映されやすいことから、保護者と連携をより密にするとともに、学校教育に関心をもってもらえるように、啓発していく必要がある。
- ・勤務時間の削減が急務であり、効果的な教育活動を検討し、業務の精選を行ないたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大谷台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	問題解決能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○タブレット（発表ノート）をあらゆる教科の場で活用することができた。</p> <p>○論理的思考にもとづき、書くことの指導に重点的に取り組むことができた。書く機会を多くもったことで、書くことに慣れ、楽しむ子も増えてきた。</p> <p>○自分の考えを表現する際、理由を必ず入れて発現したり書いたりすることができた。</p> <p>○児童の書いた新聞や自主学習ノートを校内の掲示板で広めるなど、様々な取り組みを進めたことで、児童の書くことに対する抵抗が薄れ、自主学習に対する意欲的な姿勢が見られるようになった。</p> <p>○学校HPの更新を学年ごとに一か月に2回以上することを目標に取り組み、各学年で更新を継続することができた。</p> <p>△書く力と話す力がさらにつながるとよい。</p> <p>△算数科の基礎学力の弱さが感じられる児童が存在する。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○学校アンケート（児童）において、「いじめや差別はいけませんか」という項目の肯定的回答率が全校でほぼ100%であった。また、「学校生活のきまりを守れましたか」という項目についても、90%以上を超えていることから、お互いを大切にしようとする姿勢が身につけていることがうかがえる。</p> <p>○自己肯定感に関する項目で、高学年が肯定的回答をしている児童が大幅に増えた。子どもたちをつなぐ取り組み、自信をつけさせる取り組みをどのように行ってきたのかを交流する事で、全校としての取り組みとしていけるとよい。</p> <p>○毎週月曜日の打ち合わせや校内巡視の結果をもとに、ケース会議を細かく開くことで、指導方針の確立や該当児童の安定を図る事ができた。</p> <p>△いじめ認知の中で今年目立ったのが、「SNSトラブル」である。高学年になる前から、情報モラルの授業やネットトラブルの授業に取り組む事で、次年度の改善に生かしたい。</p> <p>△「学校は楽しいですか」という項目において、中学年は90%を超えているが、低学年では、15%もの児童が、否定的回答を行っている。</p> <p>△校舎内での過ごし方や、あいさつなど、学校として改善しなければならないことも多いため、全職員で共通の指導を次年度もしていきたい。</p>	
重点目標3	健康な体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○体育の授業では、カードを活用し、学習活動に生かすことができた。</p> <p>○体育委員の児童が全校児童に向けて縄跳びの技の披露を行う機会を設けたことにより、児童の縄跳びへの意欲が高まった。業間に縄跳びの練習をする児童が多くみられた。</p> <p>○感染症対策・校内整備を行ったことで、子どもたちもマスクの着用・手洗いの徹底を行うことができています。</p> <p>○給食中の黙食も徹底できている。</p> <p>△5分間運動を、単元に合わせて取り組むことが難しかった。</p> <p>△安全な廊下歩行ができていない。走らないように、教員で点検したり走らない工夫をしたりして、子どもたちの指導にあたっている。</p> <p>△清掃活動について、静かにできるよう指導していく。</p>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○規模を縮小した形だったが、たんぽぽバザールを開催することができた。事前にたんぽぽの担任が1年生の教室でたんぽぽ学級の紹介を行った。</p> <p>○生指と連携し、特別な支援が必要な児童に対して効果的な支援を行うことができた。支援計画を立てた際には、必ず振り返りの会議をもって評価を行い、PDCAサイクルで支援することができた。</p> <p>△人手が足りないため、普通学級に籍のある、支援の必要な児童への手立てが立てられないことがある。</p> <p>△サポートルームの活用について、どのような子を対象とするのか、どのような活動をするのか等について職員に周知し、計画的に進める必要がある。</p>	

重点目標 5	家庭・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○ホームページを月に2回以上更新することを、継続することができた。</p> <p>○授業参観の際に、校内の掲示板に自主学習ノートを掲示し、保護者に自主学習について知ってもらうことができ、協力を得られた。</p> <p>○コロナ禍ではあったが可能な限り、地域人材を活用して、ゲストティーチャーとして教育活動の支援に取り組んでもらい、連携を図ることができた。</p> <p>○GS運営協議会において、学校の教育活動（環境整備）に対しての意見をいただき、教育活動に生かすことができた。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○校内研修における授業提案について、実際に授業を参観できる方法を考え、できる限りの形で研修を深めることができた。</p> <p>○大学の教授を招聘し、研修の中で出てきた課題について助言をいただき、その後の授業に生かすことができた。</p> <p>○人事評価制度を活用し期首面談や期末面談の中で、現状や困っていること、また今後に向けての取り組みについて共通理解を図ることができた。</p> <p>△互いに授業を見合うことが少なかった。</p> <p>△優れた授業のHow toを学ぶ機会が取れていなかった。</p> <p>△タブレットを使った授業をの交流を行えなかった。</p>	

2 改善方針

- ・1年生へのたんぽぽ学級の紹介は、特別支援学級に対する理解を深めるために有効であった。さらにこの取り組みを拡大し、たんぽぽバザールの在り方を考えていく。
- ・特別な支援が必要な児童は、様々なつながりの中でその支援を考えていく必要がある。校内特別支援委員会の中で、細かな見立てを行い、具体的な支援計画を立て、実践していく。
- ・コロナ禍において、心の状態が不安定になる児童が増したが、その都度ケース会議を開き対策を考えてきた。担任のみ、学校のみで抱えるのではなく、子ども家庭課、病院などと積極的に連携をとっていく方が効果が得られる。
- ・学校のルールの細かな部分が定着していない現状がある。期間を限定して学校のきまりを焦点化し、きまりを意識して行動するなど、教師も児童も共通理解しやすいものを設定し、全員で取り組んでいけるようにする。
- ・教員間で、強制的にお互いの授業参観をする機会を設ける。
- ・期間を決めて、指導教諭の授業を公開し学びの機会を設ける。
- ・働き方改革の研修会を開催し、限られた時間の中で高い教育効果を得られるような指導の仕方、業務の進め方について考える機会を持つようにする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着（問題解決能力の向上と学び合いの授業づくり）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ①基礎的・基本的な知識と技能の定着 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③問題解決能力の育成</p> <p>【成果と課題】 ・コロナ禍において、タブレットの活用は、画面上で友だちの意見を共有できるため有効であった。 ・研修の窓口となっている算数科では、授業の流れを「復習・課題・問題・交流・振り返り」としたことで、多くの児童が見通しをもって授業に参加できるようになった。 ・ICTの職員研修を積極的に行うことで、ICT活用の意識が高まり、授業で活用できるようになってきた。 ・問題解決能力の育成について、算数以外の実践の共有を図っていく必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成（人権教育を柱にした仲間づくりの推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ①なかまづくりの推進 ②人権教育の推進 ③道徳教育の推進 ④特別支援教育の推進</p> <p>【成果と課題】 ・今年度は全学年で道徳の研究を行い、指導方法等多くの研修を積むことができた。 ・人権週間を設けて、人権に関する授業を行ったり、子どもの作品を掲示したりすることで人権教育に対する意識を学校全体で高めることができた。 ・学期に1回のいじめアンケート、教育相談を実施することで、早期に問題を発見し対応することができている。 ・児童会を中心に学校の課題について考え、毎月目標を設定して児童主体で取り組むことで、ベル席等の課題が改善してきている。 ・児童会を中心に、地域ボランティアへのお礼の会を計画・実施することができた。 ・校内支援委員会を中心に、教職員全体で児童に関する情報を共有することで、学校全体で子どもの成長を見守ることができた。 ・人権学習や道徳で学習したことが日常生活に汎化されていない場面がある。保護者の協力を得ながら、繰り返し指導していく必要がある。（子ども同士のトラブル）</p>	
重点目標 3	健やかな体の育成（健康・安全についての意識の向上）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ①規則正しい生活リズム ②病気の予防（手洗い・うがい・歯磨き指導） ③体育科の授業を中心にした体力づくり（児童の実態に合わせて運動強度を考えた授業づくり）</p> <p>【成果と課題】 ・規則正しい生活リズムが体に与える良い影響について、保健だより等で啓発できた。 ・コロナ対策（マスク着用、手洗い指導、うがい、はみがきチェックなど）を継続的に行うことにより、児童の「健康」に対する意識が高まった。 ・感染状況を踏まえて指導計画を作成したり、オンライン授業による子どもの体力低下を考慮したりするなど、児童の実態に合わせた授業を行うことができた。</p>	

重点目標 4	信頼される学校づくり（学校公開・情報発信の充実と地域連携）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ①学校の情報発信の充実 ②PTA・地域との連携 ③学校評価を活用した学校づくり</p> <p>【成果と課題】 ・コロナ禍ということもあり、保護者が来校する機会が減っている。今後はwithコロナを念頭に置き、保護者が学校の活動に参加できるような工夫をしていく必要がある。 ・保護者が来校する機会が減っているため、学校通信やホームページなどで学校の様子を積極的に発信することができた。 ・今年度もたくさんの地域の方々が、登下校の見守り、学校の環境整備、教育活動のボランティアとして積極的に活動いただいた。</p>	

重点目標 5	教職員の資質向上（課題とまとめを意識した分かる授業の実現）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 ①授業改善のための校内研修の充実 ②目的意識を持った研修の推進 ③OJTの推進 ④学校業務改善の推進</p> <p>【成果と課題】 ・今年度は、道徳の授業公開を行い、全学年で研修を積むことで、道徳の授業の面白さを再確認することができ、教職員の資質向上に繋がった。 ・ICT関連の研修を定期的に行ったり、ICTサポーターと相談したりするなどして、教職員や児童のICT活用能力を育むことができた。 ・各教科・担当の専門的知見を生かしたミニ研修等を積極的に行うことで、どの学年も一定水準の授業づくりに取り組むことができた。</p>	

2 改善方針

<p>【重点①】 ・ICTの年間指導計画について、子どもの実態や可能性を十分に考慮し、中学校に向けて系統性のあるものに更新する。</p> <p>【重点③】 ・コロナ対策（マスク着用、手洗い指導、うがい、はみがきチェックなど）を継続的に行うことにより、児童の「健康」に対する意識を高めるとともに、自分や周りを大切にすることを育む。</p> <p>【重点②④】 ・地域ボランティアとの関わりを通して、子どもたちが感謝の気持ちを持ち、人間力を高めることができるよう、道徳をベースにして、子どもの主体的な取組を展開していく。</p> <p>【重点⑤】 ・コロナ対策による日々の作業やICTの活用・管理など、マストな学校業務が肥大化している。教職員の負担を軽減するため、思い切った業務の精選・効率化を図っていく。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力を高める	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①自ら考え、語れる子 ②基礎基本の確実な定着 ③ICT機器を日常的に活用する授業</p> <p>【成果】 ①キーワードを提示して、自分の考えを説明できるような手立てをした。 ①話す場面の機会をたくさん作り、少しずつではあるが自分の思いを伝えることができるようになってきた。 ②読むこと・書くことに対して抵抗がある児童が多いため、国語では音読の時間を確保したり、作文や日記を書かせたりして、読み書きを習慣づけてきた。 ②基礎基本を定着させるために、授業開始5分間を計算練習の時間にして、定着をはかった。</p> <p>【課題】 ③ICTの活用について、どんな単元や学習でどう利用できるか、もっと情報交換できるとよい。 ③タブレット機器が配布されたことで分からないことがあると子どもたちが自分で調べようとする姿が見られるようになった。ただ、情報量が多く、どれが自分の求めたことなのかが分からないことがあり、見極め指導が必要だと感じた。</p>	
重点目標 2	心を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①きまりを守る ②仲間と協力する子 ③キャリア教育の推進 ④読書活動の推進</p> <p>【成果】 ①社会生活を見据え、正しい行動を促している。学校・学級でのルール徹底させている。守ろうと努力する姿が見られるようになってきた。 ②活動を自分たちで考えさせることで、きまりを守るように声掛けをしたり、班や学習活動では、リーダーとなる子や得意な子が苦手な子を教えたりする姿が見られた。 ②コロナ禍で班活動は制限されたが、児童に任せ、見守る場面を増やしていった。そうすることで、自分達の力で達成できる喜びを知り、協力できるようになってきた。</p> <p>【課題】 ③キャリア教育の一環である、職業体験が実施できなかった。 ④図書館まつりの期間は図書室へ足を運ぶ子が増えたが、それ以外に子どもたちの読書への意欲を向上させることができるような取り組みを行うことができなかった。</p>	
重点目標 3	健やかな体をつくる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①自らすすんで命や体を大切に子どもを育てる ②根気強くやり遂げる子</p> <p>【成果】 ①コロナ禍ということもあり、自分の命は自分で守ることやそのためにはどんなことをすればいいかなどを指導した。 ①休み時間はできる限り外に出て遊び、戻るときは手洗いを忘れずに行う子どもたちが増えた。 ②自分のがんばりを目に見えるようにした。このようにがんばりを認めて、元気づけながら、根気強くやり遂げられるようにしている。</p> <p>【課題】 ①高学年女子児童の外遊びの頻度が少ない。</p>	

重点目標 4	教師力を高める	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>具体的方策</p> <p>①わかる授業づくりのための工夫 ②個に応じた教育の充実 ③働き方についての意識改革の推進</p> <p>【成果】</p> <p>①児童や保護者とコミュニケーションを取ることを通して、児童一人ひとりの実態を把握することを心掛けてきた。児童の特性に応じた授業の準備・教材の工夫をし、様々な課題に対応できるように授業を進めてきた。</p> <p>①教員全員が研究授業を行い、わかる授業づくりに向け授業改善に努めることができた。</p> <p>①研究テーマの「伝え合い考え合う授業」になるよう、多様な見方や、意見が出る発問を考えられるよう努めた。</p> <p>①四日市プロセスに沿って、学習を進めている。特に、プロセス2で子どもたちが興味・関心をもてるように、具体物の提示や発問の工夫をしている。</p> <p>②個に応じた教育の充実ということで、算数では習熟度別少人数での授業を行うことができた。</p> <p>③事務アシスタントを有効的に活用することができている。</p> <p>【課題】</p> <p>③子どものためになると思いやってみたいこと、自分の研鑽のためにやりたいことをやりきることができなかった。時間を確保できるよう、取捨選択し計画的に進めていきたい。</p> <p>③働き方についての意識改革は、職員数が少ない本校においては、一人の教員が抱える仕事が多いため、個人として意識はしていても根本的な業務が減らなかでは難しいと感じている。</p>	

重点目標 5	地域とつながる	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>具体的方策</p> <p>①コミュニティスクールを推進する ②単学級であることをメリットに ③教育活動を地域に公開する ④地域の人とつながる場を工夫する ⑤通信やHPによる情報発信の充実</p> <p>【成果】</p> <p>①コロナ禍で行事が減っているが、地域の方が来校された時には、児童にたくさんの声をかけて頂いている。地域と学校のつながりを感じている。</p> <p>④4年生の防災たんけん隊の取り組みでは、地域の方々にお世話になり、地区の防災に関する情報を学ぶ場となった。</p> <p>④クラブ活動に地域の方に指導者として指導してもらったり、図工科で各学年に応じた陶芸の作品作りを指導してもらったりした。</p> <p>⑤通信やHPで、児童の様子や頑張りを伝えた。</p> <p>【課題】</p> <p>⑤近隣校と行事や学習内容の交流を持ちたいが、調整や打ち合わせで時間をとられることもあった。</p> <p>④昨年と今年度は、コロナ禍ということで地域との関わり合いの活動の展開が難しかった。その中で4年生としては行事を何度も延期しながら地域の人と関わる機会を持つように調整をした。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校で児童数が少ないこともあり、人間関係が固定されている。決まった見方ではなく、新たに友だちの良さが発見できるような取り組みを考えていかなければならない。様々な場面で深い学びにつながるよう、教師間での協力体制、保護者・地域との連携が必要不可欠である。 ・ICTを活用した授業は積極的に行うことができた。基礎基本が定着していない児童への個別の対応もしてきた。しかし、得た知識を活用した話し合いが一部児童だけで行われてしまっている。全員が自ら話し合い活動に参加したいと思えるような発問などの工夫を行う必要である。 ・職員が各種研修で学んだことを、子どもたちに還すため、教職員の情報交換やOJTを大切にしたい。 ・「地域とつながる」ことを考えた取り組みが十分にできなかった。コロナ禍であっても地域と関わる活動を考えていきたい。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上（ビジョン1）（※ビジョンV追記を）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主体的・対話的で深い学びのある授業と協働的（聴き合える関係）な学びの創造 全教員で「研修の日常化」を図り、互いの授業改善を進めてきた。全ての学級で、普段から、聞き合う関係を土台にした「わからない」を中心に据えた授業づくりを進め、児童一人一人に学びのある学習の実現を目指すことができた。そして、聞き合う関係を軸とした授業づくりの成果として、コロナ禍におけるオンライン学習においても、タブレットを介した協働的な学習を進めることができた。</p> <p>○学習習慣・読書週間の構築 学校評価アンケートにおいて「家庭学習に取り組んでいる」という児童の回答が増えた。タブレットを使った宿題（学んでE-net!やタブレットドリル）を取り入れたり、自主学習ノートを掲示したりする取り組みの成果といえる。 読書意欲の向上を目指し、委員会が中心となって、児童の視点で本の紹介を行う「読書の木」に全校で取り組んだ。また、読み聞かせやブックトークを定期的に行ってきた。その結果、学校では、意欲的に読書をする児童が多い。</p>	
重点目標2	健康・体力の向上（ビジョンI）	4
主な方策 成果と課題	<p>○運動の中心となる面白さを大切にされた体育科の授業づくりと運動の日常化につがる教育活動の創造 授業のはじめを学びのはじまりとして捉え、新5分間運動を取り入れ、主運動とのつながりを意識した授業を進めてきた。また、体力テストの結果から、全学年で投運動に取り組み、体力向上を図った。 運動の日常化を目指し、体育の授業を土台に、児童が「したくなる」「やりたくなる」活動（課題）の創造を大切にしてきた。そして、業間休みには教員も外へ出て児童と遊ぶよう努めた結果、進んで外で遊ぶ児童の割合が増えてきている。</p> <p>○家庭と連携した健康指導（生活リズム・メディア教育） 生活リズム向上推進校となり、生活リズムチェックシートの実施や「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマにしたオンライン講演会開催等、家庭と連携した児童の生活リズム向上の取組を進めることができた。メディアリテラシー教育と関連付けた保健指導や子ども自身による生活リズムの振り返りによって、子どもの健康への意識の高まりが見られた。今後も、継続した取り組みが望まれる。</p>	
重点目標3	豊かな人間性の育成（ビジョンIV・V） 自己指導能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○保護者や地域の教育力を活かした活動の推進 専門的な知識や技能を持った方に授業の中で学習支援員として活躍いただき、質の高い授業の保障ときめ細やかな指導ができた。そして、地域の方々の協力を得て、地域の風土や文化を生かした体験的な学習を全学年で進めた。また、運動会や持久走記録会、子どもの未来を語る会では、PTA役員の方々と感染症予防対策について検討し、保護者の協力体制の中で実施をすることができた。</p> <p>○道徳・人権教育の充実、一人ひとりが認め合える仲間作り 道徳の授業を基盤としながら、あらゆる活動や行事の中で児童の人権感覚を養う取り組みを進めることができた。なかまづくりの研修会を通し、児童間の繋がりを強く、確かなものへと高めていくための実践を振り返ったり、その方策について学び合ったりすることができた。また、教師が自身の人権課題にも目を向けることができた。</p> <p>○メディアリテラシーの養成 1学期は、各学年で「e-ネット安全・安心講座」を開催し、家庭でのメディアルールについて話し合う機会を持った。そして、2学期は、外部講師を招き、全校児童と保護者を対象にメディアとの付き合い方についての講演会を行った。このような各学年の実態や能力に応じた指導と児童が自分の生活を振り返る機会をもつことで、メディアリテラシーの養成を進めることができた。しかし、ZOOMを使用する際のチャットの使い方等、今後も継続して見守りと指導を行っていく必要がある。</p>	

重点目標 4	安全安心な学校（ビジョンⅢ）	3
主な方策 成果と課題	<p>○問題の早期発見・早期対応と自己指導能力の育成 情報共有シート等を使い、全職員が日常的な児童の様子共有、共通理解に努め、一貫した対応を目指した。また、学期ごとにいじめアンケートや教育相談を実施し、問題の早期発見・早期解決を目指した。児童の行動の問題や支援が必要とされる姿に気づいた場合は、担当職員が中心となっていじめ対策委員会やケース会議等を開催し、組織として対応策を検討することができた。学校生活上の問題では、単にルールを提示するのではなく、児童自身が自分を振り返る機会や問題の解決に向け考える機会がもつことに努め、児童の自己指導能力の育成を目指した。</p> <p>○チーム学校の体制整備とその活用 学校評価アンケートで、学校の発信力の項目でその評価が上がった。学校だよりのタイムリーな発行やホームページの更新回数を増やし、学校の取り組みへの理解と協力を得ることができた。</p> <p>子どもたちの登下校時の安全確保のため、PTA役員を中心に保護者や地域のボランティアの方に登校の見守りや通学路の安全点検に協力していただいた。また、児童が地域の自主防災会の方々と一緒に体験的に防災について学ぶ機会を設けたり、PTAとの連携で外部講師による講演会を実施し、東日本大震災で被災をした当事者と出会う機会を得たりしたことで、地域の住人として児童自身の防災に対する意識を高めることに繋がった。</p>	

重点目標 5	学び合う授業の追求（ビジョンⅤ）	4
主な方策 成果と課題	<p>○研修の日常化（日々の授業公開・同僚性の構築） 普段から教員同士で授業を見たり、授業内容について話したりする文化を教職員間で広げることができた。学校全体で授業づくりに取り組み、職員室では、日常的に学年を超えて、共に教材研究を進める姿が見られた。</p> <p>○「三重北モデル」の実践と深化 小規模校のため教員の異動の影響が大きく、年度当初の課題は、「三重北モデル」の共通理解である。今年度も4月当初に、実際の授業に基づいて授業づくりや子どもの見方についてを共通理解する研修会を設けた。そして、年間を通して全教員が授業を公開し、研修会を重ね、大学連携を活用し、専門的な視点から助言をいただきながら三重北モデルの深化を図っていった。更に、公開研究会では、「三重北モデル」について広く校外（市内）の教員と意見交流を行うことができた。今後も「三重北モデル」の継承、深化を進めていくために、様々な場面で三重北モデルに戻り、自分たちが目指す子どもの姿を言葉で再確認しながら、教育実践を進めていく必要がある。</p> <p>○ICTを活用した効果的な授業の創造 タブレットが、いつも身近にある学習環境が整備されたことによって、教員も児童もタブレットを1つの文房具として扱うことが進んだ。そして、資料の収集や作成、発表の道具として、タブレットを選択できる環境は、在籍する児童の多様化が進む中で、それぞれの効果的な学習に繋がった。夏休み後のオンライン学習期間には、ICTの活用について職種を超えた学び合いが生まれ、教員も児童も情報活用能力の向上を図ることができた。</p>	

2 改善方針

○年度当初の校内研修だけでなく、日常的に「三重北モデル」の内容に触れながら授業をふりかえり、OJT等によって「三重北モデル」の共通理解とさらなる深化を目指す。

○地域コミュニティの核として、地域の教育力を活用した学校づくりや小規模校の強みを生かした取り組みを継続させていく。また、カリキュラムマネジメントを進め、各学年の年間指導計画の中に地域と連携した学習活動を位置づけ、継続、発展させていく。

○地域の方を招いた体験的な学習活動や文化・芸術に触れる活動等を通して、豊かな人間性を育むとともに、将来に具体的な夢を描き、学ぶ意欲、向社会行動につながるキャリア教育の推進を目指す。

○生活リズムの向上の取り組みやメディアリテラシー教育の取り組みの継続によって、自己指導能力の育成を図るとともに、誰もが気持ちよく、安心して授業に臨める環境づくりに努めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	共に学び、確かな学力を獲得する授業の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業では、つきたい力を明確にし、めあてや課題を考え、授業を行うことができた。・子どもの意見や考えを元に、課題やめあてを考えさせることで、子どもの主体性を引き出すことができた。・ICT機器を十分に活用することができた。子どももICT機器の操作に慣れてきている。・ICT機器を活用することで、理解が深まるような提示をすることができた。・児童の活用の仕方について研修を進めることで、有効な場面が分かってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ渦の中、ペア学習やグループ学習に積極的に取り組むことができなかった。・コロナウイルス感染防止をしながら、子どもたちの意見を交流させ、深めていく授業力を高める必要性があると感じている。・今後、共に学ぶ協同的な学びのためにICTをどう使うと効果的か研修する必要がある。	
重点目標2	心の教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・学級で起こった課題を教材化したり、その内容に当てはまる教材を扱うことで、当事者意識を持って考えることができるようになってきた。・子ども同士をつなぐ仲間づくりを充実させ、学級学年としての集団作りができた。・何か問題が起こった時に、教師と共に振り返りをすることで、自分の行動を見つめ、問題に向き合い、これからのことを考えることができた。・教材をもとに、今までの自分と向き合いこれまでの自分がどうであったか、また自分がどうありたいかを考える姿が見られた。・けやきっ子十か条を意識して取り組み、6年生として下の学年のお手本となれるよう活動できた。・コロナによる人権学習を通して、自分の差別意識を見直し、どうしていくといいかを考えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・自己肯定感や自己有用感を高める取り組みが今後も必要である。	
重点目標3	体力、健康、安全意識の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・体育の授業の中で、どの子どもたちも十分な運動量を確保できるように取り組んだ。・日々の生活の中でふり返る活動を充実させ、意識の向上を図ることができた。・外遊びを奨励して、体力の向上に努めた。・毎学期、食育や保健指導をしたことで自分の健康や食生活を見直すことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・かけ足記録会の取り組み期間が短くなってしまい、昨年度より走り込みはできなかった。	

重点目標 4	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、ICT機器をたくさん使用することができた。そのため、教師も子どももICT機器の操作方法に慣れた。 ・学年団でしっかりと話し合い、互いのスキルを高め合うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用については、十分使用できたものの、深い学びにつなげることが、まだまだ不十分であった。 	

重点目標 5	地域・家庭と協働する学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、社会見学がなかなかできないなか、地元の産業である万古焼の体験をすることができた。受け入れていただいた地域の方にとっても感謝している。 ・学年団として家庭と協力し、課題解決に向けて努力を重ねることができた。 ・四日市の地域学習として「四日市公害」について、教育アドバイザーの先生から学ぶことができた。また、「四日市公害と環境未来館」への見学につなげることができた。 ・コロナ渦で学校での子どもの様子を見ていただく機会が少なかったが、スポーツフェスティバル、マラソン記録会、授業参観（地区別）は参観の機会が持ててよかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けて情報発信を、より積極的に行えるように改善していきたい。 	

2 改善方針

・新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、子どもたちが深い学びができるような授業改善を進めていく。→教科書をなぞるのではなく、課題に対して「自分の考えを書く、話す、全体で深める、ふり返る」活動を定着させる。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部東小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	保護者や地域に信頼され、安全で安心な学校	4
主な方策 成果と課題	<p>○4年目になる、コミュニティスクールの取り組みが進んできている。外部の声を基にした取り組みが進められ、さらに効果的に協働できると良い。</p> <p>○保護者対象にアンケートを実施して、学校教育に対するニーズを把握したり、達成度の状況を確認したりすることで、学校教育ビジョンに反映させるなど教育活動を見直し、改善につなげることができた。また、米作り、クラブ活動、読書推進にかかる取り組み、采女城址の見学、学習の森やトンボの池の環境整備等の教育活動に、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。今後も家庭や地域と協力しながら子どもを育てるという姿勢を大切にしていきたい。</p> <p>○学校だより、学年通信、ホームページ等で、学校からの発信について約9割の保護者から賛同を得た。さらに充実させていくと同時に、オープンスクールや懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。</p>	
重点目標 2	一人ひとりのニーズを把握し、困り感に応じた指導・支援	3
主な方策 成果と課題	<p>○5・6年生において教科担当制を実施したことで教材研究の充実及び学年団で指導する体制が組めた。</p> <p>○3年生以上の算数科で、少人数授業、T.T.を実施したことで、算数に苦手意識を持っていた子どもたちに学習意欲を持たせることができた。</p> <p>○家庭学習に継続し取り組んだことで、基礎的な学力、家庭学習の習慣が定着した子どもが増えてきた。</p> <p>○職員会議、児童対応委員会、教育相談、カウンセリング等で、特別な支援が必要な児童について、共通理解と支援の方法を話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。</p> <p>○生徒指導委員会や代表委員会の子どもから、挨拶や学校生活のルールについて全校にはたらきかけを行ったことで、子どもたちへの意識付けになり、徐々に子どもたちの行動に表れてきているが、今後も継続した取り組みが必要である。</p> <p>○職員会議、児童対応委員会、打ち合わせを通じて、子どもの事態の情報を全職員が共有した上で指導する体制が構築されている。</p> <p>○保健委員会の活動の一環として、保健委員会の子どもが行った「早寝・早起き・朝ごはん」等の活動によって、子どもの健康に対する意識を高めることができた。</p> <p>○基礎学力や学習習慣の定着が図れられない子どもに対して個別支援に心がけた。</p>	
重点目標 3	子どもの学ぶ喜びにつながる研修を進める学校	4
主な方策 成果と課題	<p>○子どもが学ぶ喜びを実感できる授業の創造を目指した。授業のめあてを指導者が子どもたちに伝え、最後に今日の学習で学んだことを書かせる授業づくりに取り組んだ。</p> <p>○年間7回の全体提案授業を行うことで、教材や指導方法についてより深みのある研修が実践でき、指導力の向上につなげることができた。</p> <p>○夏季校内研修会や日常的なミニ研修会、研修会後の振り返りなど、自分たちで研修を進めたり、自分の実践につなげようと意識したりすることができた。</p> <p>○授業公開週間を通じて、時間を見つけてお互いの授業を見合うことができた。</p> <p>○年間に3回外部講師を招聘し、全クラスを参観していただき、講評していただいた。毎回コメントを送っていただきそれぞれの改善点を明らかにすることができた。</p> <p>○学校全体として、主体的、対話的な学び合いを目指し取り組む雰囲気ができつつある。更に校内研修の取り組みを進め、授業の質の向上を目指したい。</p>	

2 改善方針

【重点目標1 保護者や地域に信頼され、安全で安心な学校】

- ・コミュニティスクールの組織を見直す。新たに自主防災協議会・内部っ子はげまし隊・学童見守り隊も組織に位置付け、「トンボ・ホタルの里」の管理や「学習の森」での取り組みなど児童とともに活動が活発になるようにする。
- ・保護者や地域の連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実を図る。

【重点目標2 一人ひとりのニーズを把握し、困り感に応じた指導・支援】

- ・学力調査やNRT検査などの分析結果をもとにして授業改善を行い、学習意欲が継続するような学習課題を設定する。
- ・子どもたちの家庭での学習習慣や基礎学力の定着に効果がみられた。今後も子どもたちの実態に応じて、課題の内容、量などを検討しながら取り組みを進めていく。
- ・少人数教育・習熟度別教育やTTについては、ICTの活用や学習集団編成や指導方法等、子どもの実態に応じ、より効果的な運用について研究していく必要がある。
- ・教育的支援を必要とする子どもについては、今後も児童対応委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係諸機関と連携をとりながら支援体制づくりに努める。

【重点目標3 子どもの学ぶ喜びにつながる研修を進める学校】

- ・児童にとっての課題を見極め、教師の力量を高めていく校内研修の充実を図る。

自己評価書

四日市市立 中央小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の実施 ①新学習指導要領・新教育プログラムの確実な実施 ②GIGAスクール構想によるすべての子どもたちの個性に合わせた教育の実現 ③論理的思考力を高める授業づくり ④小規模校を活かした体験型学習の充実 ⑤「読む・話す・伝える」読解力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台タブレットを活用しての授業や家庭学習の取り組みを行い、個に応じた学習ができるように努めることができた。今後は、つけていきたい力を明確に、効果的な活用方法を考え、取り組みを進めていくことが課題である。 校内研修として「論理的思考力を高める授業づくり」をテーマに児童が主体となる授業づくりに取り組み2年目となる。「20の観点」や学習用語を意識して指導することで児童につけたい力を系統的に指導することができた。結果、学校評価アンケート「自分の力で問題を解決している」と肯定的に答えた児童が96%となり、児童自身が学びに手ごたえを感じ、学習活動を深めていくことができた。 小規模校の特色を活かし、異学年交流を積極的に行った。縦割り班での除草作業や業間遊び、異学年グループでの清掃活動を通して、関わりの幅を広げるとともに、高学年としての意識を高めることができた。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成 ①違いや良さを認め合い、支え合う子どもの育成をねらいとした人権教育 ②自立と共生の基礎となる道徳教育 ③多文化共生社会に向けた教育実践 ④自己有用感・自尊感情に基づくキャリア形成（異学年交流活動）	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き授業力向上週間において人権学習の授業公開を行った。授業後、校内で人権教育に関するミニ研修会を複数回持ち、自分たちの人権感覚を磨くことに繋げることができた。学校評価アンケートにおいて、「友達との関係づくり」や「困っていることなどを話すことができる」と肯定的に答えた児童が昨年度に比べ、10ポイント上昇した。なかまづくりを土台に「人を大切にする」気持ちを育み、思いを出し合いながら学級づくり、学校づくりを行ってきた成果である。 小規模校の特色を活かし、少人数の中で一人ひとりが活躍できる場を設定し取り組みを進めてきた。「みてみて集会」では、がんばってできるようになったことや特技を全校集会で発表している。発表を通して、みんなから認められ、自信を得る経験を積み重ね、自尊感情を育むきっかけとなっている。結果、学校評価アンケートにおいて「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた児童が89%となった。一方で悩みを抱えている児童も一定数いることがわかった。引き続き、家庭と学校が連携し小さな変化を見つけ、児童を見守ることを大切にしていきたい。 	

重点目標 3	健康・体力の向上 ①体育・保健の見方・考え方を働かせる学習過程の構築 ②心も体も前向きになる健康教育 ③安全意識・危機管理意識の向上 ④基本的な生活習慣の習得と定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活のきまり」や生徒指導上の申し合わせ等、問題となる事項については毎日の職員打合せで検討・確認し、迅速に指導を進めることができた。学校評価アンケートにおいて、例年の課題であった「規範意識」について、90%以上の保護者が向上したと感じている結果となった。 ・年間3回の栄養教諭による食育指導、また、日常的な給食指導で、バランスよく食べる、三角食べ等、体を作るために必要なことを習慣づけることができた。 ・コロナ禍で従来のように警察の方等に来ていただいていた交通安全教室はできなかったが、DVDを使って各学年に合わせた安全教育を行うことができた。 	

重点目標 4	保護者・地域との協働 ①「学校の今」の積極的発信 ②個に応じた家庭学習・自主学習 ③教育支援ボランティアの活用 ④社会に開かれた教育課程 ⑤地域資源を活用した体験活動	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに家庭学習の手引きを配付したり、学期に1回家庭学習チェック週間を設定したりすることで保護者にも子どもにも意識づけされる良い機会となった。ただ、学校アンケート結果から、「毎日だいたい学年×10分以上」していた児童の家庭学習時間が減少した。8割を超える児童が家庭学習の習慣がついているが、全児童に学力保障していくために、家庭と連携し、タブレット端末を使った家庭学習等手立てを考え、取り組みを進めていく。 ・「学校の今」を伝えようと、学校の日常をホームページに積極的に発信してきた。今後は、オンライン等で情報や意見を受信できる機会をつくっていくことや家庭や地域とも連携しながらメディアリテラシー教育を計画的に位置付け取り組みの充実を図っていく。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・学力学習状況調査等の結果が上昇している中で、さらに全ての教職員が研修に参加できる体制づくりを図っていく。具体的には、ICT機器を有効に使い、参加できない教職員も教材研究等の時間に研修を深めていく。また、教員がさらに力量を高めていくため、ミニ研修を設定し同僚性の高まる取り組みの充実を進めていく。また、小規模校のメリットを最大限活かし、遠隔交流を通して、子どもたちに多様な意見を基にして話し合いを深め、自分とは違ったいろいろな考えがあることに気づく取り組みを進めていきたい。 ・異学年交流については、学習活動の中で計画的に取り組む学年が増えてきた。子どもたちの自主的な活動を促しながら、他者を思いやる気持ちを育てる取り組みを進めていきたい。 ・コロナ禍において地域交流をすることが難しい状況ではあるが、本校には地域に伝わる伝統文化がたくさんある。今後は地域の人材活用をコミュニティスクールからの発信により企画運営するなど地域の参画をめざした学校づくりを行っていきたい。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・学習形態の工夫（少人数授業・TT）、さわやかタイム・モジュールを活用した取組・授業における「めあて」「振り返り」の定着、家庭学習の習慣化を図る取組 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">○算数のまとめテストは初回に比べて最終の定着率が27%も上がっており、少人数授業やTTによる取り組みの成果が見られた。プリントやドリル等を活用した漢字・計算のくりかえしの学習により学力が徐々に定着してきた。○字数制限をしてまとめさせたり、キーワードを使って短文や振り返りを書かせたりすることで、伝えたいことを焦点化してまとめることができる児童が増えてきた。○めあてや振り返りを学年に応じてノートにまとめさせることにより、既習内容を根拠にして自分の考えが導けるようになってきた。・家庭学習における児童の状況把握（時間（学年×10分）や内容）を音読カードや家庭学習チェックカード等で取り組み、家庭との連携を進める必要がある。・学習した言語は、日常生活の中で使うことを意識させていく取り組みを進める。	
重点目標2	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・スーパー橋北っ子に基づく基本的な生活習慣の定着、家庭との連携・人権感覚・自尊感情を高める取組の推進、体験活動・キャリア教育の推進・互いがつながり、励まし合う仲間づくりの推進・「考え・議論し、行動する」道徳の授業の推進・読書の意欲が高まる取り組みと読書環境の充実 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">○児童会を中心に「スーパー橋北っ子」の取組を行った。あいさつについては4.1%の伸びが見られ、これは1年間を通した児童会の取り組みにより全校的に定着してきた。○いじめ防止標語作り・児童会でのピンクシャツ運動や授業参観での道徳授業公開など、全校で同じ時期に取り組み、保護者に発信していくことにより、いじめを許さない土壌はできあがってきた。・子どもたちの自尊感情や自己有用感はまだ依然として低いままである。子どもたちの価値観を広げていくために、日々、多様な価値観を意識づける多くの言葉かけを、まずは大人から発信していくことが重要である。【（児童）自分のことでいいなと思うこと】79%（19%増）・読書週間や長期休暇の本の貸し出し・学級文庫の蔵書の充実等、どの子どもにも本に親しむ機会をより一層取り組んでいくことが大切である。【（児童）読書は楽しい】84%（5%減）	

重点目標 3	健康でたくましい体の育成	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5分間運動の導入、運動に親しむ意識、毎日の健康観察（ハンカチチェック） ・ 保健だより等の発行、様々な想定避難訓練 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の健康観察の実施により、自分の健康状態を知ることで健康管理の意識が高まった。今後も、常に継続的で達成感を持てるような保健指導を考えていきたい。【（児童）健康に気をつけている】94%（2%増） ○ 避難訓練については、行動も早くなり、自分で考えて行動できる児童の姿が見られた。【（児童）安全に気を付けている】97%（3%増） ○ 体育の授業の充実についての達成目標90%に対して、92.6%の結果となり、達成目標を超えることができた。 ・ コロナ禍で運動が制限されることもあるが、現状の中で工夫して体育の授業を行うとともに、5分間運動の実践や全校遊びの充実を図ることも必要である。【（児童）外遊びや運動に取り組む】78%（2%減） ・ 体力テストの結果をもとに、各学年の弱点分野の向上に向けて、5分間運動の取り組みを継続するとともに、系統的な指導計画の作成にも取り組むことが必要である。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	4
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の資源や地域人材を活用した小規模の良さを生かした活動の推進（コミュニティスクール） ・ 学校だより、学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信 ・ 学校評価、学校関係者評価を踏まえた改善活動の推進 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動に制限のある中、限定的ではあったが、地域連携の取組を引き続き行うことができた。今後は活動内容を工夫しながら、地域とのつながりを再構築し、地域学習や地域・保護者と連携した学習の充実を進めていく。 ○ 今後も、学級・学校便りやホームページなど、互いに声をかけ合ってさらに増やしていき、情報発信に努める。特に、ホームページは、保護者・地域の閲覧数も多いため、今年度の月2回以上の更新を進めていく。【（保護者）情報発信】92%（3%増） ・ 今回のアンケートで数値の低かった項目や学校運営協議会でいただいたご意見をもとに取組を強化していく。【（保護者）学校の教育活動は満足できる】85%（3%減） 	

重点目標 5	教職員の指導力の向上	3
主な方策	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伝える力」を高め、ともに問題を解決する授業づくりの推進 ・ 外国語活動の推進 	
成果と課題	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で少人数教育やT.Tを取り入れ、きめ細やかな配慮を心掛けるとともに、基礎基本の内容や、既習事項の積み上げが生きる授業づくりを進めてきた。そのため、子どもたちが問題を解決するときに、学んだことを少しずつ積み上げ、解決する力がついてきた。【（児童）授業で習ったことがよく分かる】91%（6%増） ・ ICTの効果的な活用を今後も探り、授業の中でどのように位置づけるのか、情報活用能力のどこにポイントを置くのかを検討していく必要がある。 ・ 全学年で学年の実態に合わせた外国語活動を実施することができた。今後は、英語表記の基本の定着にも力点を置き、取り組みを進めていく。 	

2 改善方針

【確かな学力の定着】

- ・家庭学習を家庭でチェックする表などを使って、学校と家庭との連携を進める。
- ・学習した言語は、日常生活の中で使うことを意識させていく。

【豊かな心の育成】

- ・児童の自尊感情や自己有用感をより高めていくために、児童の価値観を広げることが必要である。そのため、大人がいろいろな日常の場面からその子らしさや、良い行動を認める言葉かけを積極的に発信していく。
- ・視覚的に自分自身の成長を感じられる取り組みを多く行い、人と比べるのではなく、自分の中に価値観を見出せるようにしたい。

【健康でたくましい体の育成】

- ・現状下でできることを考えて改善しながら、行事の工夫を進めるとともに、体育指導の充実を図っていく。そのために、ICT機器（タブレット）の活用など児童が運動に関心を持つ環境整備も進めていく。

【地域とともにある学校づくり】

- ・学校運営協議会（コミュニティスクール）を中心に、学校を支援する組織の整備を進める。
- ・通信・ホームページ等を活用して学校からの情報発信を活発にし、よりよい活動を協力して計画・実施する体制を構築していく。

【教職員の指導力の向上】

- ・校内研修において、学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを進めるために、「何を、どのように学ばせるか」を意識した「めあて」の設定を行い、子どもたちがめあてを意識する授業実践を進めていく。
- ・一人1台端末の活用を視野に入れ、効果的な活用と、個別最適な学びに対応できるような指導力の向上を目指す。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">誰もがわかりやすい授業の実現習熟度別少人数授業の推進英語コミュニケーション力の向上 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">今年度も対話的な学びやグループ学習を仕組むことに制限があり、学習の形態を模索した。その中で「誰もがわかりやすい授業」をめざし、授業のUD化に重点をおいて取り組んだ。外国籍児童の多い本校において、学習用語の獲得・理解に視覚支援・具身体物操作は欠かせないこと、授業時間内での習得・活用の時間の保障が必要であることが確認された。少人数授業を重視したことで、きめ細やかな指導をすることができた。今年度はコロナ禍で、9月は1日5限のオンライン授業を行った。今後もさらにICTを活用した授業づくりを進めていく。YEFとのTTを通して、児童が興味をもてる外国語活動を計画・実施できた。	
重点目標2	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">多文化共生教育の推進キャリア教育の促進地域を愛する児童の育成 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">多文化共生教育及びキャリア教育については、各学年が各教科、学活、総合的な学習の時間、道徳の中で、人権教育と関連させて取り組んできた。ただ、コロナ禍の状況で、地域・人との出会い、つながりの部分で計画していた学習はできなかった。児童会を中心に、「あいさつ運動」や「廊下歩行」「時間厳守」等に取り組むことができた。いじめ防止強化月間を中心にして、授業等で各学級でいじめを許さない心を育てる授業に取り組んだ。コロナの影響で学習発表会を実施できなかったが、各学年で総合的な学習の時間・生活科を通して、キャリアパスポート等、地域に関する学習を進めることができた。	
重点目標3	体力向上・健康増進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">運動能力・体力の向上健康の増進学校危機管理体制の強化 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none">昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための様々な制約がある中で、の体育授業となり、運動量の確保と活動内容の選択が難しかった。その中でも、多様な運動を経験できるよう工夫して行うことができた。水泳指導も感染対策を講じながら安全に実施することができた。運動会などの体育的行事もやり方を工夫して行うことができた。健康増進の取り組み（手洗い）について、児童保健委員会を中心に行うことができた。また、養護教諭からのこまめな情報共有や注意喚起によって、学校全体で健康への意識を高めることができた。本年度、全校一斉の避難訓練及び緊急引き渡し訓練および不審者対応訓練を実施することができなかった。緊急事態での行動について、実践を通して改善点を確認できなかったため、来年度の実施方法など検討する必要がある。	

重点目標 4	開かれた学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域との連携 ・笹川子ども教室との連携 ・情報発信の充実 ・児童・保護者アンケートや学校評価を生かした学校経営 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域や外部との交流は難しい面があるが、状況を加味しながら、地域行事の参加や、ゲストティーチャーを呼ぶなどの工夫をして、少しでも子どもたちが豊かな体験ができるようにしていきたい。 ・学校評価アンケートでは、全ての項目において肯定的な評価の割合が高かった。開かれた学校づくりの項目の肯定的な評価は約95%であった。 ・ホームページの更新は、管理職だけではなく、各学年も定期的実施していく必要がある。 ・子ども教室を利用する児童について、学習の定着を含めた子どもの様子についての情報を共有し、継続して見守っていく。 	

重点目標 5	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協働による児童の育成 ・中学校区学びの一体化による保幼中との連携 ・研修組織を生かしたよりよい授業づくりの推進 ・勤務時間の効率的な活用 ・子どもと向き合う時間の確保 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も保幼中との交流は縮小されているが、算数科で中学校教員による乗り入れ授業ができた。 ・SSSや業務アシスタントの活用により、事務的な仕事にかかる時間を縮小することができた。さらに、コロナ禍により、行事が精選され、ZOOMによる研修会が増えるなど、子どもと向き合う時間の確保につながっている。 ・子どもと向き合う時間を大切にするための工夫をしながら、教科担任制の導入を進めていきたい。 	

2 改善方針

- ・外国人児童が増加する傾向にあり、日本語指導の確立や学級集団づくり、多文化共生教育の充実に向け、より一層、教職員が一丸となって指導に当たる必要がある。
- ・コロナ禍により、教職員の働き方及び学校体制の見直しが行われるよい機会となった。一方で、子どもたち同士の交流や体験的な活動が制限されてしまった。引き続き、子どもたちが協働的・主体的に学べるよう工夫・改善していきたい。
- ・一人一台タブレット端末をより効果的に活用するため、教職員のICT活用指導力を高めていく必要がある。
- ・教職員の働き方改革を進め、子どもの学びをより充実させるため、子どもの実態に合わせた教科担任制の導入を工夫していきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな心の育成 ～違いを認め合い、互いの気持ちを考えることができる子～	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 人権教育・道徳教育の推進 (2) 教育相談の充実 (3) 特別支援教育の充実 (4) 読書活動の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育委員会から委託を受けたアクションプランの事業を通して6年生が身近な人権について考え、地域の方に発信して意見をいただいたり、人権フォーラムで中学生とオンラインで交流をしたりすることで、学びを深めることができた。 ・ なかまづくりの研修では、各自がレポートを書き、それを交流し、多様な意見を聞くことで、学級経営に生かすことができた。 ・ コロナ禍により、実際にゲストティーチャーを招いたり、発信したりするなど、人と出合わせる機会を設定することが難しかった。オンラインを活用してできた学年もあるので、来年度も状況に合わせて工夫していく必要がある。 ・ スクールカウンセラーがWISCなどの発達検査を実施できたため、その結果を担任と相談・共有することができた。また、ケース会議にSSWが参加して専門的な観点から意見をもらうことができた。 ・ 参加型の全体研や公開週間、支援ファイルのミニ研修などを通して、特別支援教育についての理解を深めることができた。 ・ 児童にとって必要な支援について、介助員、支援学級担任、交流学級担任がより連携をとったり、研修を深めたりする必要がある。 ・ 昨年度同様、感染症対策をしながらの取り組みとなったが、図書委員による読み聞かせや図書館くじを使って、図書室の利用を促すことができた。 	

重点目標2	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 「わかる」「できる」を大切にした授業づくり (2) コミュニケーション力の育成 (3) 少人数指導の充実、ICT機器の活用</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育アドバイザーの先生に何度か授業を見ていただくことで、授業づくりについて見直す機会となった。個別の支援が必要な児童も多いので、どう関わっていくのかという視点での授業改善も考えていきたい。 ・ 児童がどこでつまづいているのかを把握することで、手立てがうてる。個別の状況をつかみ、丁寧な指導を行うことを続けていきたい。 ・ 接触を避け、言葉だけでコミュニケーションをとっていくことは、非常に難しい。次年度は、「書く」ことに重点を置いて指導していきたい。 ・ 「場」を経験することについてくる力も大きいですが、今の状況では、身近な人という狭い範囲でしか活動できていない。今後、状況が落ち着けば、校外の人や大人と関わる「場」を設定していきたい。 ・ 1人1台タブレットの配付により、長期休みや、欠席のときにもオンラインで子どもたちとつながることができた。中学年以上ではGoogle classroomなどを活用できている。 	

重点目標 3	健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～	3
主な方策 成果と課題	(1) 基本的な生活習慣やルールの定着 (2) 体力の向上 (3) 健康・安全意識の定着 【成果と課題】 ・代表委員会などで既存のルールについて児童が話し合う機会を設け、自分たちで守ることができるルールについて考えることができた。廊下歩行などの様子を見ると、数年前と比べルールを守って生活する姿がみえる。 ・挨拶については、本校の課題である。挨拶をされると返すが、自分から挨拶できる児童は少ない。引き続き、学級指導や委員会活動などを通して自発的な挨拶の習慣を身につけさせたい。 ・昨年度同様、新型コロナウイルスの影響もあり、体育や体育的行事に制限がかかったが、水泳指導ができたことは大きな成果であるといえる。熱中症対策が必要な夏場も、対策を取りながら体育や体育的行事を実施することができた。また、オンライン授業で保健指導ができたことで健康について考える時間を例年より多くとることができた。 ・高学年になるにつれて、就寝時刻が遅くなり、生活リズムが整わない児童も見られる。また、オンライン授業や先の見えない不安等でストレスを抱え、保健室に相談に来る児童も増えている。 ・今年度は例年と比べて、交通事故やけがが多かった。	

2 改善方針

・学力向上に関して、チェック、アクションの部分の強化を図りたい。弱みの分析を行い、必要な手立てを行っていく。アンケートから学習意欲の低さがみえてきたので、自主学習や少し難しい課題に挑戦させるなど、学習意欲を引き出すような課題を提示していく。

・学習意欲については、家での過ごし方に影響を受けているところもある。家庭との連携を大切に、改善していくことで、学習への取り組み方も変化してくると思う。

・算数などでは、ノートや発表などの考える過程も丁寧にみていくことで、どこでつまづいているのかを把握し、授業の工夫に生かしていく。

・教育相談では、普段から児童一人一人と話をする時間を確保し児童の小さな変化を見逃さないようにしたい。また、学校生活でのルールでは、既存のルールが自分たちで守れているのか、必要なのかを繰り返し考えていくことでルールの定着を図りたい。挨拶は、自分から挨拶をする意義について児童に考えさせ、全校で取り組んでいく。

・生活リズムに関しては、継続して生活リズムチェックを行い、児童の生活を把握した上で指導を行う。保護者にも、通信等で生活リズムの重要性を伝えていく必要がある。

・児童のストレスに対しては、無理に担任や親に相談するようはたらかけるのではなく、養護やカウンセラーと連携して自発的に相談できるよう促してしていく。

・けがや交通事故に対しては、交通安全教室を実施するなど、交通安全指導にも力を入れて意識の向上に努めていきたい。